

県道円座香南線建設に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告

第1冊

川岡遺跡

2004.10

香川県教育委員会  
香川県埋蔵文化財センター  
香川県土木部

県道円座香南線建設に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告

第1冊

川岡遺跡

2004.10

香川県教育委員会  
香川県埋蔵文化財センター  
香川県土木部



SR01 出土縄文土器



SR01 出土 石鏃・石錐

## 序 文

川岡遺跡は県道円座香南線建設に伴い発掘調査が行われた香川県高松市岡本町に所在する遺跡です。

発掘調査は、香川県教育委員会からの委託で、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが平成13年度に実施し、縄文時代晚期、弥生時代後期、鎌倉時代の遺構が検出されました。特に、縄文時代晚期の土器やサヌカイト片が多量に出土した旧河道や、弥生時代後期の灌漑用水路群などを検出したことによって、この地域の開発史の一端を明らかにすることができました。

整理作業は財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが平成15年8月から10月まで実施しましたが、平成16年3月31日の財団の解散に伴い事業を引き継いだ香川県埋蔵文化財センターによって「県道円座香南線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 川岡遺跡」として刊行することとなりました。

本報告書が香川県の歴史研究の資料として広く活用されますとともに、埋蔵文化財に対する理解と関心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から出土品の整理、報告書の刊行に至るまでの間、高松土木事務所及び関係諸機関、地元関係者各位に多大な御協力と御指導をいただきました。ここに深く感謝の意を表しますとともに、今後とも御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成16年10月

香川県埋蔵文化財センター

所長 中村仁

## 例　　言

1. 本報告書は、県道円座香南線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告の第1冊で、香川県高松市岡本町に所在する川岡遺跡（かわおかいせき）の報告を収録した。
2. 発掘調査は、香川県教育委員会が香川県土木部道路建設課から委託され、香川県教育委員会が調査主体となり、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが調査担当者として実施した。
3. 発掘調査は、以下のとおり実施した。

### 予備調査

調査期間 平成13年11月14日～平成13年12月7日

調査担当 廣瀬 常雄・藤好 史郎・木下 晴一・柏 徹哉・山元 素子・石原 徹也  
松田 朝由・武井 美和

### 本 調 査

調査期間 平成13年12月20日～平成14年3月31日

調査担当 山元 素子・石原 徹也・松田 朝由

4. 調査にあたっては、下記の関係諸機関の協力を得た。記して謝意を表したい。(順不同、敬称略)  
香川県土木部道路建設課、香川県高松土木事務所、地元自治会、地元水利組合
5. 本報告書の作成は、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが実施した。  
本報告書の執筆・編集は山元が担当した。  
なお、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが平成15年度末で廃止となったことから、報告書刊行業務は香川県埋蔵文化財センターが実施した。
6. 本報告書で用いる北は、国土座標系第IV系の北であり、標高はT.P.を基準としている。  
また、遺構の略号は以下のとおりである。  
SD：溝状遺構 SK：土坑 SP：ピット SR：自然河川 SX：性格不明遺構
7. 遺構断面図および土器観察表の中の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色帖1998年度版」による。  
また、残存率は図化のために径を計測した箇所の全体に対する割合で、完形品に対する割合ではない。

# 本文目次

第1章 調査に至る経緯と経過	
第1節 調査の経緯	1
第2節 調査の経過	1
第2章 立地と環境	
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の成果	
第1節 予備調査の結果	7
1. 予備調査の概要	7
2. 予備調査の出土遺物	7
3. まとめ	15
第2節 土層序	22
1. I 区の土層	22
2. II 区の土層	25
第3節 遺構・遺物	31
1. I 区の調査	31
2. II 区の調査	36
第4章 まとめ	
第1節 遺構の変遷	76
第2節 S R01・02出土のサヌカイトについて	78

# 挿図目次

第1図 遺跡の位置 (1/10,000)-----	2	出土遺物 (1/4)・(1/2)-----	40
第2図 周辺の遺跡 (1/30,000)-----	5	第37図 II区火葬1出土遺物 (1/4)・(1/2)-----	40
第3図 予備調査トレンチ位置図 (1/2,000)-----	8	第38図 II区SX01断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)-----	41
第4図 予備調査トレンチ土層柱状図1 (天地 1/1,000)・(上下 1/40)-----	11	第39図 II区SR01断面図 (1/40)-----	42
第5図 予備調査トレンチ土層柱状図2 (天地 1/1,000)・(上下 1/40)-----	12	第40図 II区SR01最上層・上層出土土器1 (1/4)-----	43
第6図 予備調査トレンチ土層柱状図3 (天地 1/1,000)・(天地 1/40)-----	13~14	第41図 II区SR01最上層・上層出土土器2、 下層出土土器、その他出土土器 (1/4)-----	45
第7図 予備調査出土土器 (1/4)-----	15	第42図 II区SR01最上層・上層出土土器1 (1/2)-----	47
第8図 2IS1トレンチ出土土器 1 (1/2)-----	16	第43図 II区SR01上層出土土器2、 下層出土土器 1 (1/2)-----	48
第9図 2IS1トレンチ出土土器 2 (1/2)-----	17	第44図 II区SR01下層出土土器 2 (1/2)-----	49
第10図 2IS1トレンチ出土土器 3 (1/2)-----	18	第45図 II区SR01その他出土土器 (1/2)-----	50
第11図 2IS1トレンチ出土土器 4 (1/2)-----	19	第46図 II区SR02断面図 (1/40)-----	50
第12図 2IS1トレンチ出土土器 5 (1/2)-----	20	第47図 II区SR02石・土器出土状況 (1/40)-----	51~52
第13図 2IS1トレンチ出土土器 6 (1/2)-----	21	第48図 II区SR02上層下部出土土器 1 (1/4)-----	53
第14図 2IS1トレンチ出土土器 7 (1/2)-----	22	第49図 II区SR02上層下部出土土器 2 (1/4)-----	54
第15図 I区北壁断面図 (1/80)-----	22	第50図 II区SR02石・土器除去中出土土器 1 (1/4)-----	55
第16図 調査区割図及び上層区位置図 (1/1,000)-----	23	第51図 II区SR02石・土器除去中出土土器 2、 その他出土土器 1 (1/4)-----	56
第17図 I区東壁断面図 (1/80)-----	24	第52図 II区SR02その他出土土器 2 (1/4)-----	57
第18図 II区北壁断面図 (1/80)-----	25	第53図 II区SR02その他出土土器 3 (1/4)-----	58
第19図 II区南壁断面図 (1/80)-----	26	第54図 II区SR02上層下部出土土器 (1/2)-----	59
第20図 II区東壁断面図 (1/80)-----	27	第55図 II区SR02石・土器除去中出土土器、 その他出土土器 (1/2)-----	60
第21図 II区西壁断面図 (1/80)-----	28	第56図 II区包含層出土遺物 (1/4)-----	61
第22図 II区中央部断面図 (1/80)-----	29	第57図 II区SK01・02・04断面図 (1/40)-----	62
第23図 I区遺構配置図 (1/200)-----	30	第58図 II区SK03・05平・断面図 (1/20)、 出土遺物 (1/4)-----	62
第24図 I区SD01断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)-----	31	第59図 II区SK08平・断面図 (1/20)-----	63
第25図 I区SD01・02・03断面図 (1/40)、 出土遺物 (1/4)-----	32	第60図 II区SX03平・断面図 (1/40)、 出土遺物 (1/4)・(1/2)-----	64
第26図 I区SD04断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)-----	32	第61図 II区SD01~04断面図 (1/40)-----	65
第27図 I区SD05断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)-----	33	第62図 II区SD01・02出土遺物 (1/4)・(1/2)-----	66
第28図 I区SD09遺物出土状況 (1/20)、断面図 (1/40)、 出土遺物 (1/4)-----	33	第63図 II区SD03a・b断面図 (1/40)-----	66
第29図 I区SD08・10・11断面図 (1/40)-----	33	第64図 II区SD03a・b出土遺物 (1/4)・(1/2)-----	66
第30図 I区北部包含層断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)-----	34	第65図 II区SD04a・b断面図 (1/40)-----	67
第31図 I区SP01平・断面図 (1/10)、出土遺物 (1/4)-----	35	第66図 II区SD04a・b出土遺物 (1/4)・(1/2)-----	68
第32図 I区SK03平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)-----	35	第67図 II区SD05断面図 (1/40)-----	68
第33図 II区集石遺構平・断面図 (1/2)-----	36	第68図 II区SD06断面図 (1/40)-----	68
第34図 II区遺構配置図 (1/200)-----	37~38	第69図 II区SD06出土遺物 (1/4)・(1/2)-----	69
第35図 II区集石遺構出土遺物 (1/2)-----	39	第70図 II区SK06平・断面図 (1/20)-----	69
第36図 II区SK06平・断面図 (1/20)、			

第71図	II区SD07遺物出土状況2(1/20)	69	第75図	II区SD07出土遺物(1/4)・(1/2)	73
第72図	II区SD07遺物出土状況3(1/20)	70	第76図	II区SD08出土遺物(1/4)・(1/2)	73
第73図	II区SD07遺物出土状況4(1/20)	71	第77図	II区SR03断面図(1/40)、出土遺物(1/4)	74
第74図	II区SD07断面図(1/40)	72	第78図	II区その他出土遺物(1/4)・(1/2)	75

## 表 目 次

第1表	発掘調査および整理作業の体制	1	第5表	川岡遺跡出土石器(2)	78
第2表	予備調査トレンチ一覧(1)	9	第6表	SR01出土石器	79
第3表	予備調査トレンチ一覧(2)	10	第7表	SR02出土石器	80
第4表	川岡遺跡出土石器(1)	78	第8表	SX01・火坑1出土石器	81

## 図版目次

図版1	I区①全景(北から) II区①③全景(南から)		図版9	II区SK05遺物出土状況(東から) II区SX03断面(南東から)	
図版2	I区全景(南から) II区①全景(北から)		図版10	II区SD01・02断面(北東から) II区SD02断面(東から) II区SD02・03断面(北東から) II区SD03・04断面(東から)	
図版3	II区②南半・④全景(南から) II区③全景(南から)		図版11	II区SD04a・b断面(南東から) II区SD04a断面(北から)	
図版4	I区北壁土層(東端付近)(南から) II区②南壁土層(西から5m付近)(北から)		図版12	II区SD05断面(西から) II区SD06断面(西から)	
	II区③西壁土層(南から14.5m付近)(東から) II区④西壁土層(北から4m付近)(東から)		図版13	II区SD07トレンチ1断面(南から) II区SD07トレンチ2断面(南から) II区SD07トレンチ3断面(南から) II区SD07トレンチ4断面(南から)	
図版5	I区SD01断面(北から) I区SD02・03断面(北から)		図版14	II区SD08断面(南から) II区SR03断面(南西から)	
	I区SD04断面(南東から) I区SD05断面(南東から)		図版15	II区SD07遺物出土状況(南東から) II区SD07遺物出土状況(北から) II区SD07遺物出土状況(南から) II区SD08全景(北から)	
	I区SD08断面(東から) I区SD11断面(北から)			I区遠景(南から) II区②④遠景(東から)	
	I区SD09遺物出土状況(北から) I区SP01遺物出土状況(南から)			予備調査出土土器 21SI1トレンチ出土石器(1)	
図版6	II区集石遺構(西から) II区SX01遺物出土状況(北から)			21SI1トレンチ出土石器(2)	
図版7	II区SR02石・土器検出状況(東から) II区SR02石・土器検出状況(北西部)(南西から)			I区SD09・北部包含層出土遺物 II区集石遺構出土遺物(1)	
	II区SR02石・土器検出状況(北西部)(北西から) II区SR02石・土器検出状況(北西部)(北西から)				
図版8	II区SR02東アゼ断面(南東から) II区SR02中央アゼ断面(西から)				
	II区SR01断面・火坑4部分(南から)				

- 図版16 II区集石遺構出土遺物（2）  
II区SK06出土遺物
- 図版17 II区火焚1・SX01出土遺物  
II区SR01最上層・上層出土土器
- 図版18 II区SR01上層出土土器  
II区SR01下層出土土器
- 図版19 II区SR01上層出土石器（1）
- 図版20 II区SR01上層出土石器（2）  
II区SR01下層出土石器（1）  
II区SR01下層出土石器（2）
- 図版21 II区SR01下層・その他出土土器  
II区SR02上層下部出土土器（1）
- 図版22 II区SR02上層下部出土土器（2）
- 図版23 SR02石・土器除去中、その他出土土器
- 図版24 II区SR02その他出土土器  
II区SR02上層下部出土石器
- 図版25 II区SR02上層下部・石・土器除去中、その他出土石器
- 図版26 II区包含層出土遺物  
II区SK05出土遺物  
II区SD01・02出土遺物  
II区SD04a・b出土遺物
- 図版27 II区SD07出土遺物（1）
- 図版28 II区SD07出土遺物（2）  
II区SD08出土遺物  
II区上面精査出土遺物

# 第1章 調査に至る経緯と経過

## 第1節 調査の経緯

県道円座香南線は地域高規格道として建設が予定されている道路である。地域高規格道路は高規格幹線道路と一体となって地域構造を強化するために整備していく道路として全国的な規模で計画されているものである。

香川県においては、高松市内に計画された高松環状道路が平成11年12月に調査区間として指定され、そのうち中間地区から川岡地区にかけての延長3kmについて事業化された。

県高松土木事務所はこの路線を中間地区、円座地区、川岡地区の3地区に分けて整備を進めており、用地内の埋蔵文化財調査について高松土木事務所と文化行政課により協議を進められたが、平成13年度より買収の終わった地点から隨時試掘調査を実施することとなり、平成13年9月11日～13日にかけて試掘調査を実施した。

## 第2節 調査の経過

文化行政課による試掘調査の後、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターにより、11月から道路用地10,236m<sup>2</sup>について予備調査を実施した。当初は遺跡面積を広く予想し、10月から2班体制で延べ11ヶ月の調査期間を当てていたが、予備調査の結果、用地内の遺跡の広がりが狭かったので、1班体制で調査に当たった。調査期間は平成13年12月20日～平成14年3月31日、調査面積は2,954m<sup>2</sup>、調査方式は直営方式である。

整理作業は平成15年8月～10月まで実施した。発掘調査および整理作業の体制は第1表のとおりである。また、整理作業に携わったのは以下のとおりである。

発掘調査			整理作業					
香川県教育委員会								
平成13年度			平成15年度					
總括 總務 埋藏文化財	課長 課長補佐 副主幹 主査 主事 副主幹 主任 文化財専門員 文化財専門員	北原 和利 小国 史郎 中村 植伸 須崎 陽子 亀田 幸一 大山 真充 西岡 達哉 古野 徳久 宮崎 哲治	總括 芸術文化 グループ 文化財 グループ	課長 課長補佐 主任 主査 主任主事 副主任幹 主任 文化財専門員 主任技師	北原 和利 森岡 浩章 香川 陽子 須崎 八木 大山 真充 片桐 孝浩 佐藤 竜馬 松本 和彦	修 修 秀徳 秀徳		
	次長	小原 克己 川原 裕章	總括	所長 次長 副主幹 主任 主査 主任主事 主任文化財専門員 主任文化財専門員 主任文化財専門員 文化財専門員	中村 仁 渡部 明夫 野保 昌弘 多田 敏弘 塩崎かおり 田中 千晶 真鍋 昌宏 西岡 達哉 山元 素子			
	係長	大西 譲治 多田 敏弘	總務	副主任幹 主任 主査 主任主事 主任文化財専門員 主任文化財専門員 文化財専門員	仁 渡部 明夫 野保 昌弘 多田 敏弘 塩崎かおり 田中 千晶 真鍋 昌宏 西岡 達哉 山元 素子			
	主査	山本 和代	調査	主任文化財専門員 主任文化財専門員 文化財専門員	仁 渡部 明夫 野保 昌弘 多田 敏弘 塩崎かおり 田中 千晶 真鍋 昌宏 西岡 達哉 山元 素子			
	主任主事	高木 康晴 藤好 史郎						
	主任文化財専門員 文化財専門員 主任技師 調査技術員	山元 素子 石原 徹也 松田 朝由						
整理作業に携わった方々：猪木原美恵子、矢野ゆかり、森光恵、松本基子、白川智子、米田静江、柴垣朋美								

第1表 発掘調査および整理作業の体制



第1図 遺跡の位置 (1/10,000)

## 第2章 立地と環境

### 第1節 地理的環境（第1図）

川岡遺跡は高松平野の南西部、高松市岡本町に所在する。周辺には条里型地割が比較的よく遺存する。

高松平野は東部には屋島、立石山山地、西部には五色台山地、堂山山地、香南台地、千疋丘陵に画される。南部は由佐山・上佐山山地とそれから派生する台地が大きく張り出し、その東西を新川水系と香東川水系が大きく挟りこむ。高松平野は新川、春日川、香東川、本津川により形成されたが、いずれも流量に乏しく、これらの河川活動によって形成された沖積地は狭く、その背後には台地や扇状地形が広がる。

川岡遺跡は堂山山塊の東側、高松平野の西南部に位置し、東側には本津川の支流古川が流れる。古川は香東川の東側の扇状地帯を流れる小河川で、香東川、本津川、古川いずれも地表より深く開削する。もともと流量が乏しい上に河床が地表よりかなり低いため、灌漑用水としては利用できず、もっぱら谷地形や微地形を利用した小規模な溜池を使って灌漑を行っていた。遺跡は香東川の扇状地として形成された砂礫層および粘土層を挟んだ沖積地に立地しており、付近の水田の大半は水持ちがよくなかったらしい。

### 第2節 歴史的環境（第2図）

高松平野の西南部地域は近年の大規模開発などによる発掘調査もあまり行われなかった地域であり、遺跡の様相も不明確なことが多い。

#### 旧石器時代

近年大規模開発に伴う発掘調査が実施されるにしたがって、川岡遺跡の北約2.7kmでは、中間西井坪遺跡、中間東井坪遺跡、正箱遺跡、兀塚遺跡などでこの時期の遺跡が見つかっている。いずれも六ツ目山東麓にあたり、ナイフ形石器や角錐状石器、剥片などが出土している。なかでも中間西井坪遺跡では接合資料を含むナイフ形石器や角錐状石器を主体とした数基の石器ブロックが確認できた。

#### 縄文時代

平成15年度に実施した、川岡遺跡の北約1.7kmに位置する本郷遺跡では、縄文時代後期初頭の土坑が検出されている。国分寺六ツ目遺跡では、土器は出土していないものの、サヌカイトの大型剥片が折り重なった状態で出土しており、当該期の石器製作地と考えられる。今回の調査では縄文時代晚期、爪形文を器面に施す土器群が多く出土しているが、高松市伏石町の居石遺跡では同時期の自然河川が検出されている。

#### 弥生時代

高松平野全体では弥生時代に入って遺跡数は大幅に増加するが、古川流域では中間西井坪遺跡、兀塚遺跡、正箱遺跡などでその一端が明らかになったに過ぎない。中間西井坪遺跡で検出した集落は掘立柱建物のみで構成される特異な構成であった。

#### 古墳時代

古川流域では小地域ごとに相互にあまり格差のない小規模な古墳群が継続的に並立する状況であり、際立った古墳が造営されることはない。前期後半には中間西井坪遺跡の調査で確認された中間1号墳、六ツ目山頂に造営された六ツ目古墳の2基の前方後円墳があるが、いずれも小規模のものである。

前期内においては中間西井坪遺跡で埴輪焼成土坑が検出されている。ここでは円筒埴輪のほか器財型埴輪、土器棺を焼成していたことが明らかになり、さらに土器棺は今岡古墳に供給されていたことが想定される。

中期～後期古墳は堂山東麓諸地域でも認められるようになる。本堺寺背後の丘陵では円筒型土製棺の存在

が知られる本庵寺北1号墳、横穴式石室がある本庵寺西古墳など、奈良須池東方の立石山には、詳細は不明であるが、奈良須池古墳、立石神社古墳などがある。

当該期の集落は、中間西井坪遺跡で古墳時代前期にかけて引き続き営まれるほか、兀塚遺跡でも竪穴住居と掘立柱建物からなる集落が検出されている。

#### 古代

古代においては岡本町、西山崎町、中間町は讃岐国香川郡中間郷に属する。中間は平城宮出土木簡で「中萬里」「仲津間□」が見られる他、東大寺文書には山田郡宮廻郷、阿野郡河津郷とともに東大寺の封戸に施入されたことを示す記事が見える。

古墳時代末～古代の集落は兀塚遺跡（6世紀末～7世紀中頃）、中間西井坪遺跡（6世紀末～7世紀中頃、8世紀後半）、正箱遺跡（8世紀後半～10世紀）で検出されている。中間西井坪遺跡では8世紀後半代には丘陵緩斜面において幹線の大型水路が掘削され、大規模な土地開発が行われたことが想定されている。

中間西井坪遺跡の南方には、条里型地割の中に幅11～12mの東西方向の余刺帯が遺存しており、古代の官道である南海道に比定されている。平成14年度の川原遺跡の調査では幅3mの溝が平行して2条検出しており、南海道の一部と考えられる。

#### 中世

中間西井坪遺跡では14世紀代に入って現状地割と同じ主軸方位をもつ集落が検出される。また、薬王寺遺跡においても条里型地割と同じ方位の集落が検出されており、この時期には周辺一帯に条里型地割が広く施行されたと考えられる。

#### 近世

生駒氏が讃岐国に入部し、元和七年第4代藩主生駒高後が跡を継ぐと、外祖父の藤堂高虎が後見となり、西嶋八兵衛を讃岐国に派遣した。当時旱魃などによる飢饉が頻発しており、安定した農業生産が課題となっていた。西嶋八兵衛は灌漑用水を確保し農業生産を安定させるため、満濃池の築堤工事、三谷三郎池の修築をはじめ、龍満池、小田池、神内池の築造、香東川の流路の付け替え・固定の工事など数々の土木工事を行った。そのうち、小田池は岡本町の南方、台地上に築造された。三方を堤防で囲まれた典型的な皿池で、香東川の二ノ井堰から水を引いていた。生駒氏の改易、松平氏の入部後も香東川を水源とした奈良須池の築造があり、古来水源の不足などで安定せず、狭い範囲での灌漑しかできなかったこの地域が、ようやく広範囲の灌漑が可能となった。



第2図 周辺の遺跡 (1/30,000)

1 川岡遺跡Ⅰ区	11 加藍山東麓古墳	21 矢塚南古墳	31 本堯寺北2号墳
2 川岡遺跡Ⅱ区	12 うたい塚古墳	22 矢塚北古墳	32 本堯寺西古墳
3 川原遺跡	13 山王神社古墳	23 西山崎1号墳	33 福家古墳
4 本郷遺跡	14 御腰池遺跡	24 西山崎2号墳	34 石ヶ鼻古墳
5 御腰天塚古墳	15 三つ塚古墳	25 西山崎3号墳	35 奈良須池古墳
6 中森遺跡	16 薬王寺遺跡	26 西山崎4号墳	36 立石神社古墳
7 中森1号墳	17 正箱遺跡	27 西山崎古墳群	37 金毘羅社遺跡
8 中森2号墳	18 中間西井坪遺跡	28 馬塚古墳	38 岡本配水池北遺跡
9 八幡遺跡	19 中間東井坪遺跡	29 犬のくそ塚	39 若宮神社古墳
10 御腰天神社古墳	20 児塚遺跡	30 本堯寺北1号墳	

#### (参考文献)

- 川岡郷土誌編集委員会編「ふるさと川岡」川岡郷土誌編集委員会 2001.11
- 大久保徹也「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第25冊 中間西井坪遺跡Ⅰ」  
香川県教育委員会ほか 1996.11
- 森下 英治「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第28冊 国分寺六ツ目古墳」  
香川県教育委員会ほか 1997.8
- 藏本 晋司「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第32冊 中間西井坪遺跡Ⅱ」  
香川県教育委員会ほか 1999.3
- 山下 平重「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第34冊 国分寺六ツ目遺跡」  
香川県教育委員会ほか 1999.10
- 廣瀬 常雄「県道山崎御腰線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 正箱・薬王寺遺跡」  
香川県教育委員会ほか 1994.3
- 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター編「県道関係埋蔵文化財発掘調査概報 平成7年度」  
香川県教育委員会ほか 1996.3
- 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター編「県道関係埋蔵文化財発掘調査概報 平成8年度」  
香川県教育委員会ほか 1997.3
- 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター編「県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報 平成9年度」  
香川県教育委員会ほか 1998.3
- 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター編「埋蔵文化財発掘調査概報 平成14年度 県道関係埋蔵文化財  
発掘調査概報 平成14年度」香川県教育委員会ほか 1998.3
- 香川県埋蔵文化財センター編「香川県埋蔵文化財センター年報 平成15年度」  
香川県埋蔵文化財センター 2005.1 刊行予定

# 第3章 調査の結果

## 第1節 予備調査の結果

### 1. 予備調査の概要（第3図）

本調査に先行して調査対象地10,236m<sup>2</sup>について予備調査を実施した。予備調査のトレントはおおむね現地割りに沿って東西方向もしくは南北方向に水田一筆ごとに設定し、遺構・遺物の状況などにより適宜トレントを増やした。

予備調査の結果、対象地内は南部と北東部に微高地があり、微高地に挟まれて南東から北西へ低湿地帯があったことが判明した。低湿地帯では粘土層の下部または粘土層を切って旧河道と考えられる砂層の堆積がみられ、古川の氾濫原となっていた。南側の微高地をA区、微高地に挟まれた低湿地をB区、最も北側の微高地をC区として、予備調査の概要を記述する。

#### A区（1～13・35～38トレント）（第4・6図）

南部の微高地上で設定したトレントである。おおむね耕作土の直下でベースを検出した。遺構面の標高は48.5～46.3mで耕作土の下部に厚さ10cm前後の床土・シルト層などの挟み、ベースを検出している。ベースは最も南の1トレントは灰黄色砂層、その他は黄褐色シルト層で、地盤はやや軟弱である。1トレントで小ピット、5・7・38トレントで溝を検出したが、それより北側では遺構は検出できなかつた。1トレントのピットは埋土よりいずれも近世以降のものと考えられる。5・7・38トレントの溝はほとんどが北西から南東方向へ向くもので、条里型地割が施工される以前の地形に制約された溝と考えられるが、出土遺物に乏しく時期の特定はできない。溝の埋土は砂層を中心である。このなかで5トレントの東端部では現地割と同じ方向の溝を2条検出した。5トレントの東側は条里型地割の坪界線に相当し、それに関係する溝の可能性がある。

#### B区（16～21S1・27～34トレント）（第6図）

おおむね古川の氾濫原に位置する地点で設定したトレントである。対象地の中央部付近のトレントでは耕作土の下部に厚い粘土・シルト・砂層などの堆積が見られ、ベースまで掘り切ることのできなかつたトレントもあった。この部分は旧河道、低湿地帯部分であったと考えられる。粘土層は有機物をあまり含まない色の薄い色調で、須恵器小片などが出土しているが、時期を示したものとは断じ切れない。21S1トレントでは繩文土器とともにサヌカイト洞片が多量に出土した。遺構は、低地の縁辺部、耕作土直下でベースを検出した地点で近世以降の溝状遺構を検出しただけであった。

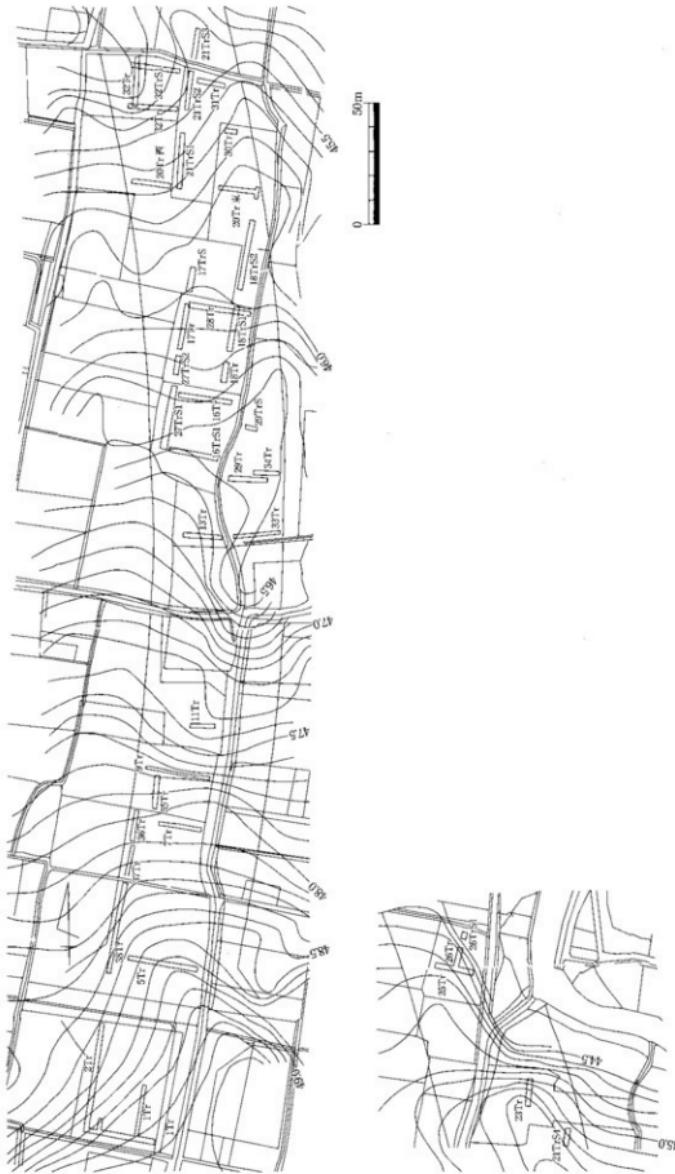
#### C区（20東・21S2～4・23・25・26トレント）（第5・6図）

いずれも耕作土直下でベースを検出しておらず、現地表面からも浅い。25・26トレント付近、低湿地帯の落ち際に旧河道の落ちこみを検出しただけで、遺構密度はきわめて希薄である。落ちこみからの出土遺物からいずれも弥生時代後期後半と考えられる。

### 2. 予備調査の出土遺物（第7～14図、図版13・14）

1は13トレント出土遺物。耕作土・床土の一部にみられた灰色粘土層から出土した遺物である。灰色粘土層は浅い落ち込み状で明確な遺構ではないようである。土師質土器壺。内外面とも板ナデを施し、底部外面は円弧状のハケ、のち中央部付近を1方向のハケを施す。内面には糞尿痕などはみられない。近世以降と思われる。2は17トレント出土遺物。南部最下層の古川の氾濫原と考えられる砂層から出土した。弥生土器壺。口縁端部をやや拡張させ、凹線1条を巡らせる。刻み目が一部に残る可能性があるが、摩滅が著し

第3図 予備調査トレンチ位置図（1/2,000）

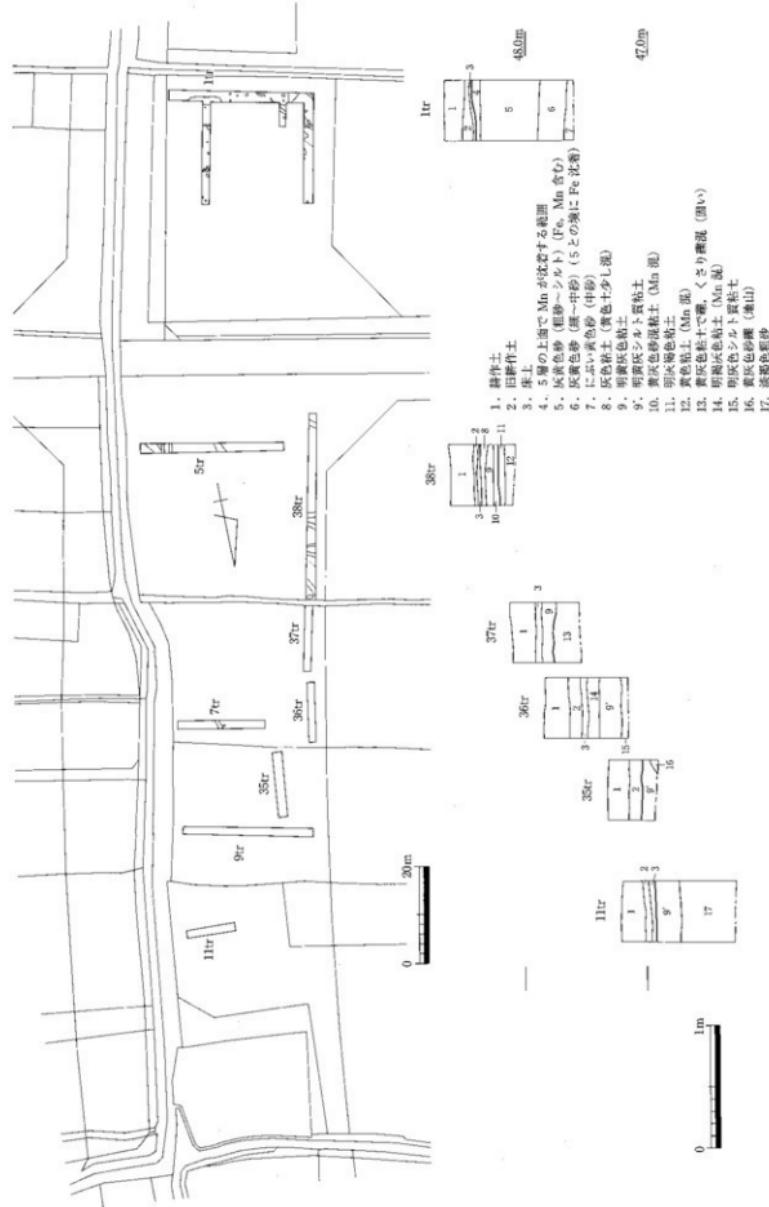


トレンチ番号	地区	規模(長さ×幅):m	土層堆積状況	道 橋	遺 物	遺構面の標高:m	備 考
1	A	30.1×1.8	耕作土・底土の直下で灰黄色砂のベースがみられた。溝状遺構・ピット状遺構を検出した。	ピット、溝状遺構	東海系陶器碗	48.5	遺構は雁土から近世と考えられる。
5	A	29.8×1.8	耕作土・底土の直下で遺構面に達する。溝状遺構を検出した。	溝状遺構	なし	48.3	東側が多室型地割の坪界線に相当。溝は坪界線に当たる溝。一部本調査
7	A	18.2×1.7	耕作土・底土直下で淡黄褐色シルト層のベースに達する。	溝状遺構	なし	47.7	
9	A	26.8×1.6	耕作土・底土の下部に厚さ10cm程度の灰褐色シルト層が堆積し、その下部で淡黄褐色シルト層のベースに達する。	なし	なし	47.4	
11	A	15.0×1.7	耕作土・底土の下部で淡黄灰色シルト層のベースがある。	なし	近世陶器	46.9	
13	A	16.1×1.8	耕作土・底土の下部で黄灰褐色硬質シルト層のベースが見られる。	なし	土師質土器壺	46.3	
16	B	22.5×1.8	東側約10mは耕作土・底土の下部に厚さ40~50cmのシルト層が堆積する。それより西では耕作土・底土上面は明灰色シルト層のベースである。	溝状遺構	土師器、須恵器	46	遺構は埋土から近世と考えられる。
16S1	B	20.2×2.0	東側約25mは耕作土・底土の下部に厚さ30cm程度のシルト層が堆積する。それより西では耕作土直下に黄褐色硬質シルト層のベースがある。	溝状遺構	須恵器杯	45.9	遺構は埋土から近世と考えられる。
17	B	19.0×2.1	北から約3mまでは耕作土・底土の直下に黄灰褐色色砂混入シルト層のベースがある。それより南では緩やかな落ちがあり、シルト層や粘土層が堆積する。	溝状遺構	弥生土器 焙烙	45.7	南半部は湿地帯。溝は埋土から近世と考えられる。
17S	B	9.9×1.9	耕作土の上部は黄灰褐色シルト層を挟み黄褐色~灰褐色硬質シルト層のベースである。	なし	なし	45.6	
18	B	8.6×2.1	耕作土・底土の下部は厚さ35cm程度の粘土層が堆積し明灰色、明赤褐色シルト層のベースへ達する。	なし	土師器?	45.3	湿地帯
18S1	B	18.7×2.0	耕作土・底土の下部は厚さ35~40cmの粘土層の堆積があり、その下部に黄灰褐色砂層のベースがある。	なし	須恵器杯	45.7	湿地帯
18S2	B	29.3×1.9	耕作土・底土の下部に厚さ25cm程度の灰褐色・黄褐色粘土層が堆積し、南部ではその下部に黄色粘土・黄灰褐色砂・黄褐色砂層のベースがある。北部では粘土層の下部で遺構を検出した。	溝状遺構	土師質壺、須恵器杯、サヌカイト片	45.7	遺構を検出した北半部は本調査
20東	B	14.9×1.8	耕作土・底土の下部で黄褐色シルト層のベースがある。トレンチの西部では旧流路の沙層の堆積がベースの下部でみられた。	溝状遺構	弥生土器、サヌカイト	45.6	本調査
20西	B	16.3×1.8	耕作土・底土の下部で厚さ50cm程度の、近世以降の耕作土と考えられるシルト層が堆積し、その下部で遺構があるいは旧流路を検出した。ベースは灰褐色シルト層で、不安定な地盤である。	溝状遺構	なし	44.9	旧河床
21S1	B	23.4×2.0	耕作土・底土の下部を含む土器を含む合層を検出し、その下部で旧河床である灰褐色シルト層を検出した。この層からは縄文時代後期の土器とサヌカイト片が出土している。トレンチの北側では急速にベースが上がり耕作土直下に堆積が検出できる。	なし	縄文土器、サヌカイト	44.8以下	サヌカイト集中部あり。本調査
21S2	C	15.8×1.9	耕作土・底土の下部で黄褐色シルト層の地山を検出した。	なし	サヌカイト	45.3	
21S3	C	17.1×2.0	耕作土・底土の下部で厚さ10cmの弥生土器包含層があり、その下部で黄褐色シルト層の地山を検出した。	なし	なし	45.2	
21S4	C	7.6×2.0	耕作土・底土の下部で厚さ10cmの弥生土器包含層があり、その下部で黄褐色シルト層の地山を検出した。	なし	なし	45.2	
23	C	12.2×2.0	耕作土の直下で黄褐色シルト層のベースを検出した。	なし	なし	45.1	
25	C	17.9×2.1	東部では耕作土の直下で黄褐色硬質シルト層のベースが見られる。西半部では粘土・シルト・砂層による旧流路の堆積が見られる。	旧河床の落ち込み	なし	44.4	旧河床

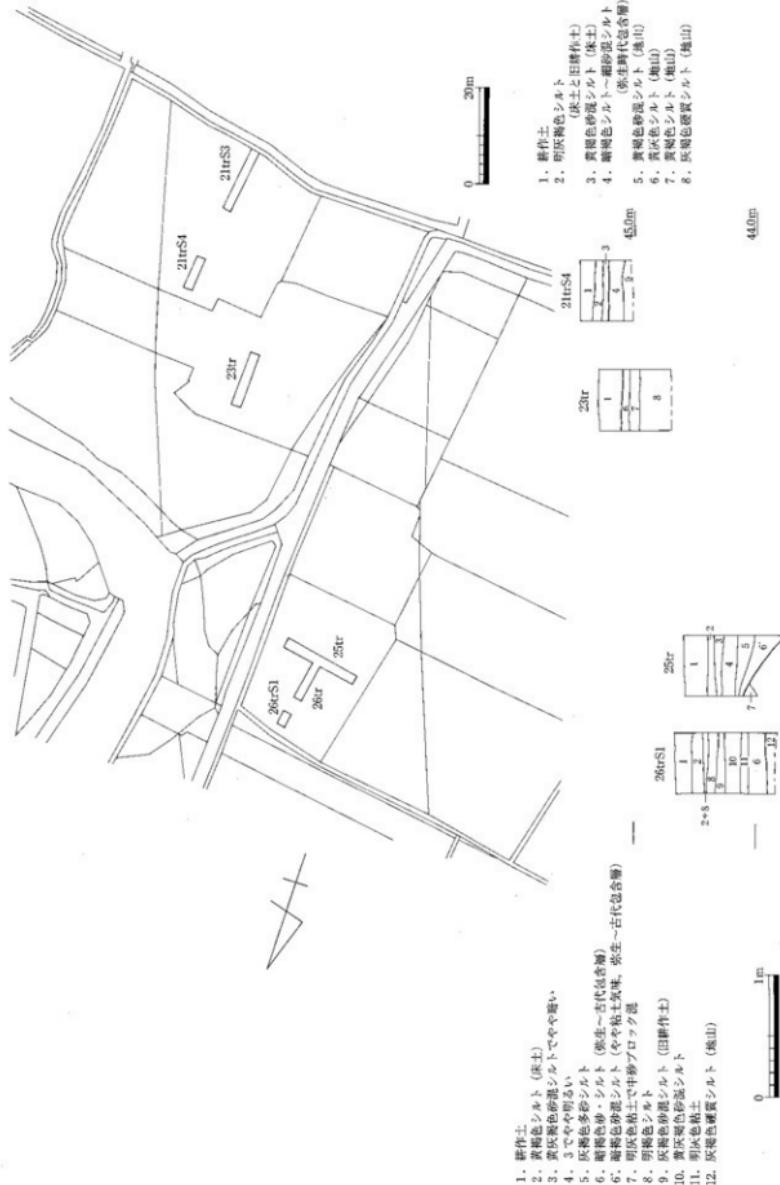
第2表 予備調査トレンチ一覧(1)

トレンチ番号	地区	規模(長さ×幅):m	土層堆積状況	遺構	遺物	堆積面の標高:m	備考
26	C	10.7×2.0	ほぼ全般にわたって耕作土の下部でシルト・砂層の旧道路の堆積を確認した。旧河道の最下部からでは弥生土器が出土している。トレンチの北端では余里型地割の坪界線に相当する可能性のある落ち込みが旧道路の堆積を切ってあるが、廻りから近世以降と考えられる。	溝状遺構	弥生土器	44.0	旧河道、坪界線に関係する可能性のある溝
27S1	A~B	26.8×2.5	南端付近では耕作土直下で明黄灰色粘土のベースが見られたが、徐々にベースとの間に黄灰色粘土層などが厚く堆積を始め、北側約1m程度からは旧河道の堆積が認められる。	溝状遺構	なし	46.1	北半部は旧河道
27S2	B	8.2×2.0	耕作土・床土の下部に厚さ約10cmの粘土層が堆積し、その下部で黄灰色砂礫のベースがある。北側約4mでは粘土層の下部に粘土層・砂層の旧河道の堆積が見られ、下部からは土器片が出土した。	なし	須恵器皿、甕	45.8	湿地帯
28	B	25.8×2.1	耕作土・床土の下部で明灰色・灰色粘土層などの堆積層が約50cmみられ、その下部にベースがある。東部では粘土層が約80cmまで達し、ベースを検出することはできなかった。トレチの西端3~7mでは旧河道と思われる砂層の堆積が見られた。	溝状遺構	陶器灯明皿	45.3	湿地帯、旧河道
29	B	16.0×2.2	耕作土の下部に灰色・黄灰色・褐色灰色粘土層が最も50cmにわたってほぼ水平に堆積していた。	溝状遺構	土師器壺、須恵器杯、甕、焰燈	45.8	湿地帯
30	C	5.0×1.9	耕作土直下で溝状遺構を3条検出した。ベースは黄灰色粘土、黄色粘土である。	溝状遺構	サヌカイト	45.7	本調査
31	C	11.6×2.1	耕作土の下部に厚さ10cm程度の灰色粘土があり、灰白色粘土に達する。	溝状遺構	サヌカイト、東海系陶器検	45.3	
32	B~C	20.4×2.0	東半部では耕作土の直下に明黄灰色砂礫のベースがある。トレチ中央付近から粘土層が始まり、西半部では厚さ30~40cmの粘土上の水平堆積がみられる。ベースは明黄色砂混粘土である。	溝状遺構	弥生土器、須恵器、陶磁器	45.0/ 44.5以下	西半部は湿地帯
32S1	B~C	20.3×1.9	32トレチとはほぼ同じ	溝状遺構	磁器	45.0/ 44.5以下	西半部は湿地帯
32S2	B	20.6×1.9	耕作土・床土の下部に厚さ50cm程度の粘土層が堆積し、その下部に青灰色粘土が堆積する。トレチ中央付近では粘土層の下部に旧道路と考えられる砂層がみられる。	なし	磁器	44.1	湿地帯
33	B	19.4×1.8	トレチ西端付近では耕作土直下にベースがみられるが、ベースは徐々に東へ傾斜し、それにつけで、縁土や粘土層が徐々に厚くなる。ベースは黄灰色シルトである。	溝状遺構	須恵器壺(7世紀初頭)、サヌカイト	45.8	古川に近いトレチ。川に向かって傾斜。
34	B	10.3×1.7	耕作土の下部に粘土層・砂層・シルト層の水平堆積が約50cmみられる。古川の旧氾濫原	なし	サヌカイト	45.8	湿地帯
35	A	14.0×1.9	耕作土・床土の直下に明黄灰色シルト、黄灰色砂礫のベースが見られる。	なし	刷毛目唐津碗	47.05	
36	A	12.9×1.6	耕作土・床土の下部に粘土層・シルト層の堆積が約35cm見られる。	なし	須恵器(7世紀初頭)	47.35	
37	A	13.8×1.7	耕作土・床土の下部で厚さ約10cmの黄灰色粘土層(客土か)があり、黄灰色粘土(漂泥)のベースに達する。	なし	なし	47.7	
38	A	38.5×1.8	耕作土・床土の下部に厚さ約10cm程度の黄灰色粘土層が堆積し明灰褐色粘土層(ベースが土壌化)に達する。溝状遺構を4条検出した。	溝状遺構	近貝瓦、陶磁器	48.3	溝が南東から北西方向へ5条。うち3条は砂層が主体。

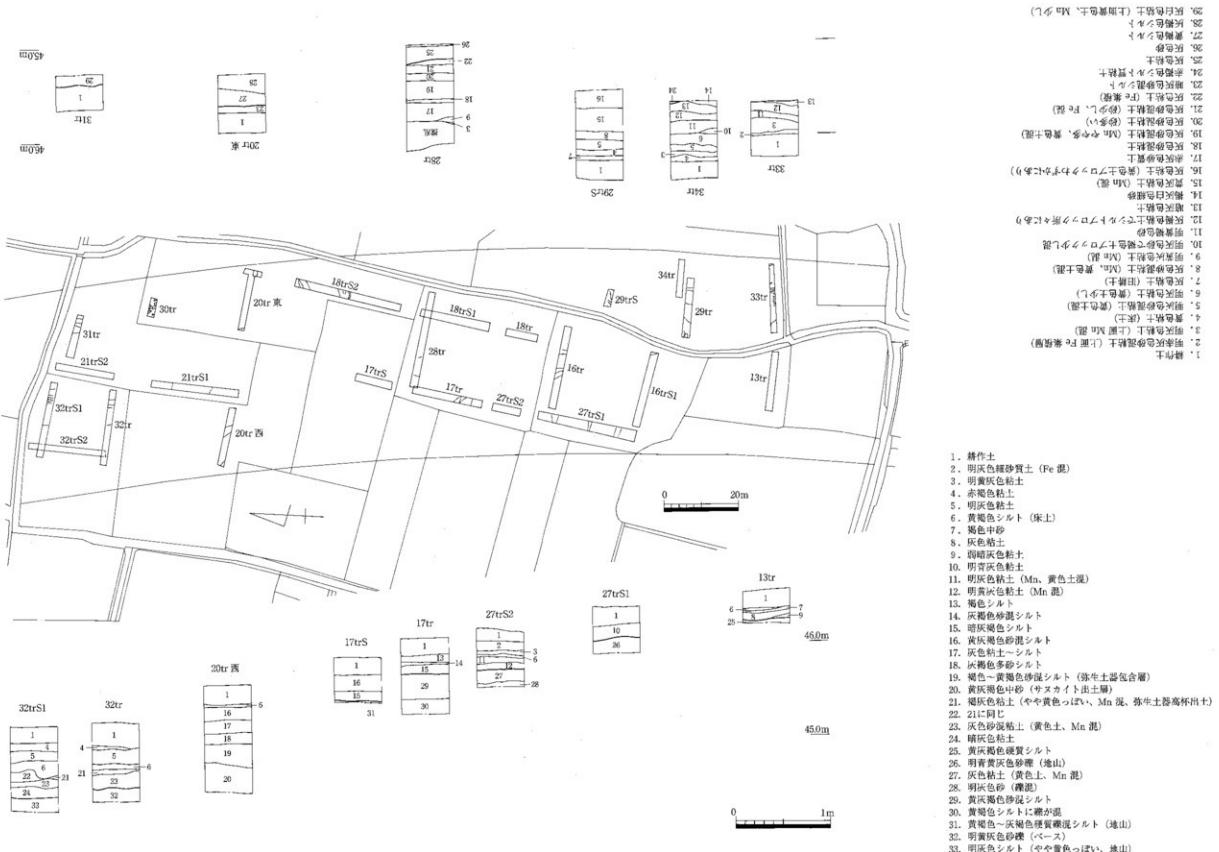
第3表 予備調査トレンチ一覧 (2)



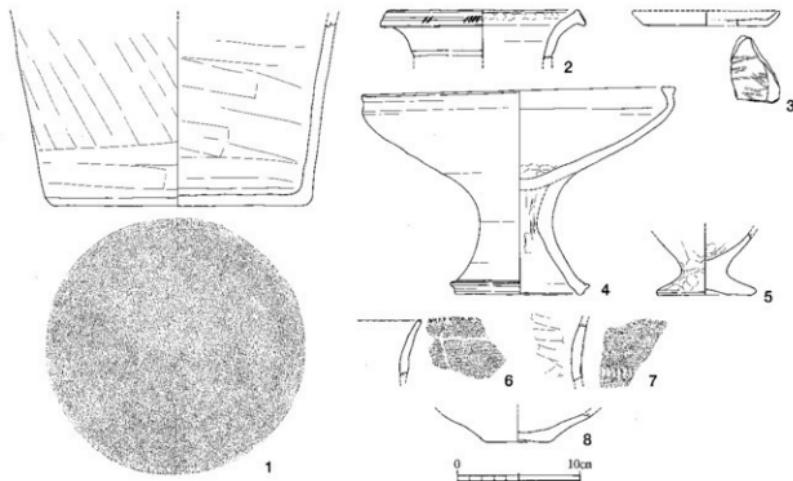
第4図 予備調査トレーンチ土層柱状図1 (天地1/1,000)・(上下1/40)



第5図 予備調査トレーンチ土層柱状図2 (天地1/1,000)・(上下1/40)



第6図 予備調査トレント層柱状図3 (天地 1/1,000)・(上下1/40)



第7図 予備調査出土土器（1/4）

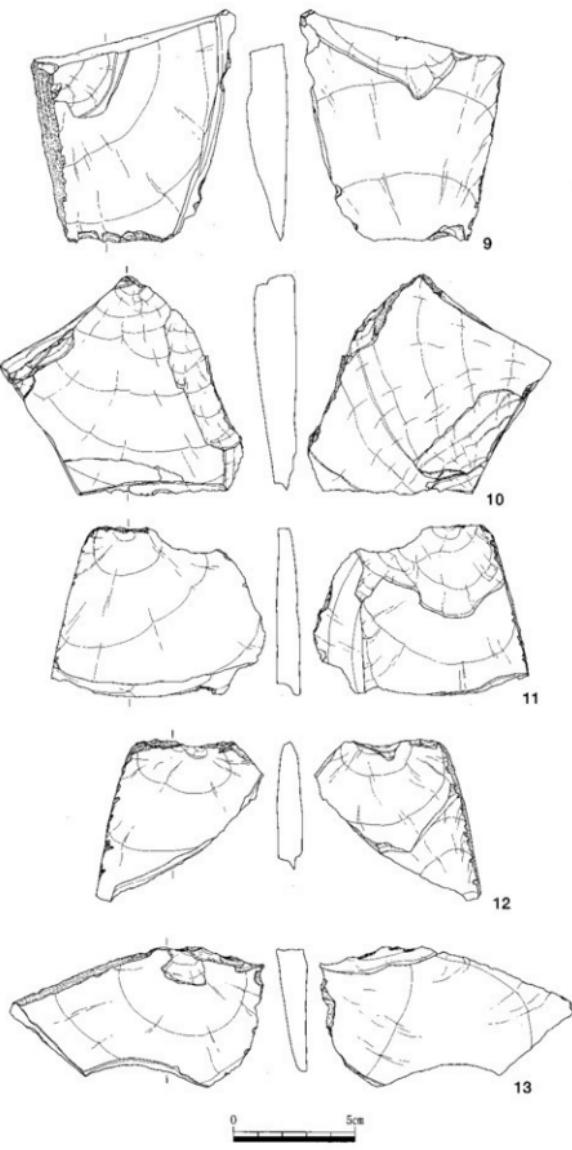
く定かではない。弥生時代中期後半。摩滅を受けているので、紛れ込みの可能性もある。3は27S2トレンチ出土遺物。須恵器皿。ベースと床土との間の灰色粘土層から出土した。内外面に火櫻がかかる。9世紀前半頃。4は32トレンチ出土遺物。下部の灰色粘土層から出土したものである。弥生土器高杯。脚部下端に沈線が1条巡る。弥生時代中期後半。5は20トレンチ東から出土した遺物。弥生土器鉢底部。底部は脚部状に作り出す。弥生時代後期後半。6～8は21S1トレンチ出土遺物。6・7は縄文土器深鉢。6は口縁端部に刻み目を施し体部は貝殻条痕により調整する。7は体部片。体部中ほどに左向きの爪形文を施し、そこから上部はナデで調整する。8は底部。いずれも縄文時代晚期後半。

9～55は21S1トレンチ出土石器。集中して出土した遺物で、一括性が高いと考えられる。9～19は加工痕のある剥片。上部に打点を残すものが多く、敲打痕の見られるものもある。20は素材となる剥片と考えられる。21は楔形石器。上・下部に敲打痕を残す。22～27はスクレイバー。22・25・26は下端部にわずかに刃を作りだす簡単なもの。23は上部と側縁部に敲打痕がある。24は片面に磨滅痕がある。28～34は加工痕のある剥片のうち小さいもの。いずれも3～4cmのもので、縁辺部に1～数箇所に刃を作り出す。石鏸などの小型品を作ろうとしたものか。35～38はその他剥片。39～45は加工痕のある剥片。40・41・44は下部に刃を作る。45は下部に磨滅痕がある。46～55は使用痕のある剥片。

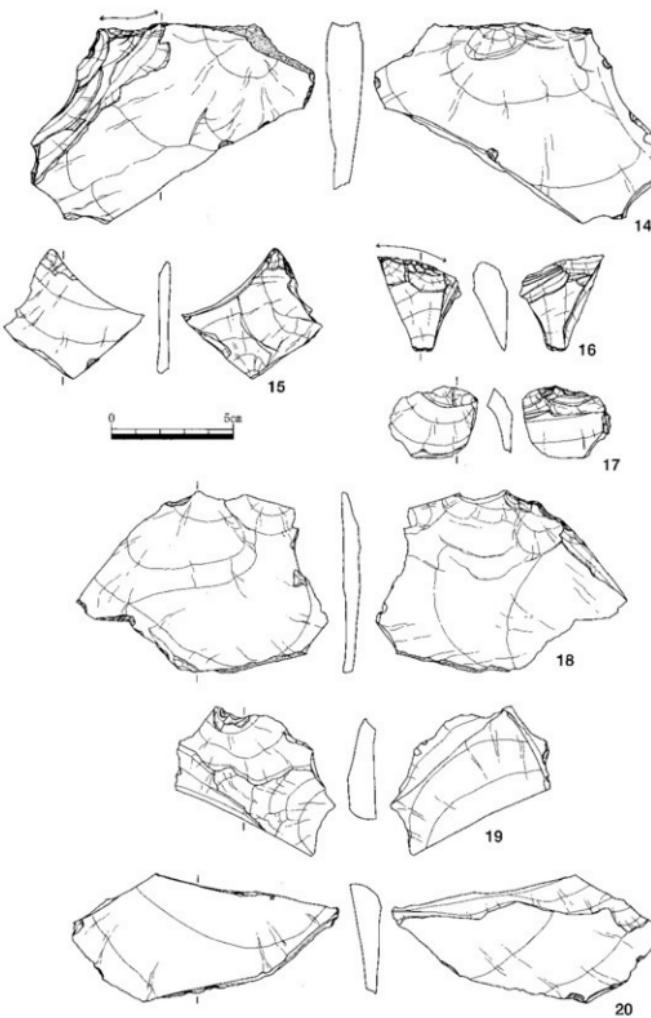
21S1トレンチから出土したサスカイト群は、重機によるトレンチ掘削中に出土したもので、明確に遺構などからの出土として取り上げられたものではないので、すべてのサスカイトを採取し得たかどうかは明らかではないが、少なくとも取り上げたものの中には簡単なスクレイバー以外には製品となるものはなく、大きな剥片が目立つ。後述するII区SR01・02では石鏸やサスカイト小剥片が多く、様相が異なる。

### 3. まとめ

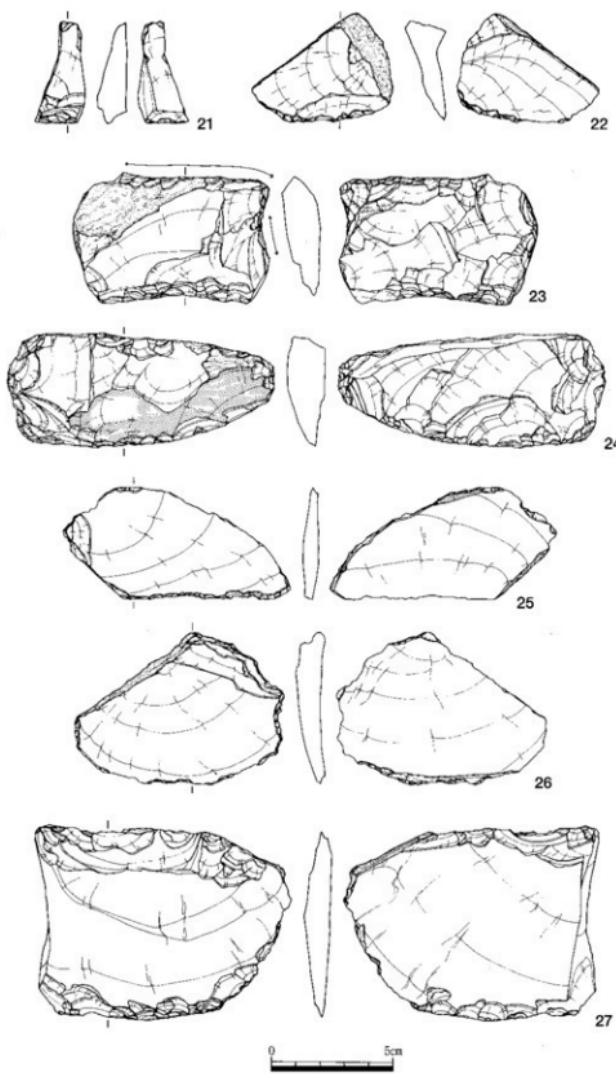
以上の予備調査の結果から、条里型地割の坪界線に相当する溝を検出した5トレンチを含む225m<sup>2</sup>、サスカイト剥片が集中して出土した21S1トレンチおよび弥生時代後期の溝を検出した18S2・20東トレンチを含む2,729m<sup>2</sup>を本調査対象地とし、前者をI区、後者をII区とした。



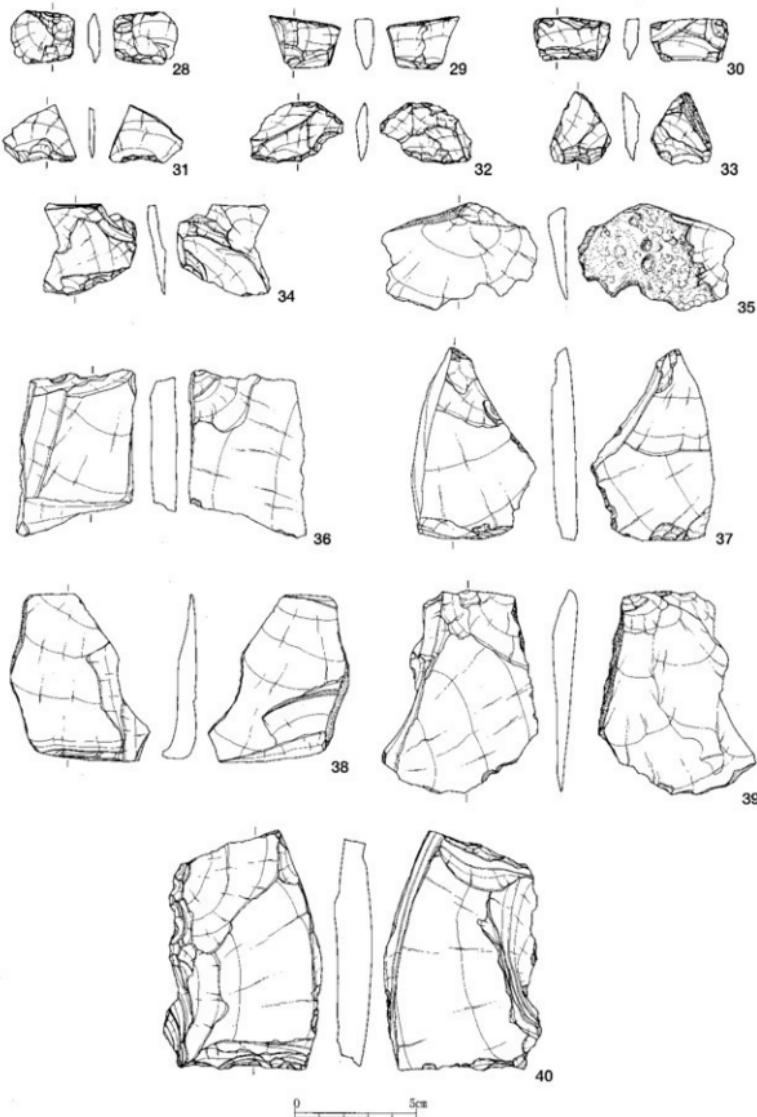
第8図 21S1トレンチ出土石器1 (1/2)



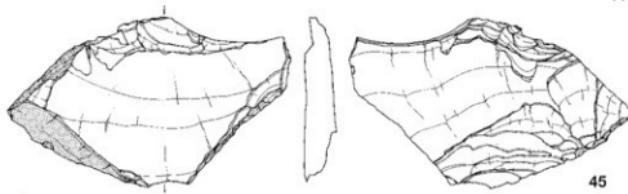
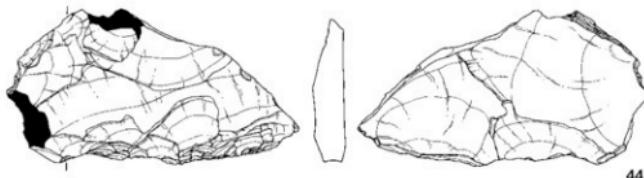
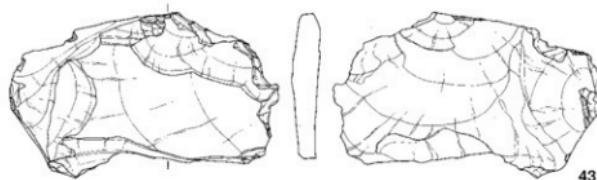
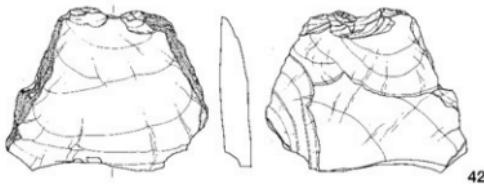
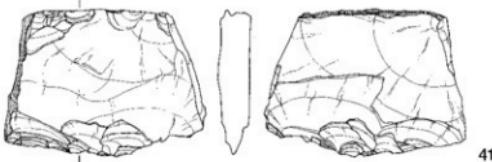
第9図 21S1トレンチ出土石器2 (1/2)



第10図 21S1トレンチ出土石器3 (1/2)

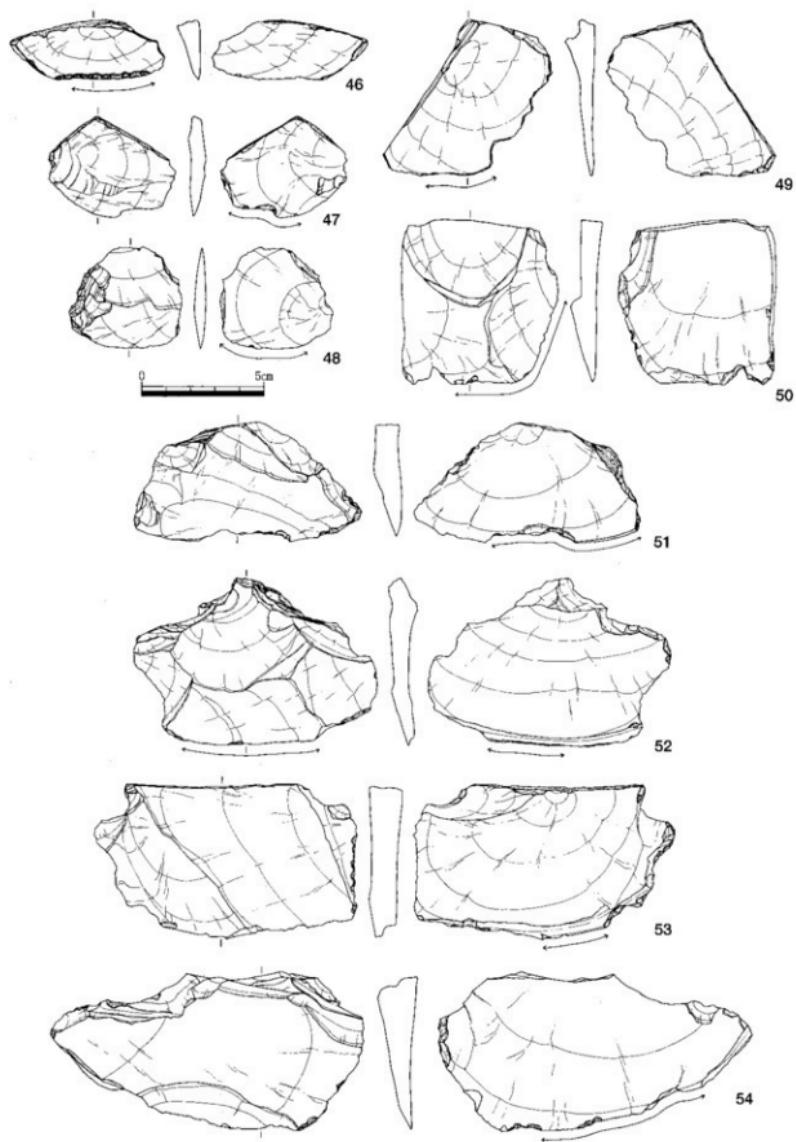


第11図 21S1トレンチ出土石器4 (1/2)

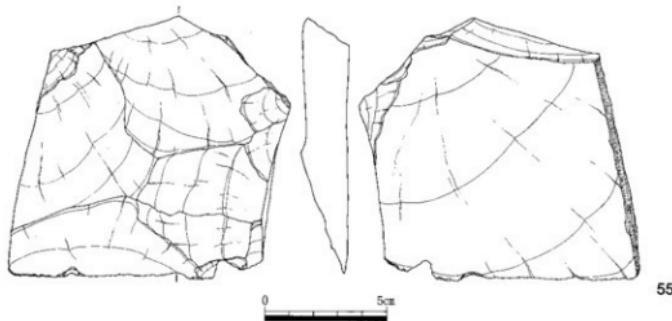


0 5cm

第12図 21S1トレンチ出土石器 5 (1/2)



第13図 21S1トレンチ出土石器 6 (1/2)



第14図 21SIトレンチ出土石器7 (1/2)

## 第2節 土層序

### 1. I区の土層

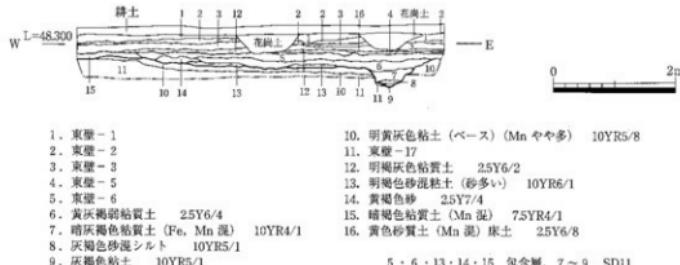
I区は全般に南から北へ緩く傾斜し、北ほど包含層の堆積が徐々に厚くなる。土層については北壁と東壁を掲載した。

#### ①東壁土層（第17図）

ベースは南から北方向へ緩く傾斜している。調査区南側では厚さ35cm程度の耕作土の直下に黄褐色粘土・明黄色粘土のベースが広がるが、調査区中央部付近から北側では明灰色砂質土、黄色粘質土など造成土と思われる土層が薄く認められる。中央部やや北寄りからは褐色・灰褐色砂混粘質土（黄色度混）の包含層が徐々に堆積を始め、調査区北端では10cm程度になる。ベースは調査区南部と同じく黄色粘土である。遺構は土坑は包含層の上面から、溝は包含層の下部から掘り込まれる。

#### ②北壁土層（第15図、図版4）

ベースは緩やかに西から東へ傾斜する。耕作土・床土の下部には、明灰色粘質土、灰褐色粘質土が堆積し、その下部に灰褐色砂混粘質土の13世紀代の包含層が溝の上面を覆う。ベースは明黄色粘土、その下部は黄色粘土である。



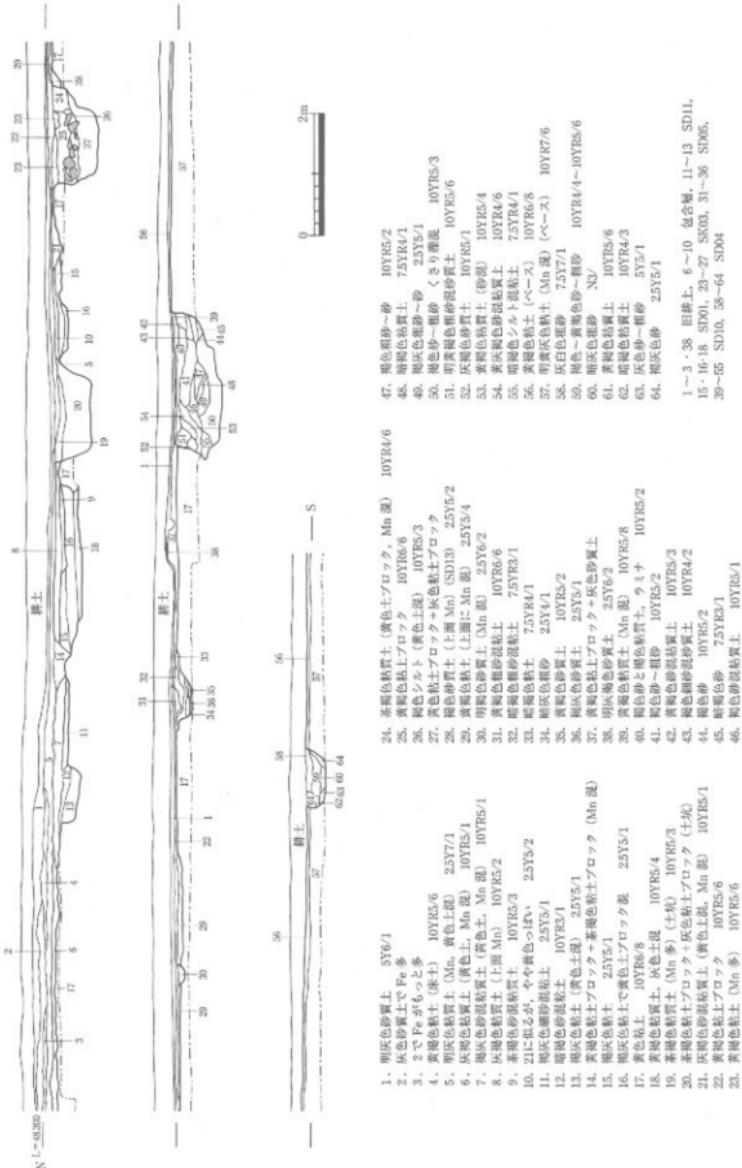
第15図 I区北壁断面図 (1/80)



(①) ~ (④) は II区のなかの小区画

①~⑦は本文記述に対応、土層  
左が北

第16図 調査区割図及び土層図位置図 (1/1,000)



## 2. II区の土層

II区は調査区の北壁、南壁、西壁、東壁と調査区中央部分の東西方向の土層断面を作成した。

### ③北壁土層（第18図）

II区②北壁土層である。厚さ15~20cmの耕作土の下部に厚さ10cm程度の明黄褐色砂質土・黄褐色粘土層の床土があり、その下部に黄灰色粘土層のベースが広がる。遺構面のレベルはおおむね45.45mである。

### ④南壁土層（第19図）

II区③・④南壁で作成した土層断面図である。全面に北東から南西方向へ向く低湿地帯の堆積が認められる。II区③部分の東半部では粘土を主体とする埋土で、II区③の中央部付近でいったん落ち込みが上がるが、そこから西側では最下部に暗灰色粘土層、その上部には砂質土層が堆積する落ち込みの堆積が見られ、II区④では厚さ30~40cmの耕作土・床土直下で厚さ30~40cmにわたって洪水砂の堆積が見られる。

### ⑤東壁土層（第20図）

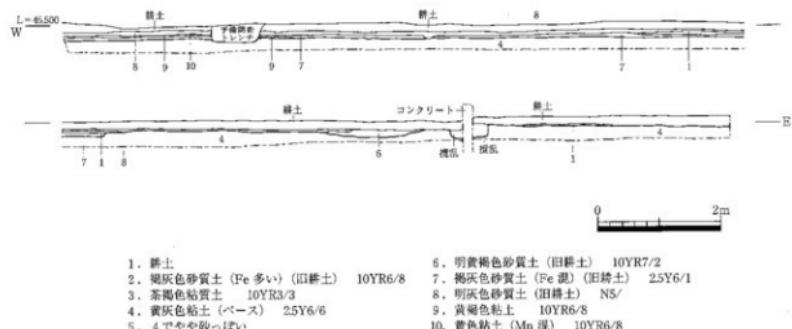
II区①・③の東壁で作成した土層断面である。遺構面はおおむね45.50mで、傾斜はほとんど認められないが、II区③部分の大部分は低湿地帯の断面が観察できる。II区①部分では厚さ20cm程度の耕作土・床土の下部にベースが広がる。ベースは北端部、中央部付近では黄色粘土であるが、II区①のSD07断面が壁面に現れるより北側部分ではベースの色調は褐色・灰色・暗褐色などを呈し、土質もやや粘性を欠くもの、砂混などがあり、若干ベースが不安定であった様子がみえる。

II区③部分では、北端部付近では耕作土・床土の下部に黄褐色粘土層のベースが広がるが、北から4m付近から耕作土が厚くなり、土層断面に低湿地帯の堆積が認められる。低湿地帯の肩付近は黄灰色・灰色・暗褐色砂質土層や褐色・黄褐色シルト層で、南端付近ではそれらに切られる黄灰色・灰色・暗灰褐色粘土層が堆積する。調査区南端ではベースの黄色粘土層が認められるが、低湿地の中央付近ではベースまで検出していない。

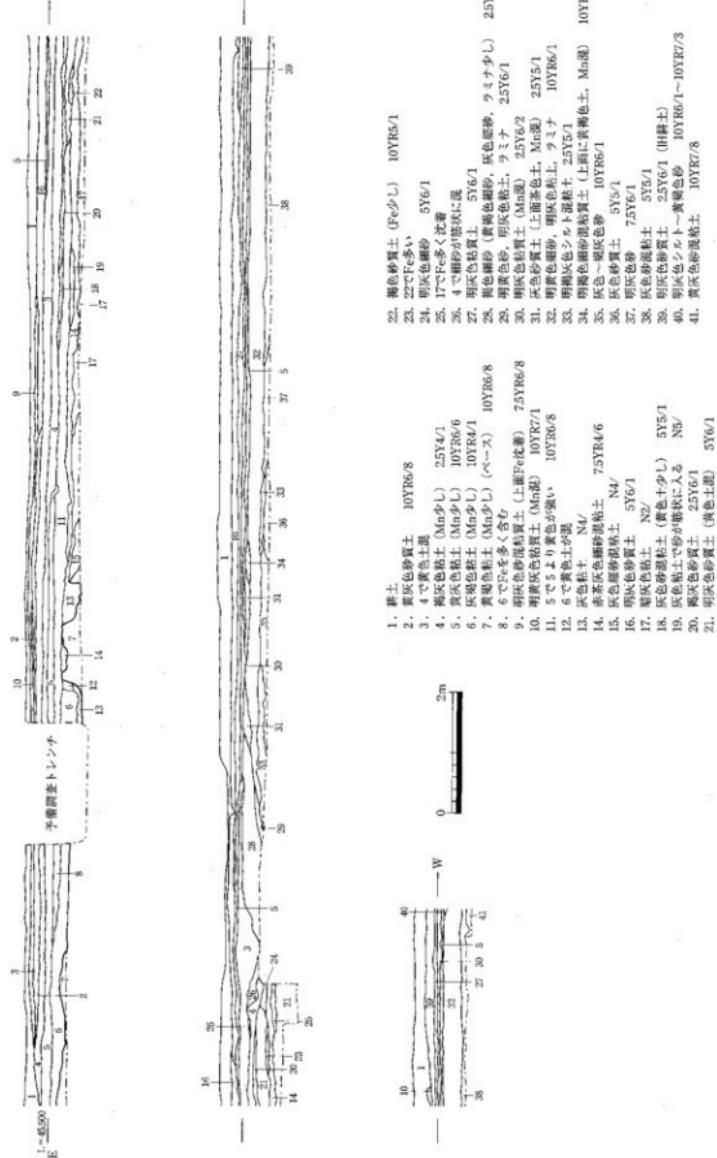
### ⑥西壁土層（第21図・図版4）

II区②・④の西壁土層で作成した土層断面図である。II区④部分では、南壁で約30~40cm堆積していた砂層が北へ向かうほど薄くなり、北端では約20cmとなる。それに対し、砂層の下部に黒色粘土層が厚く堆積するようになる。

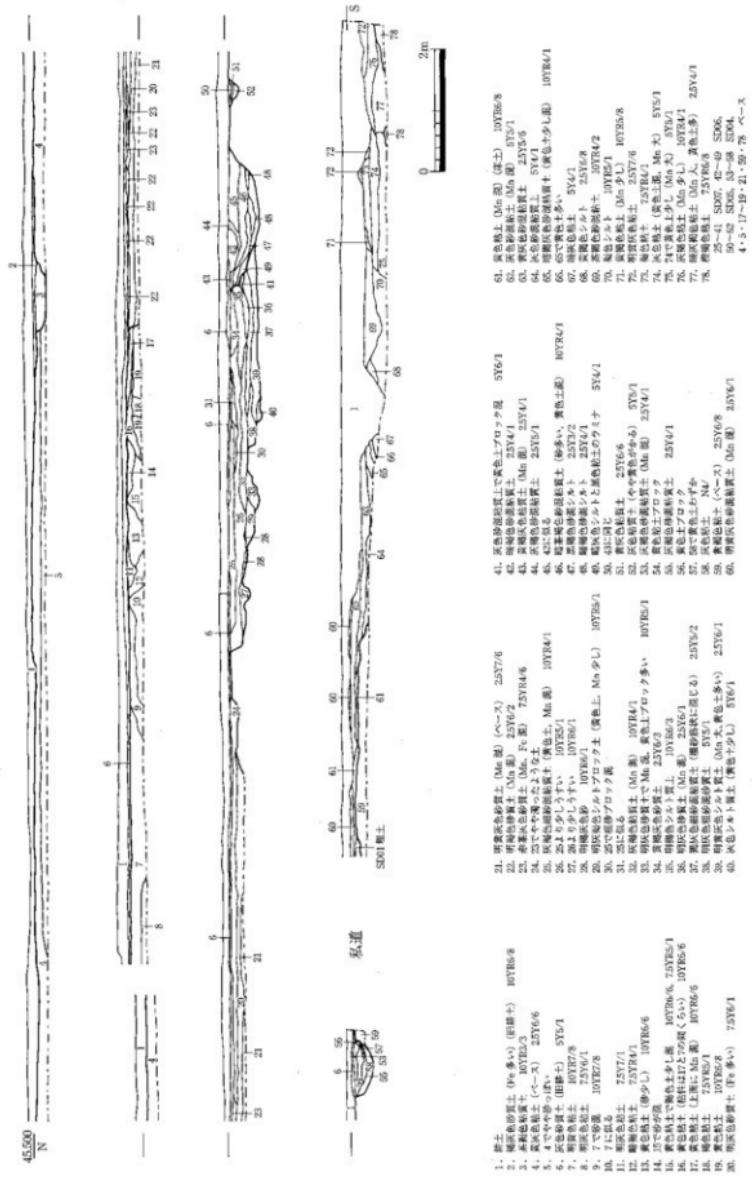
II区②では厚さ30cm程度の耕作土・床土の直下で黄褐色粘土・砂混粘土・灰褐色砂混粘土・褐灰色細砂混粘土の堆積が認められる。これらの層からはいずれも繩文時代晩期の土器が出土しており、予備調査



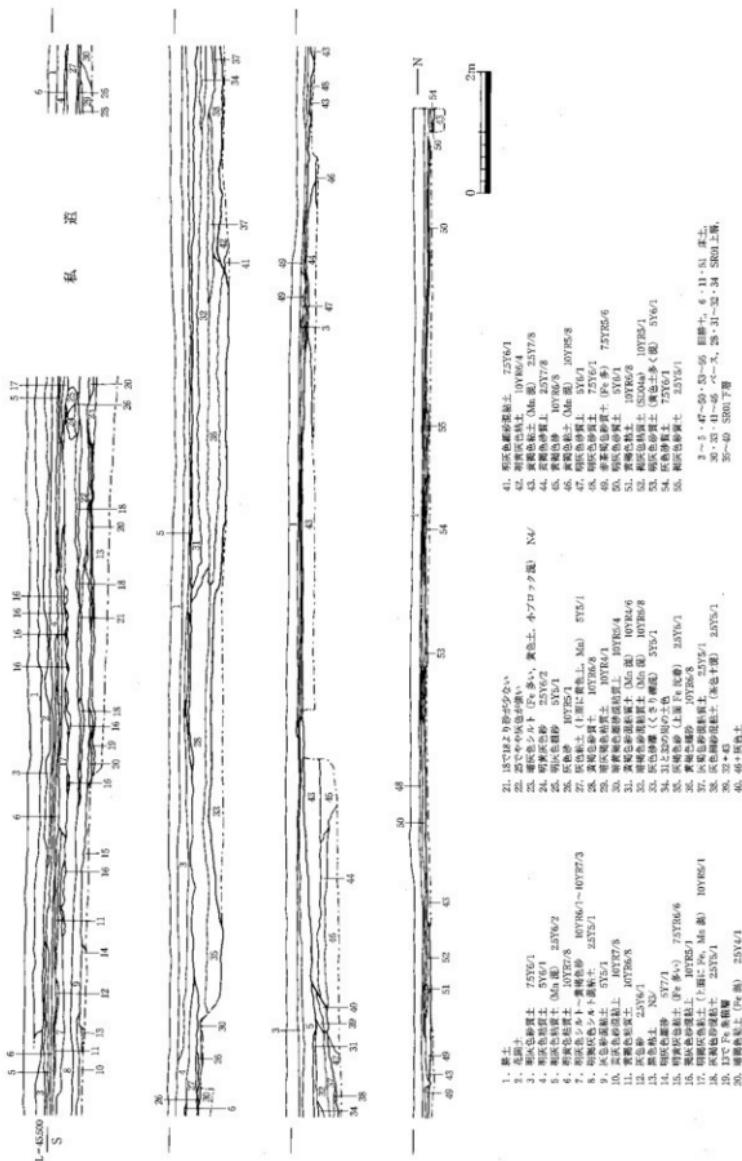
第18図 II区北壁断面図 (1/80)



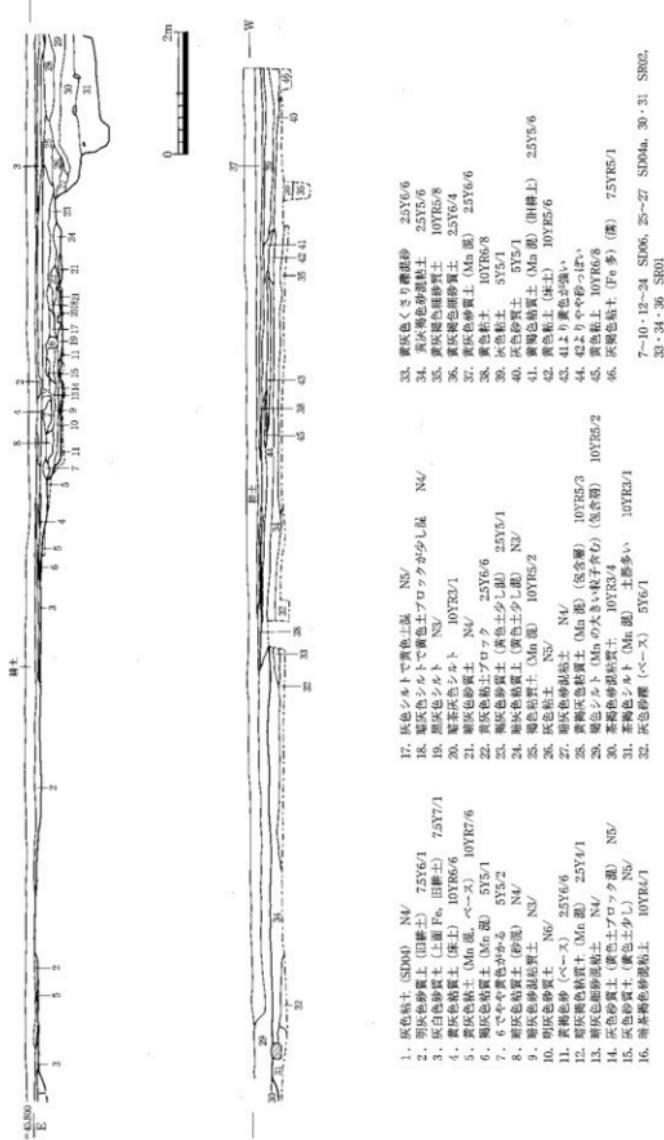
第19図 II区南壁断面図 (L/80)



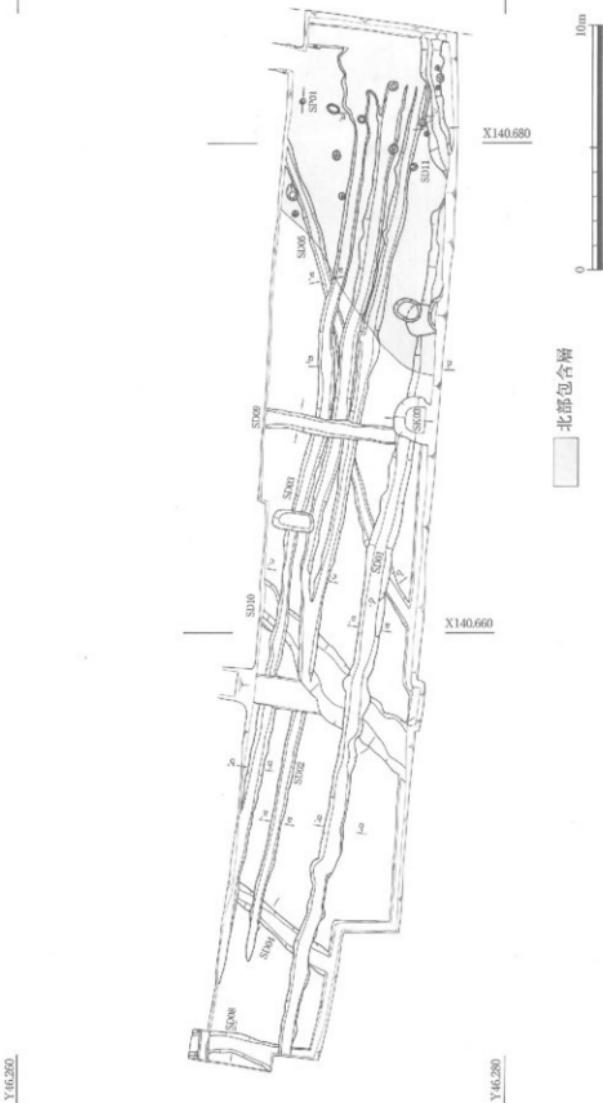
第20図 II区東壁断面図 (1/80)



第21図 II区西壁断面図 (1/80)



第23图 I区避祸配置图 (1/200)



の間にサヌカイト剥片が多く出土したのもこの層と考えられる。この落ち込みは南から3m付近から約18mにわたって検出した。この落ち込みより北側では微高地にあたり、耕作土の直下でベースを検出した。

#### ⑦中央部東西土層（第22図・図版4）

II区①・②南壁土層で作成した土層断面図である。II区①東部は厚さ15cm程度の耕作土直下のベースである黄灰色粘土層を検出したが、II区①西端部からII区②へかけて黄褐色粘土・褐色シルト層の堆積が厚さ10~40cmにわたって認められる。この層の堆積はII区①と②の境付近、この落ち込みが始まった付近で最も深く、西へ行くほど浅くなる。落ち込み部分のベースは灰色砂砾である。耕作土・床土は西側ほど厚く、II区②西半部では厚さ60cmにも及ぶ。

### 第3節 遺構・遺物

#### 1. I区の調査（第23図）

I区は条里型地割の景観をよく残す地域である。比較的安定した土地で、南半部では耕作土直下に黄褐色粘土、明黄色粘土のベースが広がる。検出した遺構は溝が大部分でピット、土坑を数基ずつ検出した。溝は条里型地割と同方向のものと北西-南東方向のものがあり、切り合い関係より後者が古い。前者は条里型地割施工後の、後者は施工前の溝と考えられ、地形の制約を受けたものと考えられる。調査区北半部、SD09付近から徐々におおむね灰褐色粘土の包含層が堆積を始め、調査区北端では浅い落ち込み状を呈する。溝はその包含層に覆われる。北部にはピットが数穴見られるが、掘立柱建物を復元するには至らない。いずれも溝より新しいと考えられる。土坑は円形や橢円形のものを数基検出している。いずれも溝を切るもので、埋土から近世～現代のものと考えられる。

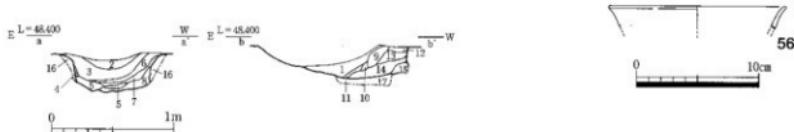
#### SD01（第24・25図、図版5）

I区東部を南北方向に通る溝である。検出長約36mで、南・東で調査区外へ出る。溝の底は北側へ傾斜する。幅88cm、深さ30cm、断面形状は南半部ではボウル状、北部では逆台形である。溝の方向はおおむね周辺条里型地割に沿う。この溝はSD04・05・08・10を切る。SD09・11との前後関係は不明である。この溝は条里型地割の坪界線に相当する。埋土中からは須恵器杯口縁が出土した。

56は須恵器杯。8~9世紀頃か。

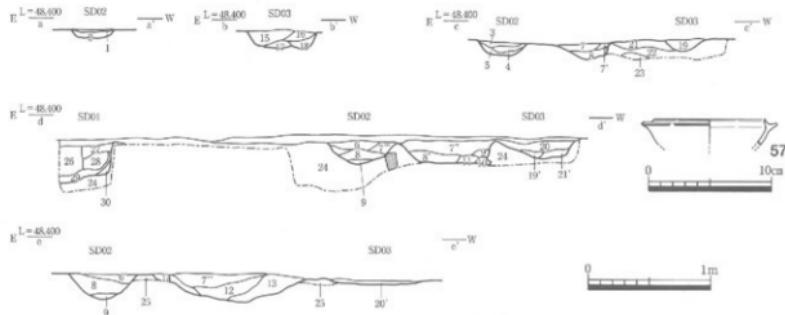
#### SD02（第25図、図版5）

I区中央部付近を南北方向に通る溝である。南端部では途切れ、中央部付近で二又に分かれる。北端部



- |                           |                         |                            |
|---------------------------|-------------------------|----------------------------|
| 1. 黄色粘土（床土） 10YR6/8       | 7. 6' 6"より砂が細かい         | 13. 茶褐色粘土質土 (Mn 混) 10YR4/1 |
| 2. 明褐色砂質土 (Fe 多い) 10YR7/1 | 8. 灰色砂 N6/              | 14. 灰色シルト質粘土 25Y5/1        |
| 3. 明灰色粘土 5Y6/1            | 9. 灰色砂質土 N5/            | 15. 褐色砂質粘土 25Y5/1          |
| 4. 灰白色粘土 5Y7/1            | 10. 1のブロック              | 16. 黄色粘土 10YR6/6 (ベース)     |
| 5. 明褐色粘土 25Y6/1           | 11. 灰色粘土 N5/            | 17. 明灰色砂 N6/ (ベース)         |
| 6. 明褐色砂質土 10YR6/1         | 12. 灰色砂質土 (Mn 少し) 5Y5/1 |                            |

第24図 I区SD01断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



1. 黄灰色粘質土 25YR5/6
2. 黄色粘土 (Mn 少し) 7.5Y5/1
3. 明灰褐色砂質土 (Fc 脱、黄色土混) 10YR7/1
4. 明灰褐色砂質土 (Mn 混) 10YR6/1
5. 明灰褐色砂質土 10YR6/1
6. 黄褐色砂混粘質土 10YR4/2
- 6' 7' - 20' 同じ
7. 棕色砂質土 10YR5/3
- 7' 4' 少し黄褐色土
- 7'' 黄褐色砂混粘質土 10YR5/1
- 7''' 黄褐色砂質土 (Mn 枯混) 25Y5/1
8. 黄褐色粘土 10YR5/1
- 8' 黄褐色砂質土 10YR5/1
9. 棕色砂質土 25Y5/2
- 9' 細灰褐色砂 25Y5/1
10. 黄褐色砂混粘質土 10YR5/1
11. 明黄灰色砂質土 10YR6/3
12. 黄褐色砂混粘土 (Mn 混) 10YR5/1
13. 黄褐色砂混粘土 (Mn 混) 10YR6/1
14. 黄褐色粘土 10YR5/1
15. 黄色砂質土 (Mn 混) N5/
16. 黄色砂質土 (上面に Fe) 7.5Y5/1
17. 黄色砂 (Fe 多い) 7.5Y3/1
18. 黄色粘土 5Y5/1
19. 明灰褐色砂混粘質土 (黄色土・Mn 混) 10YR6/1
- 19' 明灰褐色砂質土 10YR6/2
20. 明灰褐色砂混粘質土 (Mn 混) 10YR5/1
- 20' 黄褐色砂質土 (Mn 枯混) 25Y5/1
21. 明灰褐色粘土 (ベース) 25Y6/1
- 21' 明灰褐色砂質土 10YR6/2
22. 明灰褐色砂質土 (ベース) 10YR6/1
23. 明灰褐色砂 (ベース) 25Y7/1
24. 黄灰色粘土 (ベース) 10YR6/6
25. 明灰褐色粘土 (黄色土少し混) 25Y7/1
26. 黄褐色粘土 10YR4/1
27. 明灰褐色粘土 25Y6/1
28. 黄灰色粘土 10YR6/4
29. 明灰褐色砂混粘土 25Y5/1
30. 明灰褐色粘土 (黄色土少し混) 25Y7/1

第25図 I区 SD01・02・03断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



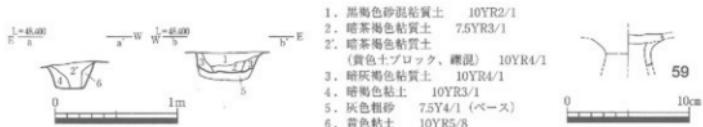
第26図 I区 SD04断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

では包含層の落ち込みと一体化する。溝の底のレベルは北へ傾斜する。幅は南部で40cm、北部で180cm、深さ10~20cm、断面形状は半円状である。SD01とほぼ平行に流れ、SD01の約1.5m東側に位置する。この溝はSD04・05・10・11を切り、SD09に切られる。埋土中からは須恵器杯身が出土したが、溝の時期を反映するものではないであろう。SD01とともに畦道状の遺構を形成していた可能性もある。溝の時期はSD01と同じ頃と考えられる。

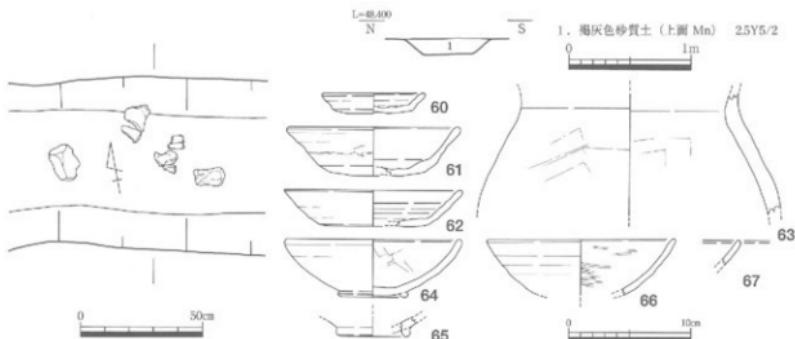
57は須恵器杯身。退化した返りが付き、残存部分では回転ナデで仕上げる。7世紀初頭頃。紛れ込みと考えられる。

### SD03 (第25図、図版5)

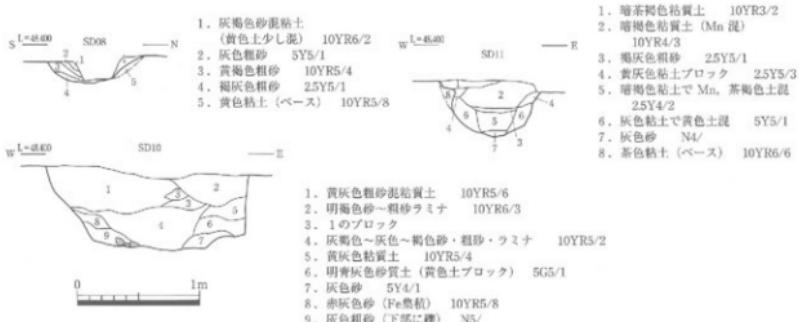
I区西部を南北方向に通る溝である。西で調査区外へ延び、南で包含層の落ち込みと一体となる。SD02の西約50cmの位置をSD02と平行に走る。幅30~65cm、深さ10~18cm、断面形状は半円状である。この溝はSD04・05・10・11を切り、SD09に切られる。SD02とは切り合い関係はない。埋土中からは土師器、須恵



第27図 I区 SD05断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



第28図 I区 SD09遺物出土状況 (1/20)、断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



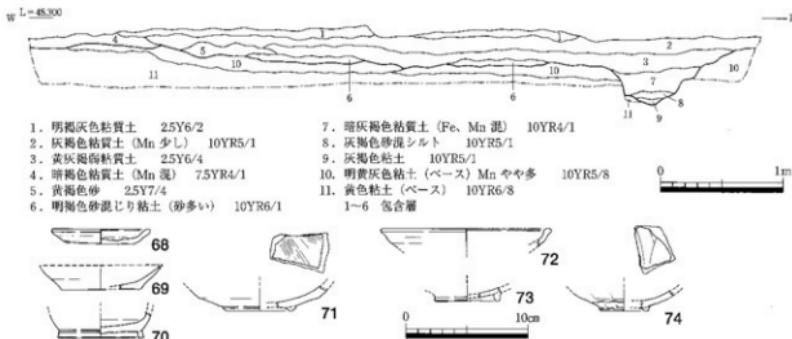
第29図 I区 SD08・10・11断面図 (1/40)

器の小片が出土した。溝の時期はSD01・02と同じ頃と考えられる。溝の方向性や埋土からSD01～03はおむね同時期に機能していたと考えられる。

#### SD04 (第26図、図版5)

I区南部を北西～南東方向に通る溝である。幅70cm、深さ30cm、断面形状はボウル状である。この溝はSD01・02・03に切られる。埋土中からは弥生土器小片が出土した。埋土は砂層で占められ、流れに勢いがあったことがわかる。この溝は予備調査5トレンチおよび38トレンチで検出した溝へつながると考えられる。条里制施工以前の溝で、地形の制約を受けた溝と考えられる。

58は弥生土器甕。内外面とも板ナデをする。弥生時代後期。



第30図 I区北部包含層断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

#### SD05 (第27図、図版5)

I区中央部から北で検出した溝である。幅38cm、深さ22cm、断面形状は逆台形で、溝の方向は南南東から北北西を向く。この溝はSD01・02・03に切られる。埋土中からは土師器高杯が出土した。溝の時期は6世紀末頃と考えられる。

59は土師器高杯。脚部と杯部の接合部付近。接合部には接着しやすいように円弧状の刻みが施されていた。6世紀末頃。

#### SD08 (第29図、図版5)

I区南端で検出した東西方向の溝である。東と西は調査区外へ延びる。検出部分ではやや北側へ弓なりになっているが、おおむね東西方向を指す。幅80cm、深さ24cm、断面形状は半円形である。埋土の下半部は褐色粗砂層で、ある程度の流れがあったことが想定できる。予備調査38トレンチで最も南側で検出した溝へつながる可能性が高い。この溝はSD01・03に切られる。埋土中からは摩滅した須恵器片が出土した。

#### SD09 (第28図、図版5、15)

I区中央部付近で検出した東西方向の溝である。幅70cm、深さ13cm、断面形状は浅い皿状、埋土は褐色砂質土である。この溝はSD02・03を切る。埋土中で溝と重複しない部分から土師質土器杯D、小皿、須恵器碗などが出土した。溝の時期は出土遺物から12世紀後半～13世紀前半と考えられる。

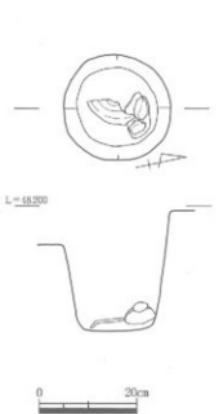
60～62は土師質土器。60は小皿。底部は回転ヘラ切りによる。61・62は杯D。61は体部に粘土の継ぎ目痕跡を残す。62は糠穀目を顕著に残す。63は弥生土器壺。混入か。64～67は須恵器碗。いずれも西村産。64は内面に板ナデ痕、66は内面にヘラ磨き痕を残す。64・66・67は口縁端部に重ね焼き痕跡を残す。

#### SD10 (第29図)

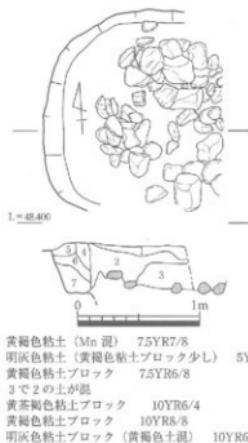
I区南部で検出した溝である。北西～南東方向でSD04とはほぼ平行である。幅1.66m、深さ60cm、断面形状は逆台形である。埋土は砂層を主体とするもので、予備調査38トレンチで検出したもっとも北側の溝へつながると考えられる。SD04・10と同様の性格を持つ溝であろう。この溝はSD01～03に切られる。埋土中からは弥生土器壺小片やサスカイト片が出土した。

#### SD11 (第29図、図版5)

I区東南端付近で検出した溝である。検出範囲は狭いが、北西～南東方向の溝と考えられる。幅95cm、深さ46cm、断面形状はボウル状である。埋土中からの出土遺物はなかった。



第31図 I区 SP01 平・断面図 (1/10)、  
出土遺物 (1/4)



第32図 I区 SK03 平・断面図 (1/40)、  
出土遺物 (1/4)

#### 北部包含層（第30図、図版15）

I区北半部で堆積する包含層である。北端部では浅い落ち込み状を呈する。埋土は黄灰褐色弱粘質土で、厚さ約13cmを測る。SD02~04の上面に堆積する。時期は出土遺物より13世紀中～後半と考えられる。

68~71は包含層掘り下げ中に出土した遺物である。68・69は土師質土器。68は小皿。69は杯D。底部はいずれもヘラ切りによる。70・71は須恵器。70は杯B。底部にはしっかりした高台がつく。71は碗。西村産。内面に板ナデ痕跡が見える。

72は上面精査中に出土した土器である。須恵器。口縁端部を平らにする。鉢。73は南壁切切り中に出土した土器である。土師質土器碗底部。74は西壁切切り中に出土した土器である。須恵器碗。内面には放射状に板ナデを施す。西村産。13世紀前半～中頃。

#### SP01（第31図、図版5）

I区北西端で検出したピットである。直径22cm、深さ24cmで埋土は明黄灰色砂混粘土である。埋土中からは須恵器碗が出土した。このピットは北端部に広がる包含層の上面から切り込む。ピットの時期は13世紀後半と考えられる。

75は須恵器碗。高台径は小さい。内外面に板ナデ痕跡が見える。西村産。13世紀後半。

#### SK03（第32図）

I区東部中央やや北寄りで検出した隅丸方形の土坑である。東部一部は調査区外へ延びる。1辺1.7m、深さ70cm、断面形状は逆台形である。埋土は上層が黄褐色粘土ブロック、中位には10cm大の川原石が乱雜に置かれ、下層は黄色粘土ブロック+灰色粘土ブロックである。いずれも掘削されてすぐに埋め戻されたようである。遺構の時期は出土遺物より16世紀代と考えられる。

76は陶器碗。肥前系。外面は高台付近まで灰釉を施す。貫入が顕著に見られる。

## 2. II区の調査

### ①縄文時代晚期

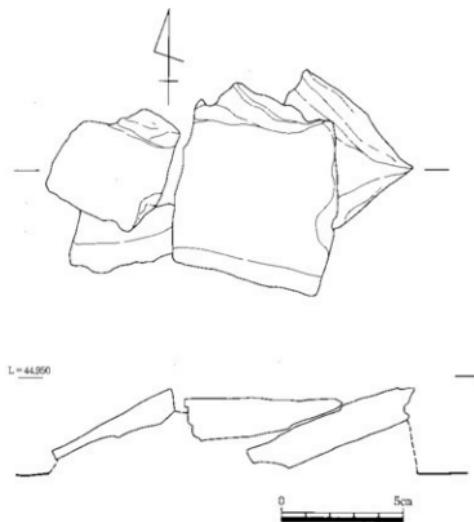
#### 集石遺構（第33・35図、図版6・15・16）

II区②南西部、SR01除去後に検出した。SR01埋土除去中にSR01のベースとした灰色くさり疊混砂層の上面でサヌカイト剥片集中部として検出したが、掘り方は検出できなかった。検出した範囲は9cm×15cm程度で、4片のサヌカイト片が重なって出土した。4片のうち3片が折れ面で接合した。予備調査の際に集石遺構の約3m西側で設定した21S1トレンチの南部の灰褐色中～粗砂からは機械掘削中に多量のサヌカイト剥片が出土した。この層は遺構のレベルや土層からSR01のベースとした層と同一と考えられ、周辺にはサヌカイト集石遺構があったと考えられる。ただし、調査範囲内には同様の遺構は他には存在しなかった。

77～80はサヌカイト板状剥片。このうち77～79までが折れ面で接合した。77～79が分割される前は、背面は図の左下から、裏面は図の左下から叩いて剥片を取り、その後背面右下部、裏面上部、左下部、右下部で剥片を取り。背面上部の剥片は、板状剥片が折れる前に取られたことがわかるが、残りは不明である。縁辺部にはわずかに加工が施される。80は集石遺構のなかで唯一接合できなかった資料である。石材も異なるようである。

#### SK06（第36図、図版16）

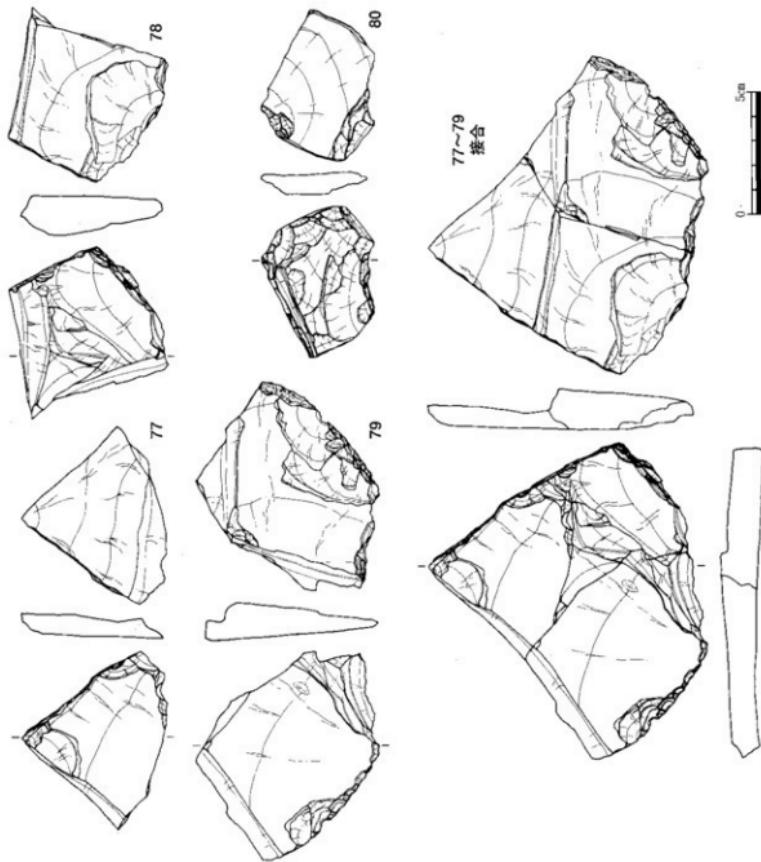
II区①東南部で検出した土坑である。長椭円形で長径2.0m、短径1.1m、深さ55cm、埋土はおもに明褐色砂質土（Mn多い）である。断面形状は底部にやや凹凸がある。埋土中からは縄文土器と思われる土器小片が小袋に満杯出土した。



第33図 II区集石遺構平・断面図（1/2）



第34図 II区遺構配置図 (1/200)

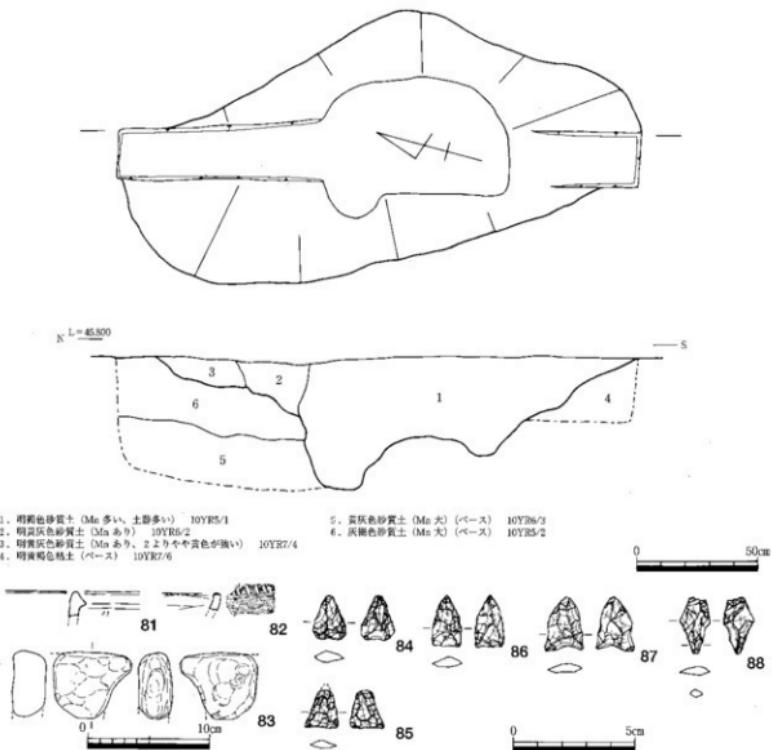


第35図 II区集石遺構出土遺物（1/2）

81・82は縄文土器。81は深鉢。口縁端部直下に突帯を巡らせ、その下部にヘラ書きで縦～斜め方向の文様を入れる。82は浅鉢。口縁端部に刻み目を施す。ともに縄文時代晩期後半。83は不明土製品。摩滅が著しい。84～88はサスカイト製石器。84～87は石鎌。84～86は平基式。87は凹基式。88は石錘未製品か。端部折損。

#### 火處1（第37図、図版17）

II区②南東部、SR01の縁辺で検出した焼土塊集中部である。近接して同様の焼土塊集中部をさらに3ヶ所検出した。検出範囲は1.05m×0.9mの楕円形、検出レベルはおおむねSR01上層掘り下げ後と同じで、SR02の上面である。遺構の掘り込みはみられず、上面に焼土が広がるのみである。火處と考えられる。

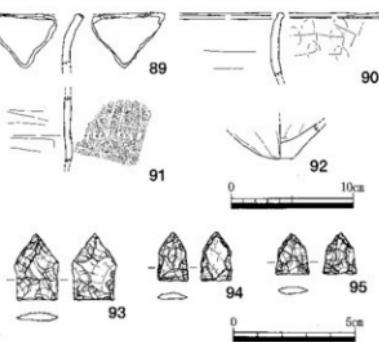


第36図 II区SK06平・断面図(1/20)、出土遺物(1/4)・(1/2)

89~92は繩文土器。89~90は深鉢口縁部。89は口縁端部に不等間隔に刻み目を持ち、内面にわずかに段を持つ。波状口縁の可能性がある。内外面ともナデ調整である。90は口縁端部内面にわずかに段を持つ。内外面とも板ナデで調整する。91は体部片。左向きの爪形文を施し、その上部に縦方向のヘラ描き沈線文、下部は調整不明である。内面はナデである。92は深鉢底部。93~95は石鐵。いずれもサスカイト製。平基式でいずれも側縁中程に角を持つ5角形に近い形状である。

#### 火処2

II区②SR01の縁辺部、火処1の約20cm北側に接近して検出した焼土集中部である。1.05m ×



第37図 II区火処1出土遺物(1/4)・(1/2)

0.8mの楕円形の範囲で検出した。検出面は火處1と同じで、遺構の掘り込みは見られず上面に焼土が広がるのみである。火處と考えられる。

#### 火處3

II区②SR01縁辺部、火處2の約2.5m北西側で検出した焼土集中部である。検出範囲は直径0.45mの円形の範囲で検出面は火處1・2と同じである。遺構の掘り込みはみられない。火處と考えられる。

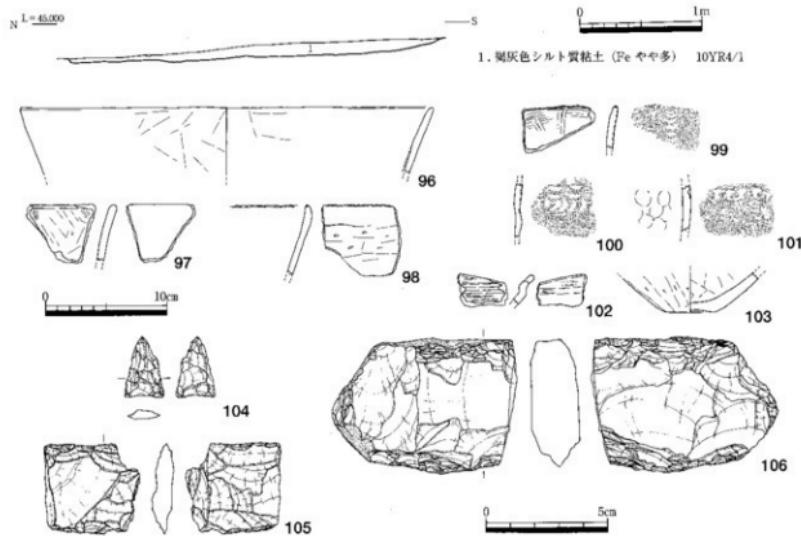
#### 火處4（図版8）

火處2の約11.2m南西方向で検出した焼土集中部である。火處1～3とは少し離れた位置にある。検出範囲はおおむね直径0.4mの円形の範囲で検出面はSR01上層除去後である。遺構の掘り込みは見られない。火處と考えられる。

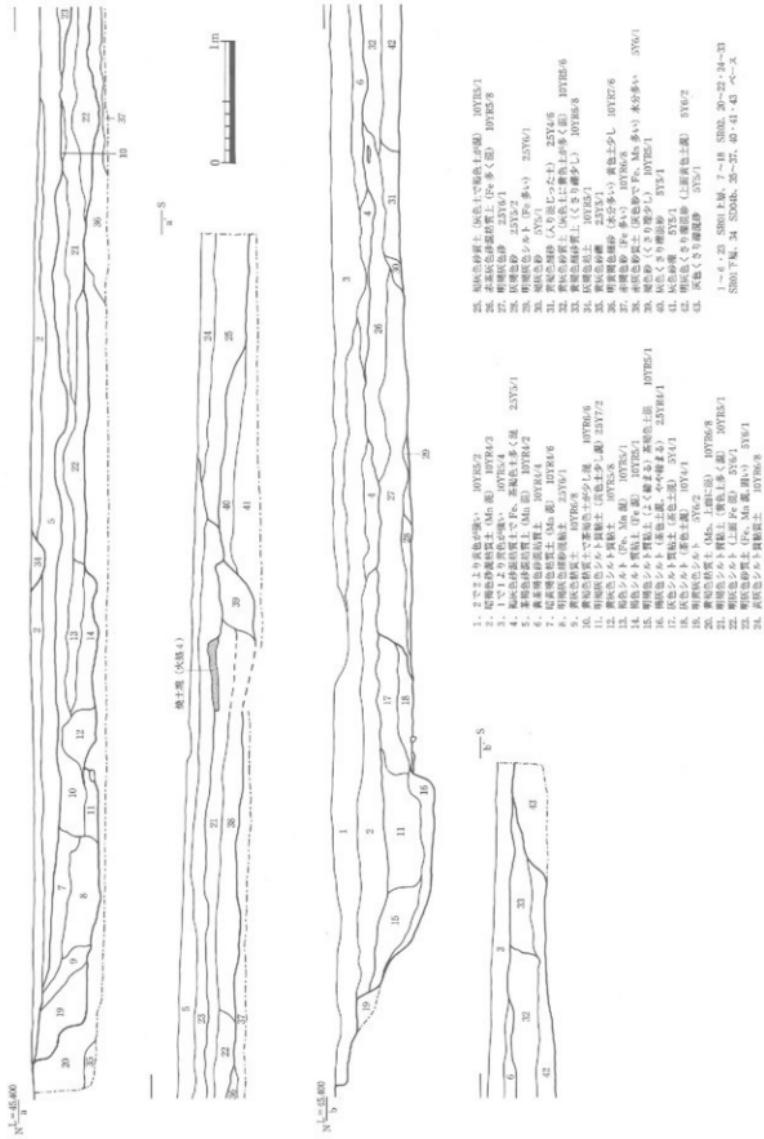
#### SX01（第38図、図版6・17）

II区南西部で検出した浅い落ち込みである。SR01除去後に検出した。直径約3mの楕円形で、深さ10cm、埋土は褐色シルト質粘土（Feや少）、断面形状は浅い皿状である。SR01の一部の可能性もあるが、他の部分より遺物がやや集中して出土しており、別遺構として報告した。

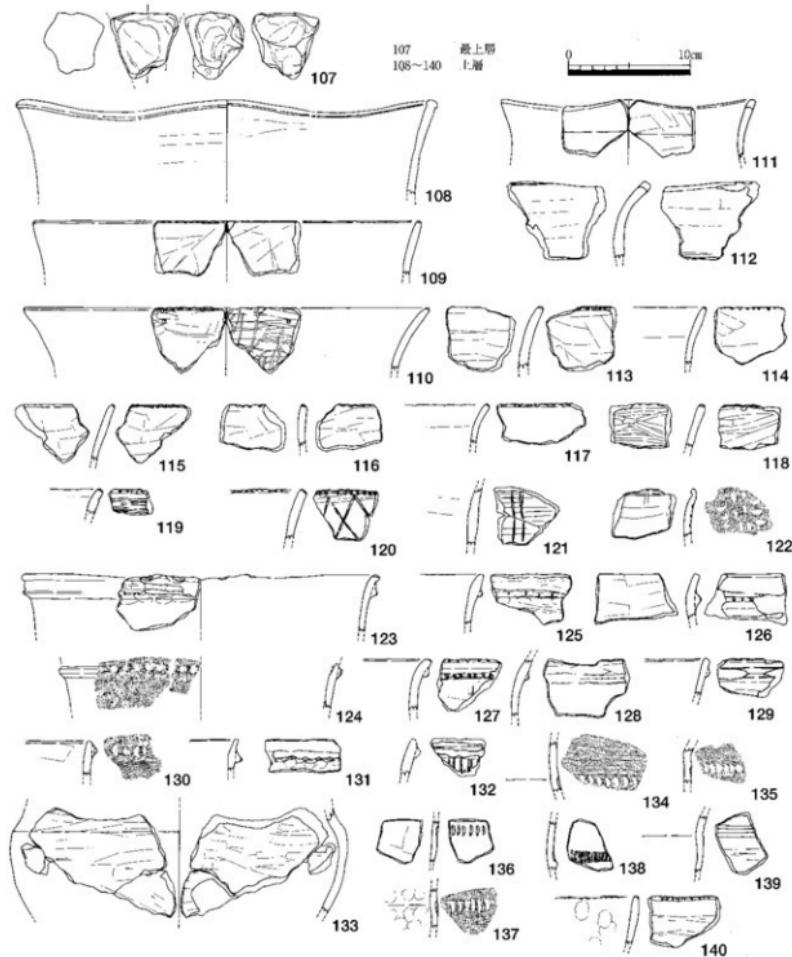
96～103は縄文土器である。96～101は深鉢。96・97は口縁部で、端部に刻み目などを持たないもの。調整は内外面ともナデである。98は口縁部で、端部に刻み目を持つ。外面はヘラ削りをする。99は口縁端部に刻み目を持ち、端部内面にわずかに沈線を持つ。波状口縁のもので、波状のトップ部分で上向きの爪形文+右向きの爪形文+上向きの爪形文の、縦に3列の爪形文が残る。口縁端部の刻み目はトップ部分にのみ施される。内面にはヘラミガキに近いナデが施される。100・101は体部中央付近。ともに横方向の文様帯を残す。100は左向きの爪形文と、その上部に上向きで縦方向2列の爪形文を施す。101は右向きのコの字型の文様を施す。下部はヘラ削りする。102は浅鉢。波状口縁のもの。体部が屈曲する。内外面とも横方向の



第38図 II区SX01断面図（1/40）、出土遺物（1/4）・（1/2）



第39圖 II 区 SRO1断面図 (1/40)



第40図 II区SR01最上層・上層出土土器 1 (1/4)

ヘラミガキをする。103は深鉢底部。外面はヘラ削りする。104～106は石器。いずれもサスカイト製。104は石鎚。平基式。105・106は楔形石器。105は下部に敲打痕が、106は上部に自然面が残る。

**SR01** (第39～45図、図版8・17～21)

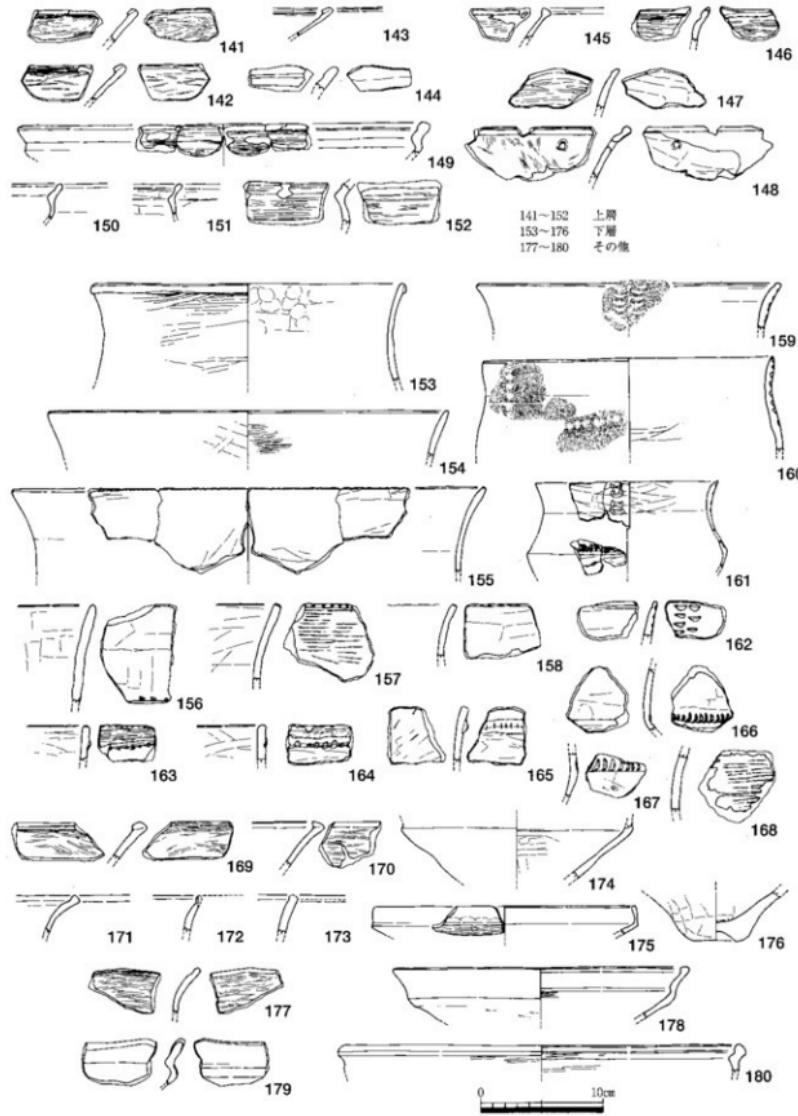
II区②南部で検出した低地である。II区②を南東から北西方向へ向く落ち込みであるが、II区④では北東隅で、II区①では南西隅でわずかに検出されているだけで、おおむねその部分で終わる低地状の構造である。幅14.3m、深さ20～30cm、断面形状は浅い皿状である。埋土は上層が暗褐色、茶褐色粘質土などや土壤化の見られる土層、下層は灰色砂混じり粘質土・シルト質粘土など、やや砂っぽい灰色の層である。最上層は

やや黄色の強い色調を示す。遺物は上層と下層にわけて取り上げた。

107は最上層・暗黄褐色粘質土から出土した遺物である。不明土製品。摩滅が著しい。108～152は上層から出土した遺物である。大半はSR02の上面あるいはその付近で出土している。108～140は深鉢。108・111・112は口縁部に刻み目を持たないもの。ともに波状口縁で内外面ともナデ調整である。108は口縁端部が若干肥厚する。109～120（111・112を除く）は口縁端部に刻み目を持つもの。109・113～117は内外面をナデで調整する。110は口縁部下に焼成前穿孔が1ヶ所残存する。内面はヘラミガキに近いナデで調整する。118も内外面にヘラミガキに近い光沢のあるナデを施す。119・121は外面を貝殻条痕で調整し、120・121は縦や斜め方向のヘラ描き沈線文を施す。122は口縁端部内面に沈線を施し、外面には上向きと左向き合計縦4列の爪形文を施す。123～132は口縁端部下部に突帯文をもつもの。突帯の断面3角形またはそれに近い台形である。調整はおむねナデである。123～128・130・131は刻み目突帯である。132は突帯の上面が摩滅しているので刻み目の有無は不明である。123・127は口縁端部にも刻み目を持つ。132は突帯の下部に縦方向のヘラ描き沈線を施す。133～139は体部片。133は体部屈曲部付近から下部が残る。屈曲部に文様は施さない。屈曲部から上部はナデ、下部はヘラ削りする。134～138は屈曲部付近に左向きの爪形文を施す。134は爪形文より上部を貝殻条痕で調整し、他は不明である。爪形文より下部は136はナデ調整、137はヘラ削りが観察できる。139は屈曲部に2条のヘラ描き沈線を施し、その下部はヘラ削りする。140は深鉢または粗製の浅鉢。口縁端部に刻み目を施し、外面はヘラ削りする。

141～152は浅鉢。141～144は体部立ち上がりが緩く、口縁端部を内側に折り曲げて玉縁状にする。141・142には内外面にヘラミガキ痕跡がある。144は波状口縁になる。145～147は口縁部の立ち上がりが急なものである。145・147・148は内面のみヘラミガキ、146は両面をヘラミガキする。いずれも口縁端部は肥厚する。146・147は波状口縁、148は体部1ヶ所に焼成前穿孔による穿孔が残る。149・150は口縁部と体部の境が屈曲し、さらに体部に屈曲部を持つものである。口縁端部は若干肥厚する。151・152は口縁部と体部の境に屈曲部を持ち、体部は丸くするもの。151は口縁端部を若干肥厚させる。調整のわかるものは内外面ともヘラミガキする。

153～176は下層から出土した土器である。ほとんどはSR01ab断面間、SD04bの南側で出土した。153～168は深鉢。153・154・156は口縁端部に刻み目を持たない。153は口縁端部を肥厚させる。155・157・158は口縁端部に刻み目を施す。153・157は体部外面上部を貝殻条痕で調整し、他はナデまたは板ナデである。156は体部中央付近に刺突文を巡らせる。159～162は口縁部から体部にかけて縦方向の爪形文を施すもの。調整はいずれもナデによる。159は縦2列の上向きの爪形文の間に刺突文を縦1列に配する。口縁端部内面に沈線を1条巡らせる。160は半円形の上向きの爪形文を縦1列に施し、体部中程の緩い屈曲部に左向きの半円形の爪形文を巡らせる。161はやや小型のもの。上向きのコの字型の刺突文を縦1列に配し、体部屈曲部に左向きの刺突文を巡らせる。口縁部と体部は直接接合はしないが、胎土や形態・調整上の特徴から同一個体であることは確実である。162は上向きの爪形文を2列に配する。口縁端部内側に沈線を巡らせる。波状口縁である可能性がある。163～165は貼付突帯を巡らせるもの。調整はいずれもナデであるが、163の貼付突帯の上面にはヘラミガキが施される。163は口縁端部に刻み目を持つ。163・164は貼付突帯下部に円形の刺突を、165は貼付突帯に刻み目を施す。166～168は体部。166・167は体部中位付近の屈曲部付近。いずれも左向きの爪形文を持つ。166の爪形文より上部はナデ、167の爪形文より下部にはヘラケズリが観察できる。168は体部上半部。貝殻条痕が観察できる。169～175は浅鉢。169は口縁端部を内側へ曲げて肥厚させる。内外面はヘラミガキする。170は169同様口縁端部を内側へ折り曲げて肥厚させるが、169より深い器形になる。外面にヘラミガキが観察できる。内面の調整は不明。171～173は口縁端部内面に沈線を巡らせ、体部は湾曲しながら立ち上がる。174は体部下半部。屈曲部が残る。175は口縁部がほぼ



第41図 II区SR01最上層・上層出土土器2、下層出土土器、その他出土土器（1/4）

直立し、体部と口縁部の境を屈曲させる。屈曲部付近に緩い沈線が巡る。体部外面にはヘラミガキを施す。

#### 176は深鉢底部。

177～180は出土層位不明遺物。いずれも浅鉢。177は口縁端部内側に沈線を持つ。波状口縁を持ち、内外面にヘラミガキを施す。178は口縁部と体部の境を屈曲させ、口縁端部を若干肥厚させる。弥生土器高杯に似た形態。体部内面はヘラミガキ、外面にはヘラケズリが観察できる。179は体部から屈曲させた口縁部を外反させ、体部はいったん外湾した後内湾させる。口縁端部は厚みを持ち、波状口縁のものである。180は体部と口縁部の境を屈曲させ、短い口縁部を持つ。口縁端部は肥厚させる。内外面ともヘラミガキを施す。

181～291はSR01から出土した石器である。すべてサヌカイト製である。

181～183はSR01上面精査中に出土した遺物である。181・182は石鎚。平基式。183は石錐または石鎚の未製品か。縁辺部のみを加工する。184は最上層から出土した。石鎚。平基式。上部近くで緩い屈曲部を持つ。

185～256は上層からの出土遺物。185～244は石鎚。大半は平基式。225・229・240は凹基式。218は上部のみを加工し、下部は未加工の未製品と考えられる。219は片面に自然面を大きく残す。227・228は上部欠損、241は下部欠損。剥片を取った後、縁辺部のみを加工するものも目立つ（188・193・201・204・216・231・241・244）。232・236も縁辺部の加工が不充分で未製品の可能性もある。石鎚の形状は2等辺三角形のもの、縁辺部中程が抉れるように屈曲するもの（238・239・240）、膨らむように5角形状に屈曲するもの（190・191・209・215）がある。

245～249は石錐の未製品か。245～248は基部はおおむね作り出しているが、上部はほとんど未加工のまま折損している。249は石鎚の未製品の可能性もある。先端部だけ加工し、他はほとんど加工しない。250～255は楔形石器。上・下部に敲打痕を残す。254は裏面に大きく自然面を残す。256はスクレイパー。刃部をわずかに加工するだけである。上部に自然面を残す。

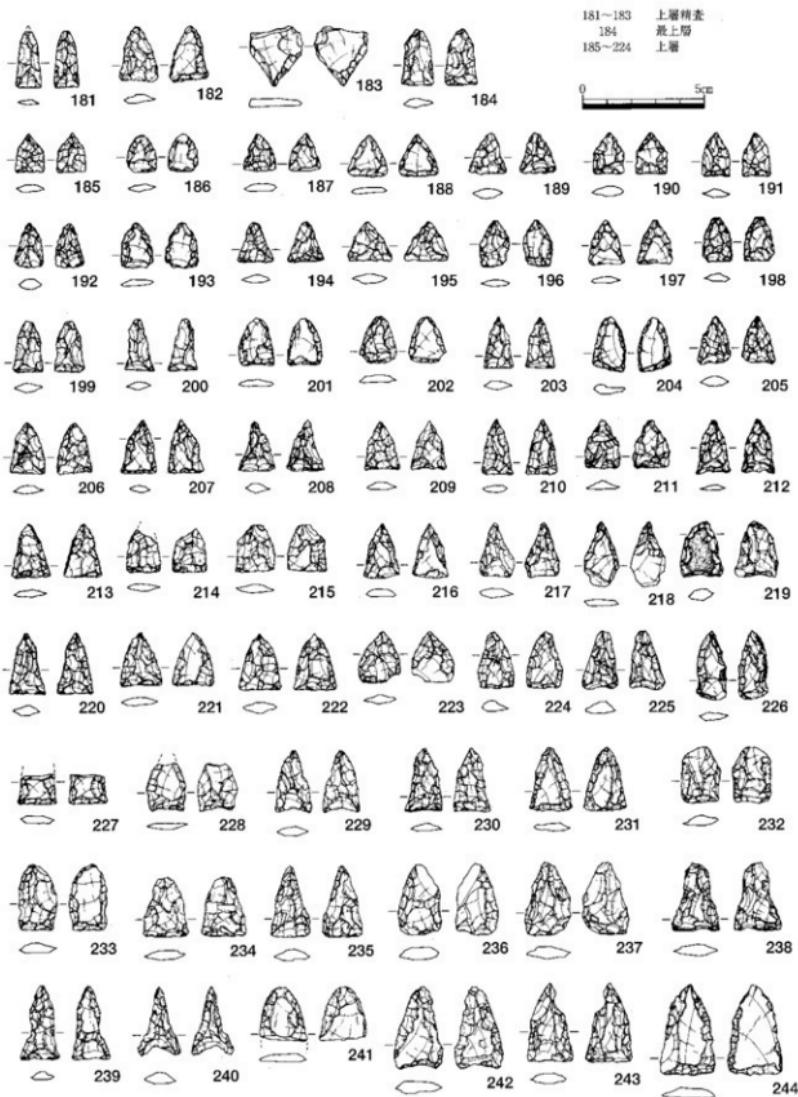
257～281は下層から出土した石器である。257～271は石鎚。265・271は凹基式。その他は平基式である。267・269は基部の加工が不充分で、未製品の可能性もある。258・259・261・267・271は縁辺部以外はほとんど加工していない。272～276は楔形石器。いずれも敲打痕が観察できる。272は片面に、275・276は上面に自然面を残す。277～281はスクレイパー。いずれも広い剥離面を残し、剥片の下部に加工しただけのものである。

282～291は出土層位不明の石器。いずれもサヌカイト製。282～290は石鎚。289は凹基式。残りは平基式である。285は縁辺のみを加工している。286は5角形の形状に近い。290は三角形の1角のみを作り出し、残りは未調整である。未製品。291は楔形石器。上・下部にも敲打痕を残す。

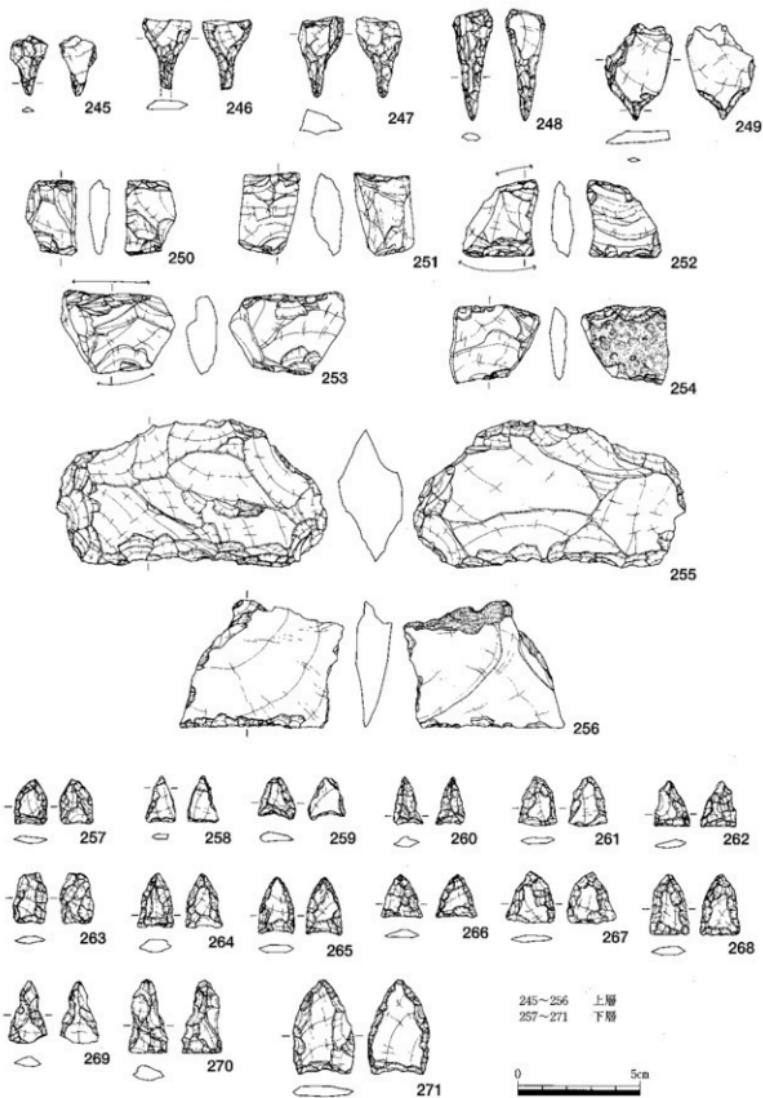
#### SR02（第46～55図、図版7・8、21～25）

II区②南部、SR01の北側縁辺で検出した落ち込み状遺構である。SR01上層掘り下げ後に検出した。II区②東南部からSR01a-a'トレントの約1.1m西側まで検出した。幅2.3～2.55m、深さ0.5～0.6m、断面形状は逆台形、埋土は上部が茶褐色砂質土、下部が褐灰色砂質土（茶色土混じり）である。II区③・④までは統かない。落ち込みの東南部では直径約3mの範囲の石・土器集中部が2ヶ所に見られた。遺物は石・土器集中部から多く出土したが、疊集中部の北西側からも一定量は出土した。遺物は上層下部（褐灰色砂質土層）と石・土器除去中にわけて掲載しており、上層下部の方がやや上面から出土した遺物であるが、基本的な層位は同じである。

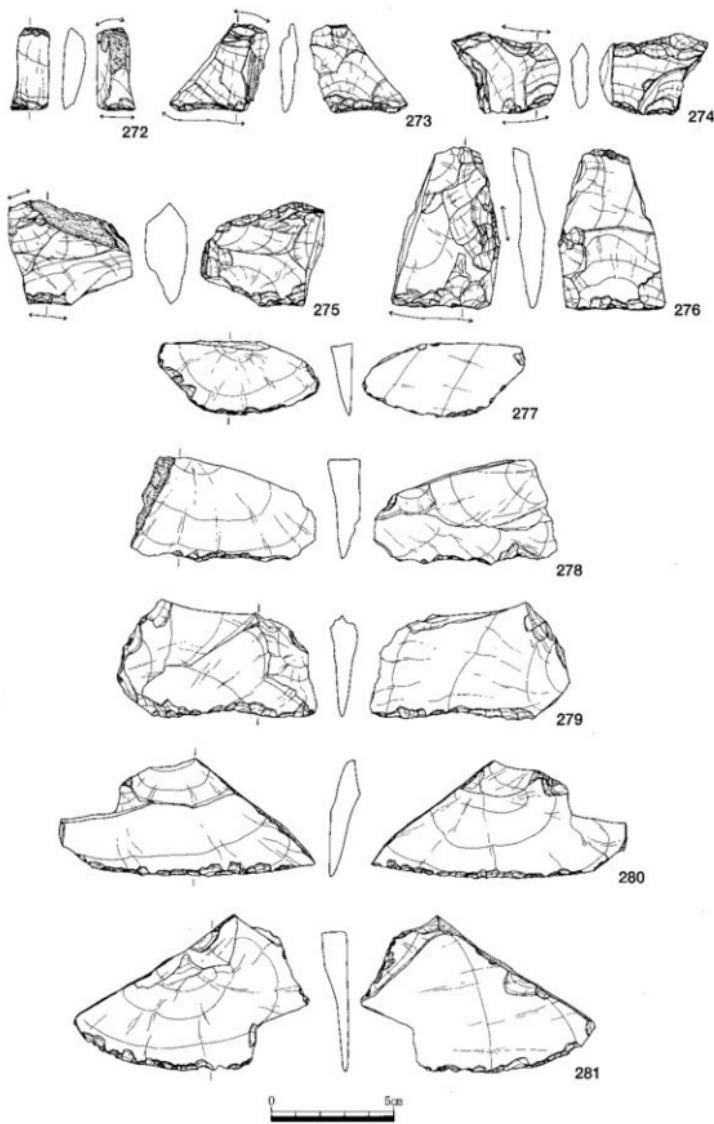
292～356は上層下部から出土した縄文土器である。292～335は深鉢。292～295は口縁端部に刻み目を持つないもの。293は外面にヘラミガキ風のナデ、294は貝殻条痕が観察できる。296～312は口縁端部に刻み目を持つ。304の刻み目は四角くした口縁端部の上端部と下端部の2ヶ所に付ける。外面調整は301は貝



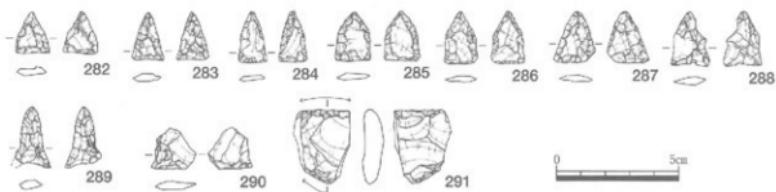
第42図 II区SR01最上層・上層出土石器1 (1/2)



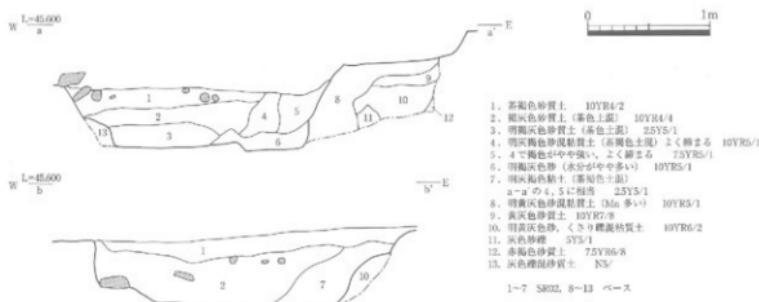
第43図 II区 SR01上層出土石器2, 下層出土石器1 (1/2)



第44図 II区SR01下層出土石器2 (1/2)



第45図 II区SR01 その他出土石器 (1/2)

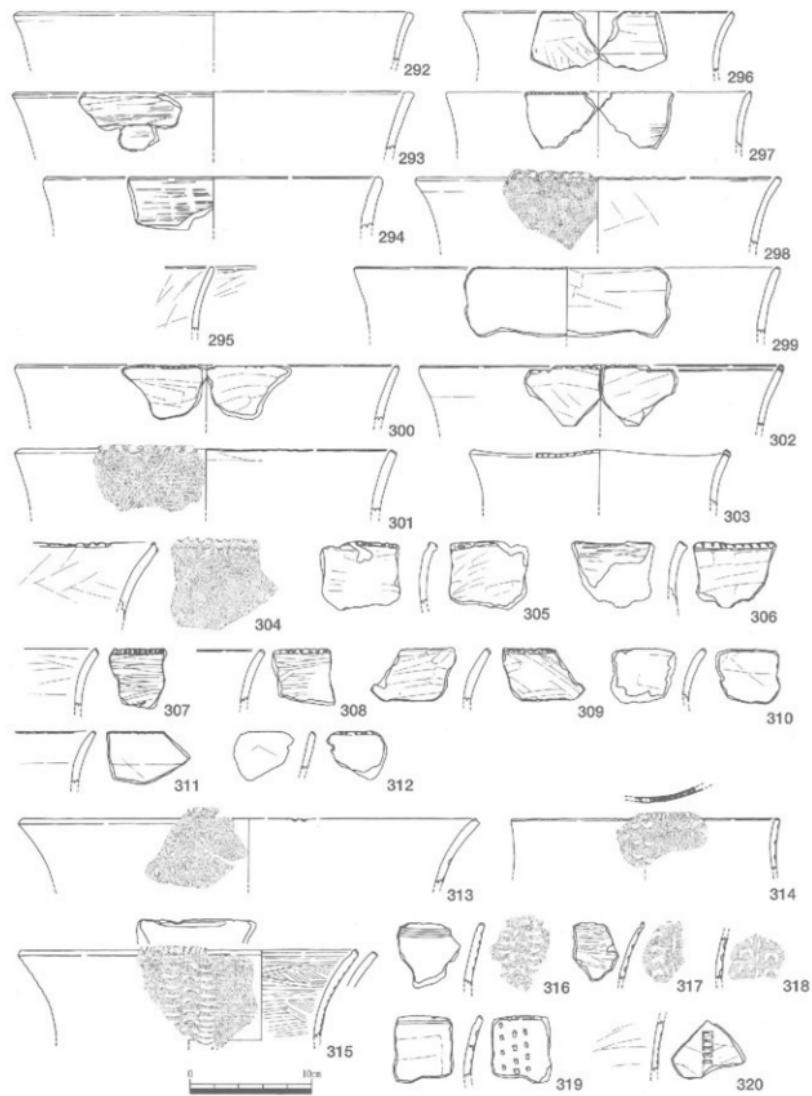


第46図 II区SR02 断面図 (1/40)

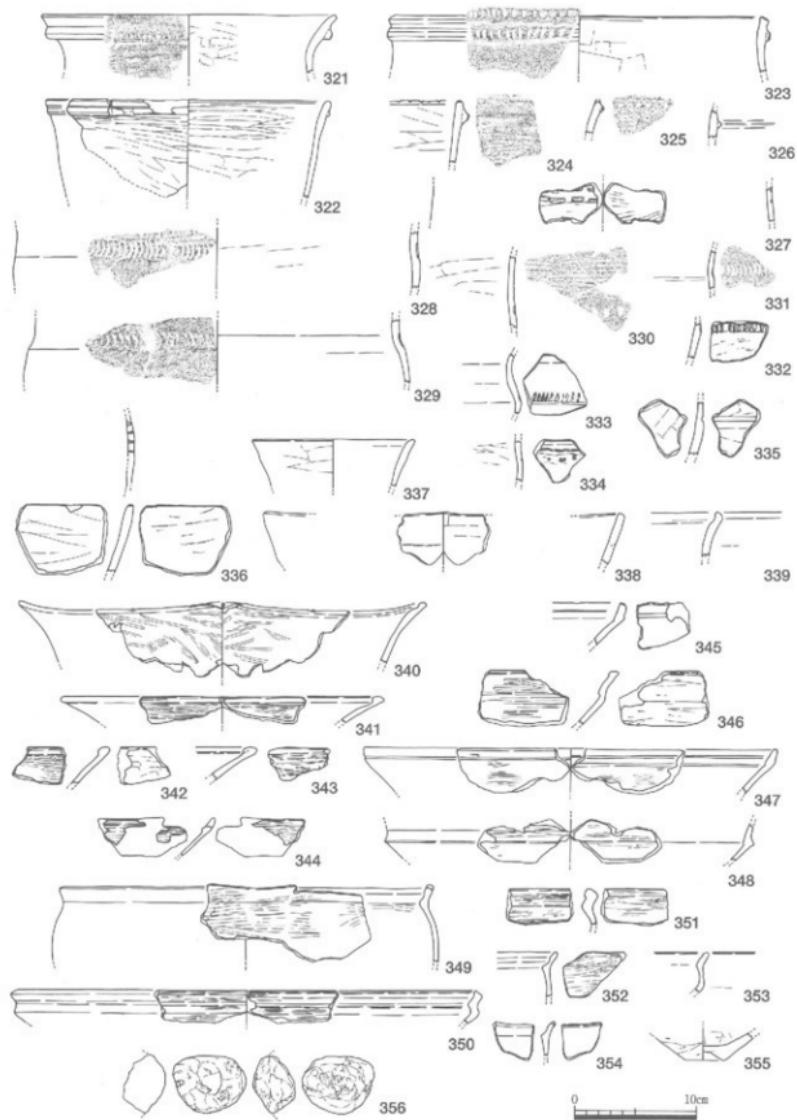
貝殻条痕、307・308は幅の広いヘラミガキ風のナデで、残りはナデ調整である。301は体部に山形のヘラ描き沈線文を描く。302の口縁形態は段状になっているのが観察できる。303は波状口縁である。312は体部に穿孔がある可能性がある。313～320は体部に縦方向の刺突文を施すもの。口縁端部が残るものにはいずれも刻み目が付く。刺突文の種類は313が3列以上の長めの列点文、314が2列の上向きの半円形の爪形文、315・316が2列の上向きの爪形文の間に1列の下向きの爪形文を挟むもの、318が2列の下向きの爪形文の間に1列の長めの列点文を挟むもので、317も同様である可能性が高い。319は3列以上の列点文、320は1列の下向きのコの字型である。315は縦方向の刺突文がある部分だけ口縁端部内面に沈線を入れる。316・317・319は口縁端部内面に沈線が観察できるが、315と同様に刺突文のある場所にだけ沈線を入れている可能性もある。外面調整は315が貝殻条痕、その他はナデ調整、内面調整は315・317にヘラミガキが観察できる他はナデ調整である。321～326は貼付突帯が付くもの。321・323～325は突帯に刻み目が観察できる。体部は強く外湾するもの（321）、緩く外湾するもの（323、325）、直線的に外側へ立ち上がるるもの（322、324、326）がある。外面調整は321・324は貝殻条痕、322は幅の広いヘラミガキ風のナデ、残りはナデ調整である。327～335は体部片。体部中程の横方向の刺突文を施す。327は横長の刺突文、328～333は左向きの爪形文を施す。334はヘラで左から右へ押し引き風にした文様とその下部に円形の刺突文を施す。335はヘラ描き沈線を1条巡らせる。外面調整は文様から上部は328・330は貝殻条痕、331・333はナデで調整し、文様から下部は327・328・332でヘラケズリが観察できる。328・329・333では体部文様帶付近で緩く屈曲するが、他はほとんど屈曲しない。336～338は粗製の浅鉢か。336は口縁端部に刻み目を持ち、外面はヘラケズリする。340～354は浅鉢。340は口縁端部内面に沈線を巡らせ、波状口縁にする。内外面ともヘラミガキする。341～343は口縁端部を内側へ折って肥厚させるもの。体部はやや浅め、



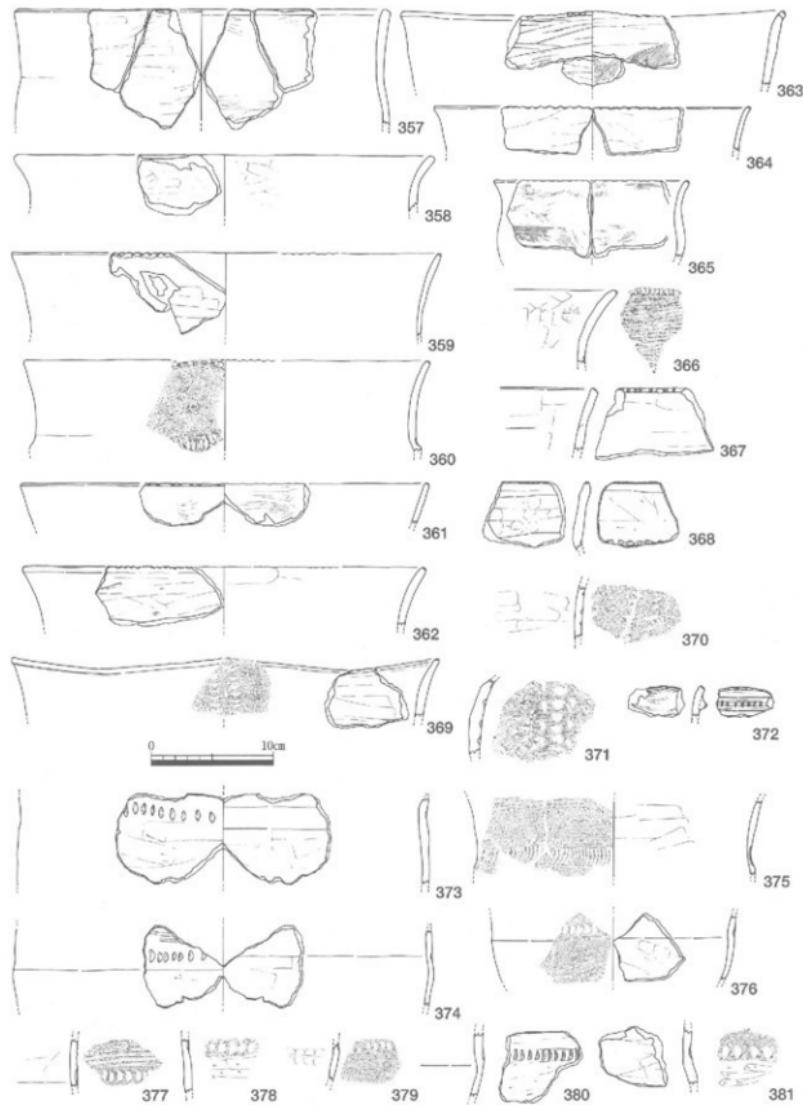
第47图 II区SR02石・土器出土状況(1/40)



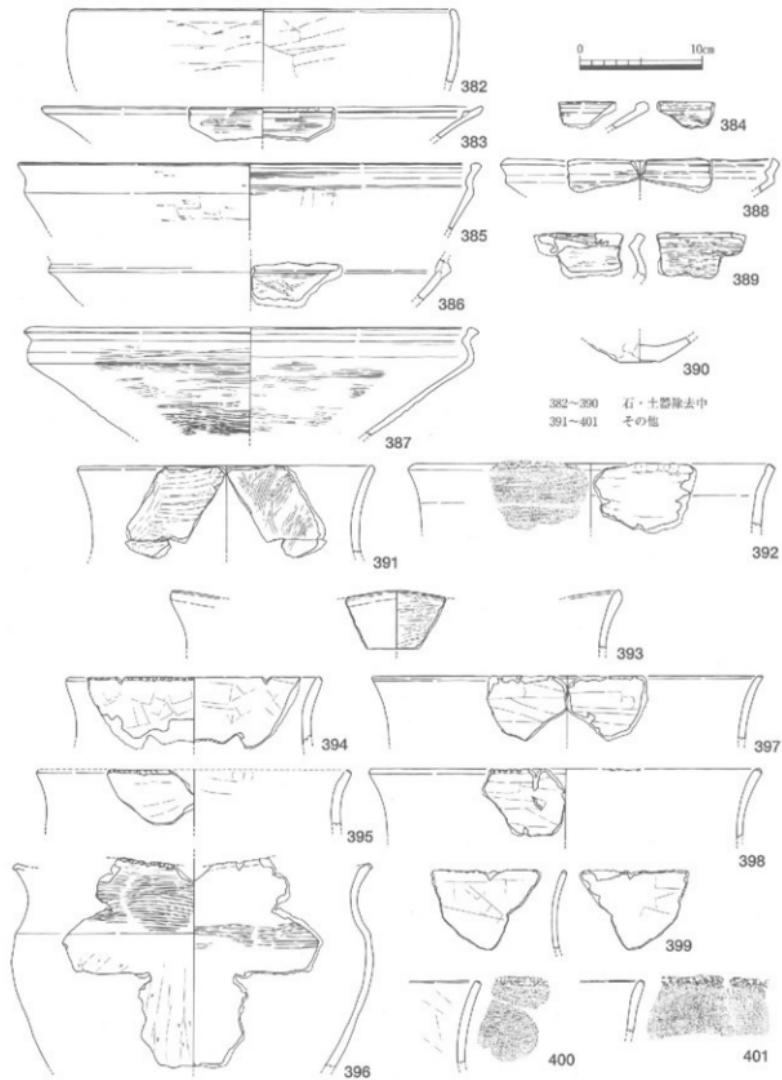
第48図 II区SR02上層下部出土土器1 (1/4)



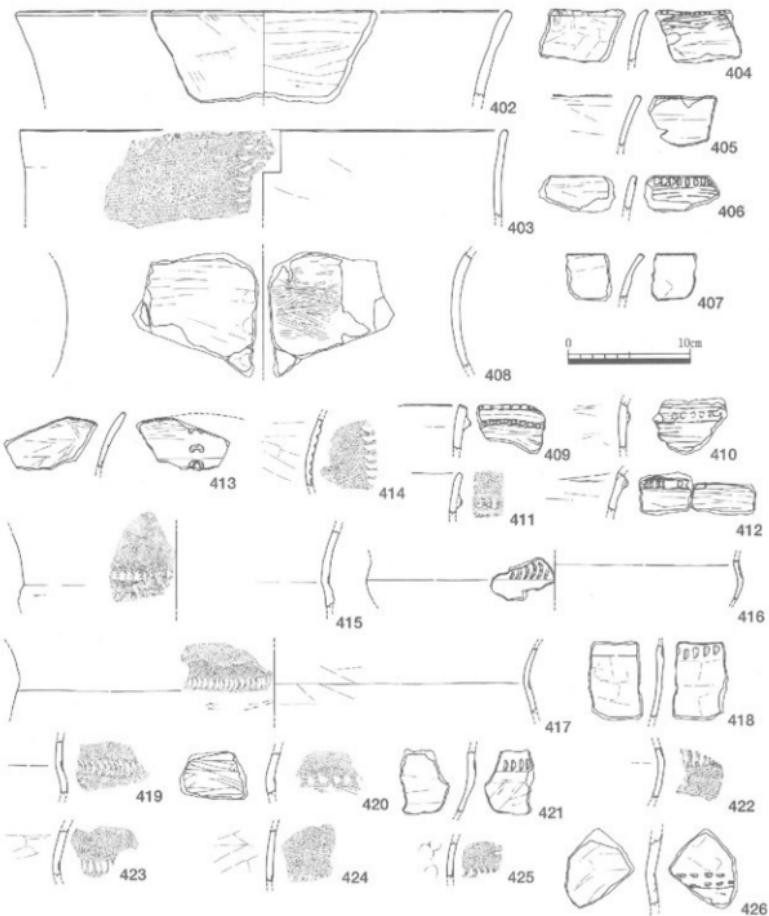
第49図 II区 SR02 上層下部出土土器 2 (1/4)



第50図 II区SR02石・土器除去中出土土器1 (1/4)



第51図 II区SR02石・土器除去中出土土器2, その他出土土器1 (1/4)



第52図 II区SR02その他出土土器2 (1/4)

直線的に立ち上がる。内外面ともヘラミガキする。344は口縁端部が段になっているもの。口縁端部は低い部分は内側に肥厚し、高い部分は先細る。内外面ともヘラミガキする。345~348は斜め上方へ立ち上がる体部と口縁部の境に屈曲部を持つもの。345・347は口縁部の立ち上がりが短く、口縁部と体部の境に沈線を巡らせる。口縁端部は345は刻み目を持ち、347は細くする。347は内外面ともヘラミガキする。346は口縁部の立ち上がりがやや長めで高杯に近い形状。内面にはヘラミガキ、外面にはヘラケズリを施す。口縁端部は平たくする。348も同様の形状になると考えられる。349・352~354は体部と口縁部の境を屈曲させ、体部は丸く、口縁端部は内面に丸みを持ちながら緩く立ち上がるもの。口縁端部は丸く仕上げる。349は口縁端部に幅広い突起状の出っ張りを持たせる。内外面ともヘラミガキする。354は波状口縁。350は口縁部と体部の境と体部上部で二度屈曲する形態のもの。口縁端部には面を持つ。351も同様の形態のものか。内

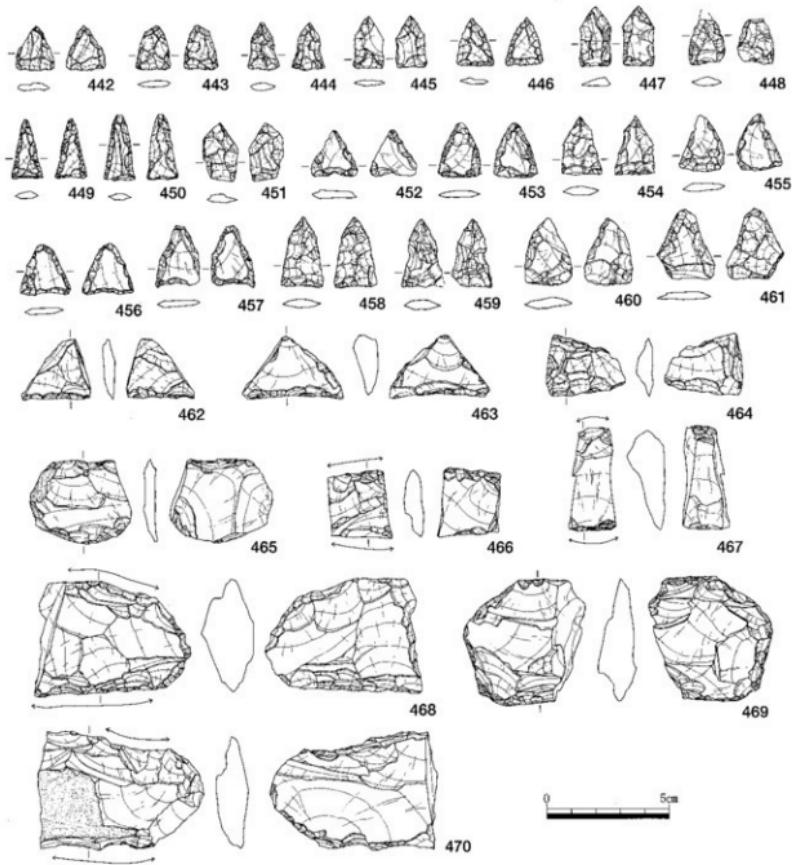


第53図 II区SR02その他出土土器3 (1/4)

外面とももヘラミガキをする。355は底部。外面はヘラケズリ。底部外面は窟む。356は焼土塊。器種不明。

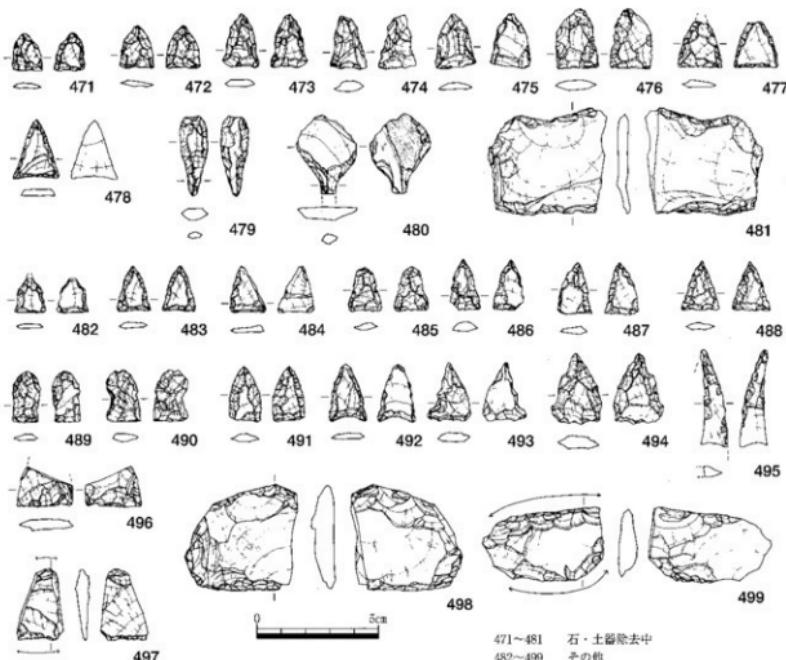
357～390は石・土器集中部の石・土器を除去中に出土した遺物である。357～381は深鉢。357・358は口縁端部に刻み目を持たない。357は体部中央部屈曲部付近に爪形文などは巡らせない。内面にはヘラミガキ状のナデ、外面上半ナデ、下半はヘラケズリする。359～368は口縁端部に刻み目を持つ。360は体部中位で強く屈曲し、左向きの爪形文を施す。363は波状口縁。368の体部中位には円形の刺突文が施される。外面調整は体部上半では363・366が貝殻条痕、362・368はヘラケズリが観察できる。365は小型のもの。体部屈曲部付近に刺突文などではなく、外面体部上半にはヘラミガキ、下半には貝殻条痕の調整痕がある。369～371は体部上半に縱向きの刺突文があるもの。369は縱向きに2列に並ぶ上向きの爪形文の間にやや間隔の開いた刺突文を1列配する。口縁端部には沈線が通り、波状口縁にする。370は2列の刺突文を配する。371は上向きの半円形に近い爪形文の両側に縱長の刺突文を配する。372は貼付突帯を持つもの。突帯には刻み目を持ち、口縁端部にも刻み目を施す。373～381は体部中位の屈曲部に爪形文などの刺突文を施すもの。屈曲は強いものとほとんどないものがある。373は縱長の刺突文、他は左向きの爪形文を施す。外面調整は374・375は上半部に貝殻条痕、373～376・378・380・381は下半部にヘラケズリを施す。382～389は浅鉢。382は粗製のもの。外面はヘラケズリする。383・384は浅めの器形。383は口縁部内面に突帯を巡らせ、384は内側へ折り曲げて肥厚させる。内外面とももヘラミガキする。385・386は口縁部と体部の境を屈曲させる。385は口縁端部を内側へやや肥厚させる。387～389は体部上部と口縁部と体部の境の2ヶ所を屈曲させるもの。体部の屈曲部は388は角を持ち、387・389は丸みを持つ。口縁端部は面を持ち内外面とももヘラミガキするが、387は外面体部下半部に貝殻条痕を残す。390は底部。

391～441は出土層位不明出土遺物。391～426は深鉢。391～393は口縁端部に刻みを持たないもの。392は外面に貝殻条痕、393は内面にヘラミガキが観察できる。394～407は口縁端部に刻み目を持つ。396は体部外面上半部に貝殻条痕、下半部にヘラケズリで調整し、内面体部中位にも貝殻条痕を残す。体部の屈曲部には爪形文などの刺突文は施さない。402の刻み目は浅く、口縁端部外側にまで及ばない。403は口縁端部外側に浅い刻み目を施し、外面には縱方向2列の上向きの爪形文の間に下向きの半円形の刺突文を配する。406は口縁部外面に左向きの爪形状の刻みを施す。体部外面の貝殻条痕は403・404・406に観察できる。408は体部片。外面はナデ、内面は幅の広いヘラミガキ風のナデで調整する。409～412は外面に貼付突帯を巡らせるもの。いずれも貼付突帯には刻み目を施す。409は口縁端部に刻み目を施す。409・410は外面



第54図 II区SR02上層下部出土石器 (1/2)

に貝殻条痕を残す。413・414は体部上半部に縦方向の刺突文を持つもの。413は波状口縁を持つもので、口縁部の最も高い位置に下向きの半円形の刺突文を1列施す。414は上向きの爪形文が1列残る。415～426は体部中程の屈曲部に爪形文などの刺突文を施すもの。415～425は左向きの爪形文を持つ。外面体部上半の調整はいずれもナデで、下半部の調整は415・417・421でヘラケズリが観察できる。426は爪形文の代わりに2段の楕円形の刺突文を施す。427～440は浅鉢。427は浅めの器形。口縁部は直線的に立ち上がり、口縁端部には刻み目を持つ。粗製のものか。428～434はやや外湾しながら口縁が立ち上がる。調整はおむね内外面ともヘラミガキである。429・430・432は口縁端部を内側へ肥厚させ、431・433・434は口縁端部内面に沈線を施す。433・434は波状口縁。433の沈線は波状に巡らず直線的に巡り、434の沈線は波状に巡る。435は口縁端部を幅の広い突起状にし、口縁端部内面に肥厚させる。436～439は口縁部と体部の境を屈曲させ、体部をさらに内側へ屈曲させる器形。436は角を持って屈曲させ、437・438は



第55図 II区SR02石・土器除去中出土石器、その他出土石器 (1/2)

丸みを持って屈曲させると考えられる。436の口縁部形態は435と同様になる可能性が高い。437・439は波状口縁にする。調整はおおむねヘラミガキである。440は弥生土器の高杯に似た形態。441は底部。

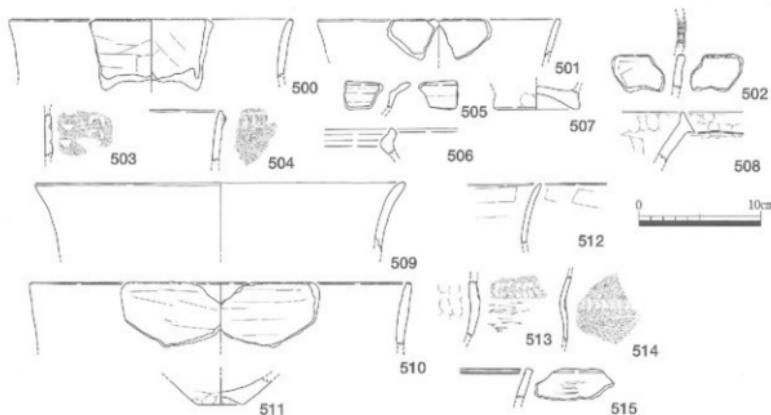
442～470はSR02上層下部、褐灰色砂質土層（茶色土混じり）から出土した石器である。すべてサヌカイト製。442～461は石錐。448・452は凹気式、他は平基式。端部の欠損するもの（448）や縁辺部の調整が不充分のもの（452・455・460）もある。445・447・451は側縁部中程に角を持ち、5角形に近い形状である。452・456・457は剥片の縁辺部だけを加工しただけである。462～465はスクレイパー。466～470は楔形石器。469以外は上・下部ともに敲打痕が認められる。470は片面に自然面を残す。

471～481は石・土器集中部分で、その除去中に出土した石器である。層位的には上層下部の褐灰色砂質土と同じである。471～478は石錐。いずれも平基式。478は未製品で、裏面側は調整をまったくしていない。479・480は石錐。480は上部はほとんど未調整で未製品である。481はスクレイパー。

482～499は出土層位不明石器。482～496は石錐。482・483は剥片の縁辺部だけを加工したものである。484は側縁や下部の調整が不充分である。495は先端部と一側縁に加工を施す。未製品。石錐の未製品かもしれない。496は上半部欠損。大型の石錐。497～499は楔形石器。497・499は上・下部に敲打痕を残す。

## II区包含層（第56図、図版26）

II区中央部南より付近、①～④が接する付近で検出した包含層である。II区①～④にまたがっておおむね東西8m、南北6mの範囲で検出し、厚さは30cm程度、埋土はおおむね上部が黄褐色・茶褐色砂質粘土



第56図 II区包含層出土遺物（1/4）

土など土壤化の進む層、下部が褐色シルトなどである。この包含層は弥生時代の溝のベースになっている。SR01の東南側縁辺部として捉えられるものと考えられる。

500～508はII区①から出土した遺物である。500～507は縄文土器。500～502は深鉢。500～502は口縁端部に刻み目を持つ。503は体部に縱方向に半円形の上向きの爪形文と下向きのコの字型文を1列ずつ配する。調整は貝殻条痕による。504は貼付突帯を持つもの。突帯には刻み目が付く。505・506は浅鉢。505・506は口縁部と体部の境が屈曲するもの。505は波状口縁で口縁端部を少し肥厚させる。506は短い口縁部に丸みを持つ体部が付く。507は底部。508は弥生土器壺口縁部。

509～511はII区③から出土した遺物である。いずれも縄文土器。509・510は深鉢。510は口縁端部に刻み目を持つ。511は底部。

512～515はII区④から出土した遺物である。いずれも縄文土器。512～514は深鉢。513・514は体部。513は右向きの、514は左向きの爪形文を巡らせる。513は爪形文の下部にヘラケズリ痕が観察できる。515は浅鉢。口縁端部内面に2条の沈線を巡らせる。外面にヘラミガキが観察できる。

②弥生時代後期後半

SK01 (第57図)

II区①中央部付近で検出した土坑である。方形で一辺1.0m、深さ12cm、埋土は灰色シルト層でSK02・04と同じである。埋土中からは縄文土器小片、サヌカイト剥片が出土した。

SK02 (第57図)

II区①中央部付近で検出した土坑である。楕円形で長軸0.83m、短軸0.70m、深さ8cm、埋土は灰色シルト層でSK01・04と同じである。埋土中からはサヌカイト剥片が出土した。

SK04 (第57図)

II区①中央部付近で検出した土坑である。円形で直径0.62m、深さ10cmで断面形状は底部に凹凸を持つ。埋土は灰色シルト層でSK01・04と同じである。埋土中からは土器小片、サヌカイト剥片が出土した。

SK03 (第58図)

II区①中央部付近で検出した土坑である。不整円形で直径0.9m、深さ14cm、断面形状はおおむね逆台形であるが底は凹凸がややある。埋土はSK01と類似し、おおむね灰色シルトである。この土坑はSK05に切られる。埋土中からは疊、土器小破片が出土した。遺構の時期はSK05に近い弥生時代後半で、縄文土器は紛れ込みと考えられる。

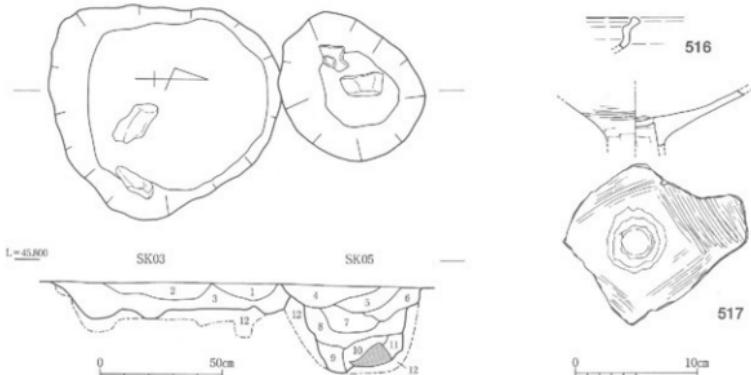
516は縄文土器浅鉢。口縁部と体部の境が屈曲し、体部中程でさらに内側へ屈曲する。縄文時代晚期後半。

SK05 (第58図、図版9・26)

II区①中央部付近で検出した土坑である。円形で直径0.6m、深さ36cm、断面形状は逆台形で埋土はおおむ

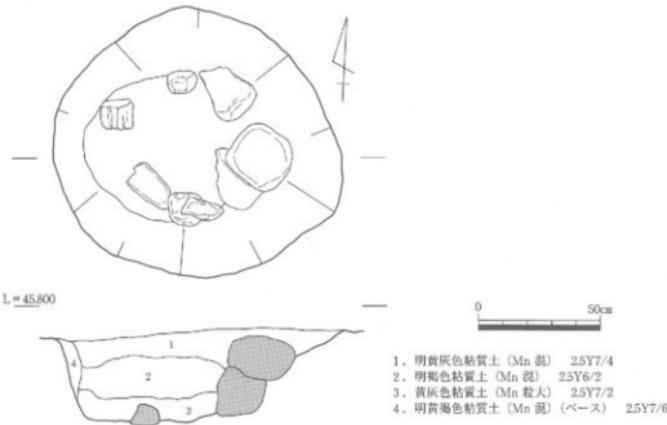


第57図 II区 SK01・02・04 断面図 (1/40)



- |                       |                           |
|-----------------------|---------------------------|
| 1. 明黄灰色シルト（黄土ブロック混）   | 7. 暗褐色細砂混粘土（8より少し明るい）     |
| 2. 灰色シルト (Mn混) 5Y5/1  | 8. 暗褐色細砂混粘土 7.5Y4/1       |
| 3. 灰色シルト（より少し暗い） N4/1 | 9. 黒灰色粘土 7.5Y3/1          |
| 4. 明灰色粘土（ベース） 2.5Y7/4 | 10. 暗灰色粘土 N2/             |
| 5. 暗褐色細砂粘土 2.5Y4/1    | 11. 明灰色粘土 NS/             |
| 6. 灰色細砂 7.5Y5/1       | 12. 11で少し黄色がかる（ベース） 5Y6/1 |
|                       | 1～3 SK03, 4～11 SK05       |

第58図 II区 SK03・05 平・断面図 (1/20)、出土物 (1/4)



第59図 II区SK08 平・断面図 (1/20)

上半部は暗褐色砂混じり粘土、下部は黒灰・暗灰色粘土である。わずかにSK03を切る。土坑の底部からは砾とともに弥生土器高杯が出土した。遺構の時期は弥生時代後期後半である。

517は弥生土器高杯。内外面に4分割のヘラミガキを施す。底部は円盤充填による。胎土中に角閃石を含む。下川津B類。

#### SK08 (第59図)

II区①中央部付近、SK03・05の東側約4mの位置で検出した円形の土坑である。直径1.2m、深さ38cm、断面形状は逆台形である。土坑の底部分のおもに縁辺部から15~20cm大の砾を検出した。埋土中からは遺物は出土しなかった。

#### SX03 (第60図、図版9)

II区③中央部付近で検出した出水状遺構である。不整円形で直径約3m、深さ0.8m、断面形状は掘鉢状である。埋土は砂層を中心で深さは湧水層まで及んでいる。SX03はSD02の北肩に接するように掘削されている。SD03とは重複していない。SD02との前後関係は少なくともSX03の方が古くない。出水状遺構から溝へ水を流す機能を持ち、同時並存であった可能性が高い。

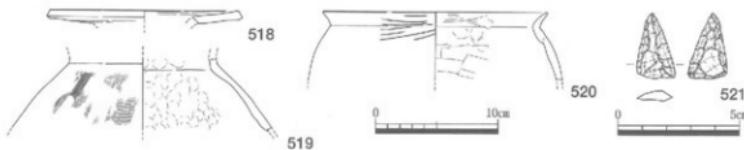
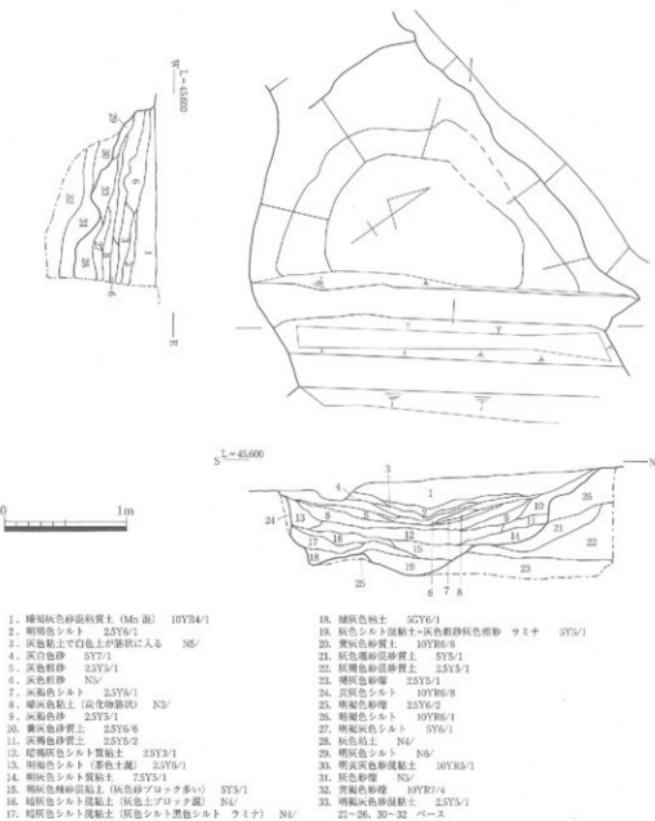
518~520は弥生土器。518・519は壺。518は口縁部が大きく開く。いずれも下川津B類。520は甕。口縁部付近にタキ目が残る。521は石蹴。サヌカイト。平基式。遺構の時期は弥生時代後期後半と考えられる。

#### SD01 (第61・62図、図版9・26)

II区③を南西から北東へ流れる溝である。幅1.5m、深さ48cmで断面形状は半円状である。埋土は中位以下はおおむね砂層やシルト層で占められ、一定量の流量があったことが窺える。SD01はSD01~04d-d'土層によりSD02より新しい。また、SD01はSR03に切られる。

#### SD02 (第61・62図、図版9・26)

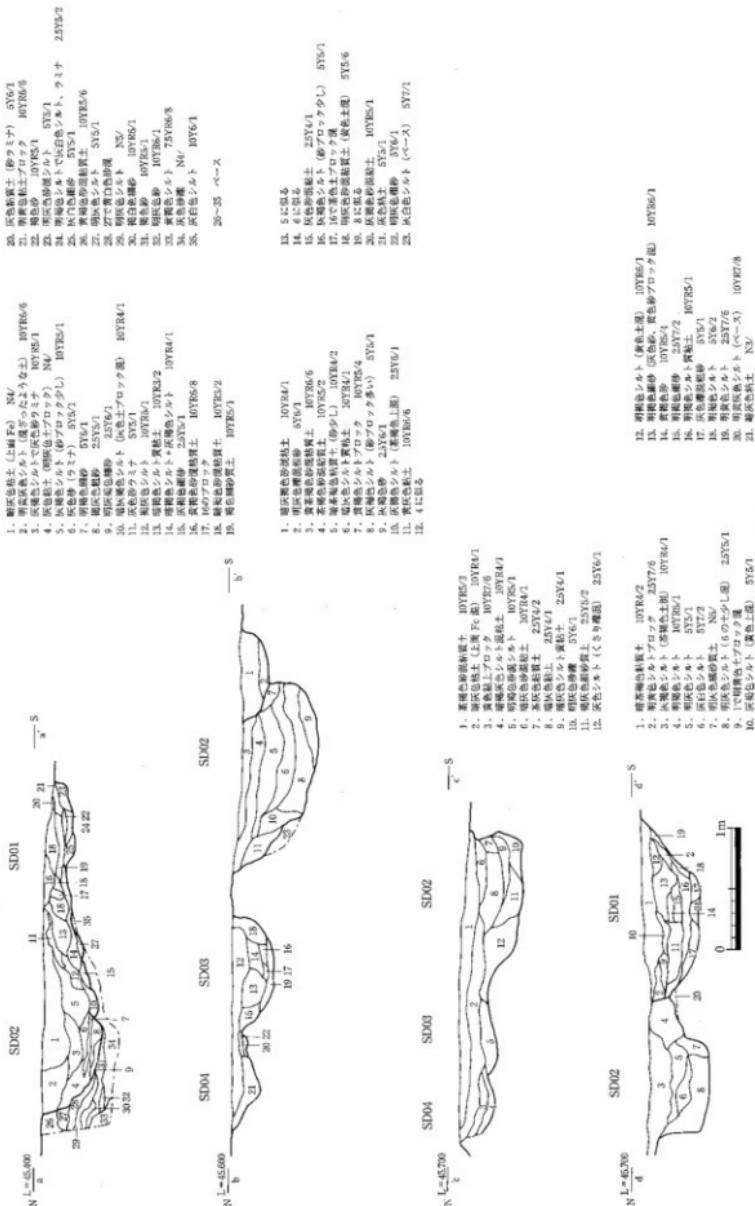
II区③をSD01の北側をほぼ平行して流れる溝である。西から東へ傾斜し、溝の掘り込みも東側ほどしつかりしている。埋土はおおむね下層シルト・砂砾層、上層・粘土層であるが、II区④部分では溝の掘り込



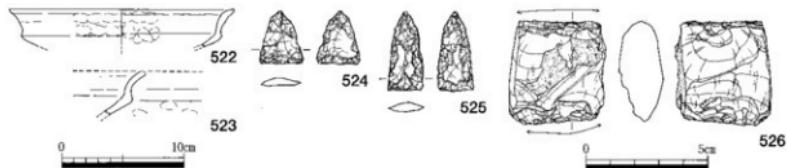
第60図 II区SX03平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)・(1/2)

みはあまりはっきりしない。II区④でSD03aと合流するが、切り合い関係は認められなかった。溝の幅は1.4~2.0m、深さ50~63cm、断面形状はおおむね半円形である。断面観察からSD01より古い。SD03とはSD01~04c-c'土層により、最上層では埋土を共有し、II区④部分では合流する。最終的には同時に埋没していったと考えられる。

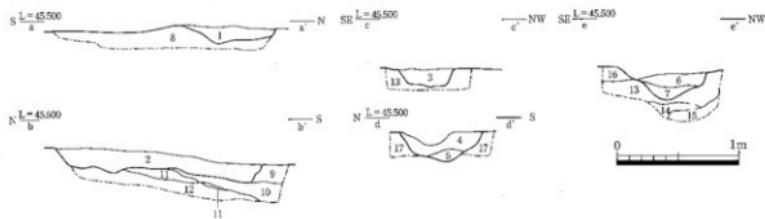
522~526はSD01・02トレーナーから出土した遺物である。522・523は弥生土器高杯。522は胎土中に角閃石を含む。下川津B類。524~526は打製石器。サスカイト製。524・525は石鎌。すべて平基式。526は楔



第61図 II区SD01~04断面図(1/40)



第62図 II区 SD01 · 02 出土遺物 (1/4) · (1/2)



- 1. 暗褐色砂混粘土 (上面に Fe) 25Y4/1
- 2. 細灰色砂混粘土 (10YR5/1) で黄色土混 10YR5/2
- 3. 暗褐色砂混粘土 (上面に Fe) N3/
- 4. 灰褐色粘質土 (上面に 黄色土混) 10YR5/1
- 5. 灰褐色砂 10YR5/1
- 6. 茶褐色シルト (明黄色砂、小ブロック混) 7.5YR4/1
- 7. 灰色粘土 7.5Y5/1
- 8. 黄灰色シルト 25Y6/1
- 9. 暗褐色砂混粘質土 (上面黄色土) 25Y5/1
- 10. 黒色粘土 N2/
- 11. 暗褐色粘土 5Y3/1
- 12. 明褐色砂 10YR6/2
- 13. 灰色粘土で Fe 多量 10YR5/8
- 14. 灰色粘土 N4/
- 15. 明灰色砂混粘土 10BG6/1
- 16. 茶褐色砂混粘土 10YR4/6
- 17. 暗褐色砂混粘質土 (上面黄色土堆積 Mn混) 10YR4/3
- 8 ~ 17 ベース

第63図 II区 SD03 a · b 断面図 (1/40)

形石器。上・下部とも刃を潰す。弥生時代後期後半。

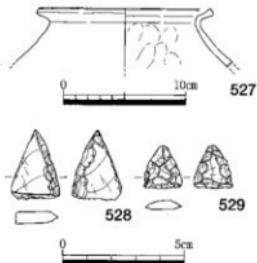
#### SD03 (第61 · 63 · 64図、図版9)

II区③をSD02の北側をほぼ平行して流れる溝である。西側へ傾斜している。幅1.0~1.5m、深さ15~34cmで、断面形状はII区③部分では半円形、II区④部分では浅い皿状である。埋土はおおむね下層がシルト層、中層は粘土層、上層は砂混粘土層である。SD02とはSD01~04c-c'断面部分では最上層の埋土を共有し、II区④部分では合流することからおおむね同時併存であったと考えられる。SD04とは上面精査時にはSD04が新しいようにみえたが、SD01~04b-b'断面では上層の埋土を共有している。最終埋没は同時期であったかもしれない。また、SD03 · 04の上面を覆う埋土とSD02最上層直下の埋土は類似する。

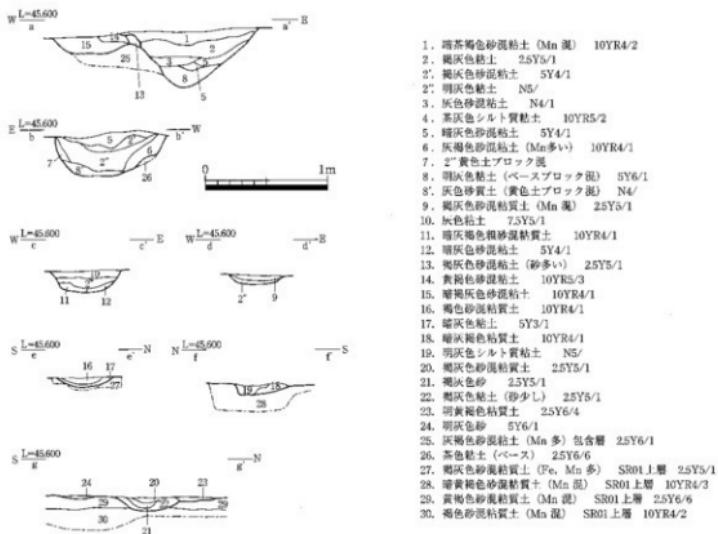
527は弥生土器甕。口縁端部をわずかに上方へ上げる。胎土中に角閃石を含む。下川津B類。528 · 529は石鎚。529は石鎚の未製品か。片側側縁だけ刃を作り、他の縁辺部は未加工のままである。ともにサスカイト製。

#### SD04 (第61 · 65 · 66図、図版9 · 26)

II区①南東端からII区③北端付近で緩く屈曲してII区①南西端からII区②へと続く溝である。II区①南西



第64図 II区 SD03 a · b 出土遺物 (1/4) · (1/2)



第65図 II区SD04 a・b断面図 (1/40)

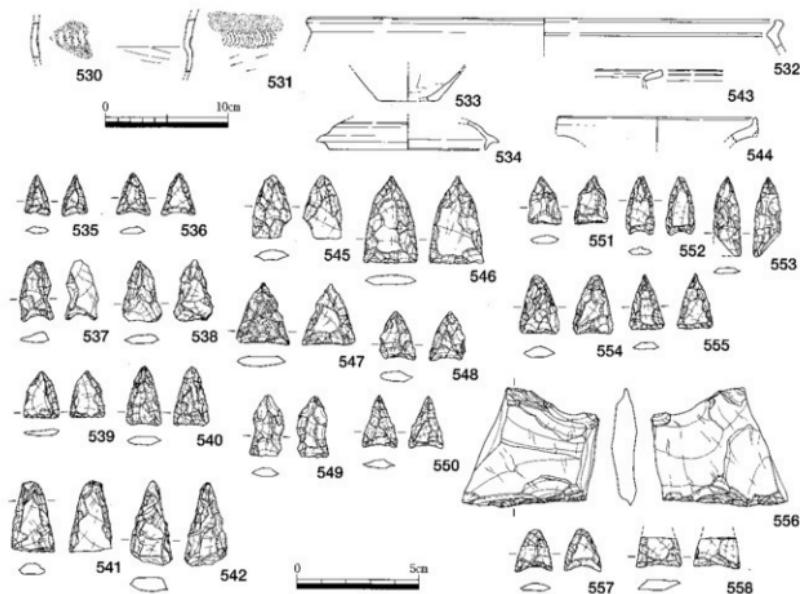
端で2条に分岐し、その南側の溝はさらにII区②部分で3条に分岐し消失する。溝の幅は43~110cm、深さ28~43cm、断面形状は逆三角形または半円形で、埋土は褐灰色砂混粘土、灰色砂質土などである。この溝はSD05より新しくSD06より古い。II区①南西部で分岐する溝のうち、北側の溝をSD04a、南側をSD04bとした。SD04aとSD04bには切り合い関係がみられ、SD04bが古いようである。

530~542はSD04aから出土した遺物である。530~532はII区①最下層部分から出土した遺物。いずれも縄文土器。ベースとなる包含層の遺物が混入した可能性がある。530・531は深鉢体部。体部の傾斜変換点で530は右向きの、531は左向きの爪形文を施す。531では爪形文の下部にヘラケズリが観察できる。532は浅鉢。口縁部と体部の境を屈曲させる。丸みを持つ体部が付くものか。533・534はII区②から出土した遺物。533は弥生土器甕底部。534は須恵器杯蓋。口縁端部に返りを持つ。7世紀代。

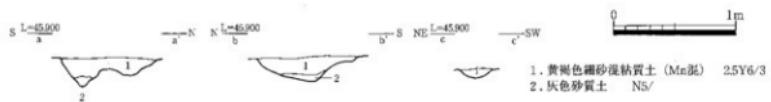
535~542は石器。いずれもサヌカイト製。535~539はII区①から出土した。535・538・539は平基式、536・537は凹基式である。537は片面に未調整部分を多く残す。539は縁辺部しか加工しない。540~542はII区②部分から出土した。いずれもサヌカイト製石器。540・541は平基式。ただし541は下部をほとんど調整していない。542は下端部が左右対称になっていない。

543~550はSD04bから出土した遺物である。543は弥生土器甕口縁部。下川津B類土器。544は壺。545~550はサヌカイト製石器。548・550は凹基式、他は平基式。545・549は下部に未調整部を残す。547は背面に自然面を残す。

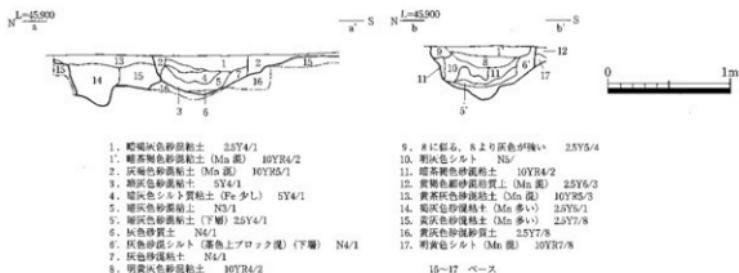
551~556はSD04a・b分岐地点で掘削したトレンチから出土した遺物。いずれもサヌカイト製石器。551~555は石器。552は凹基式、他は平基式。552・555は縁辺部のみ調整している。553は下部片側が折損している。556はスクレイパー。557・558はII区①東南端部の北東から南西へ向く部分出土した石器である。SD04が分岐していない部分である。いずれもサヌカイト製石器。ともに凹基式。558は上部欠損。



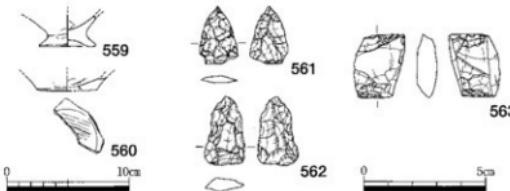
第66図 II区SD04 a・b出土遺物 (1/4)・(1/2)



第67図 II区SD05 断面図 (1/40)



第68図 II区SD06 断面図 (1/40)



第69図 II区 SD06 出土遺物 (1/4)・(1/2)

**SD05** (第67図、図版10)

II区①南東部で検出した溝である。幅80～86cm、深さ20～24cm、断面形状は逆三角形で東端付近で2又に別れる。埋土は黄褐色細砂混粘質土で最下部に灰色砂質土が堆積する。この溝はSD04・06より古い。SD06から北西側では明らかに連続する溝は検出できなかった。

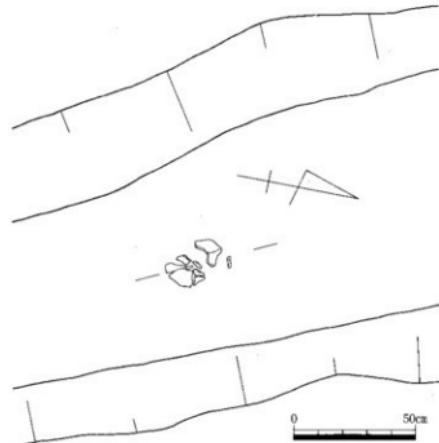
**SD06** (第68・69図、図版10)

II区①南端部を東北東から西南西へ向く溝である。幅95cm、深さ44cm、断面形状は逆台形に近い半円形である。埋土はおむね暗褐色～暗茶褐色砂混粘土である。この溝は遺構の前後関係によりSD04、SD07より新しい。遺構の時期は出土遺物や遺構の切り合い関係から弥生時代後期後半～終末頃と考えられる。

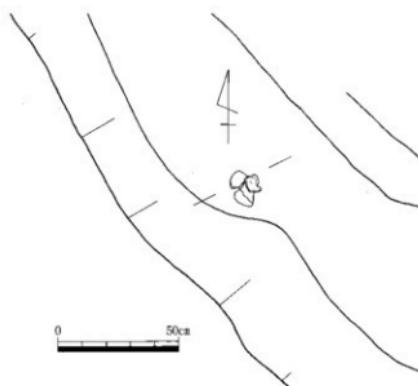
559・560は弥生土器。559は脚付鉢。560は甕底部。底部外面をハラミガキする。下川津B類。561～563は石器。いずれもサヌカイト製。561・562は石鎌。平基式。561は下端部両先端部が欠損。563は楔形石器。

**SD07** (第70～75図、図版10・11・27・28)

II区①中央部付近を北北西から南南東へ向く溝である。この溝は遺構の前後関係によりSD06より古い。また、この溝が埋没した後同位置にSD08が最掘削される。検出部分の北端付近では溝は4条に分岐し、消失する。溝は南南東側へ傾斜する。幅100～270cm、深さ28～46cm、断面形状はお

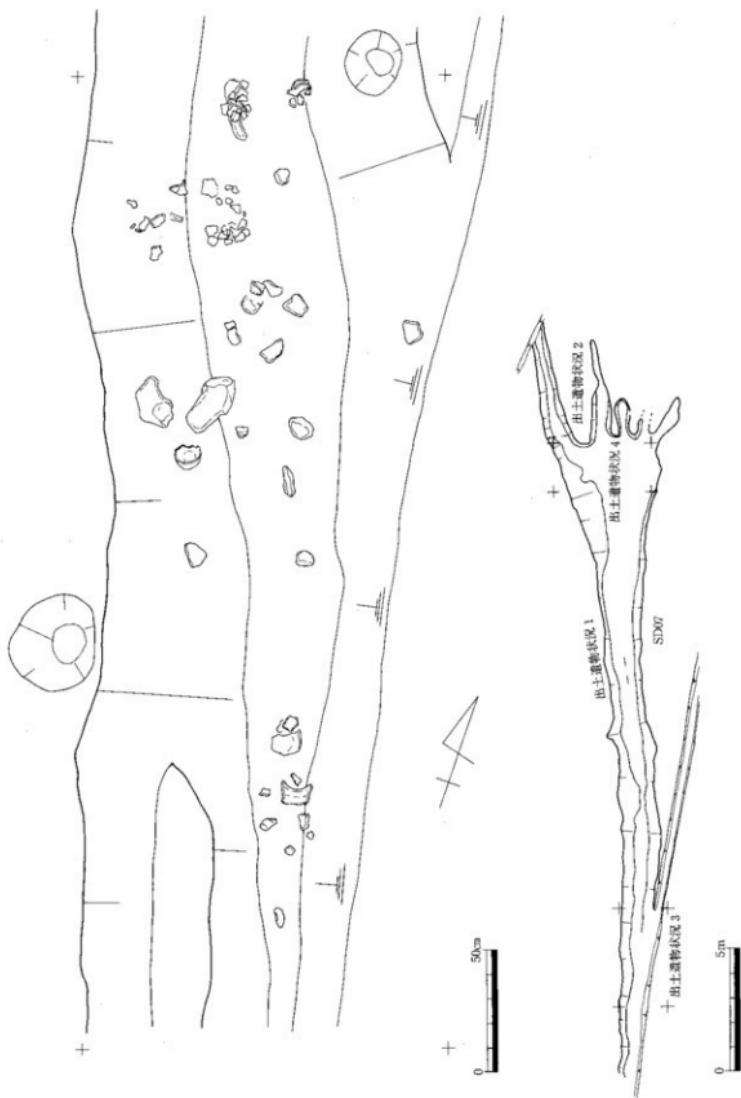


第70図 II区 SD07 遺物出土状況 1 (1/20)



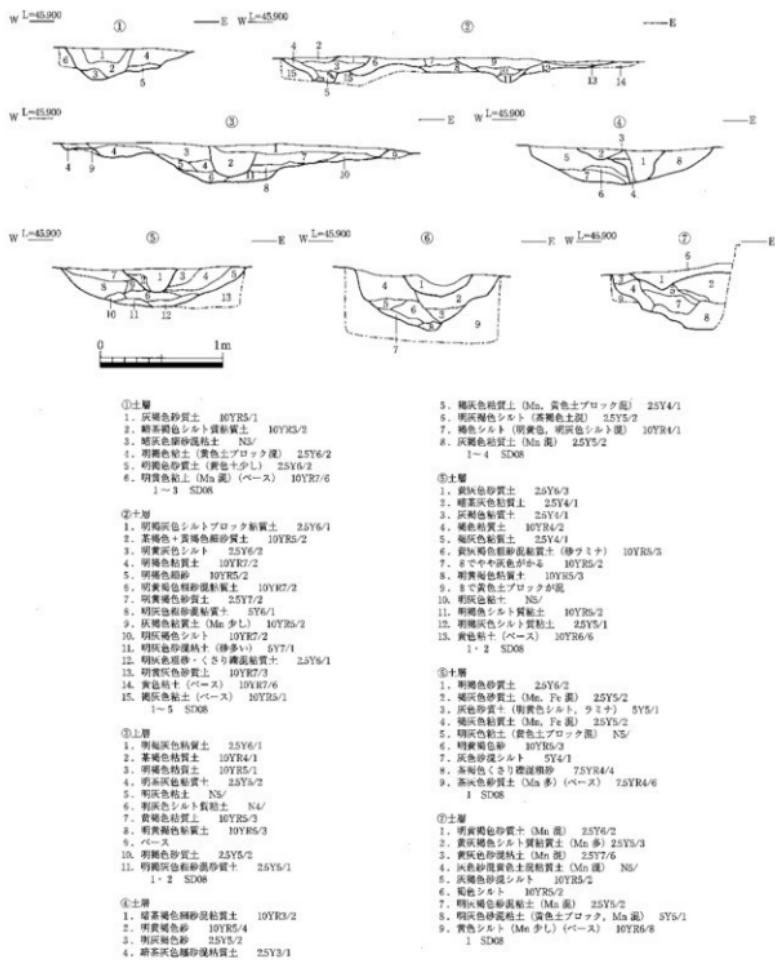
第71図 II区 SD07 遺物出土状況 2 (1/20)

第72图 II区 SD07遗物出土状况 3 (1/20)





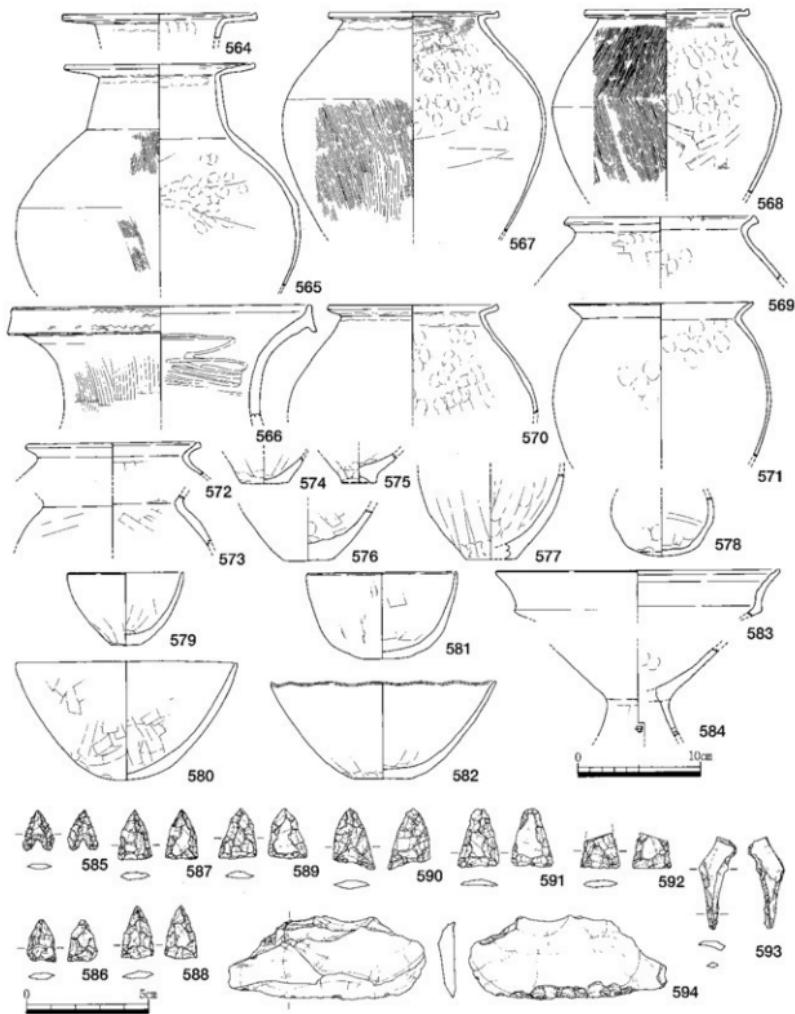
第73図 II区SD07遺物出土状況4 (1/20)



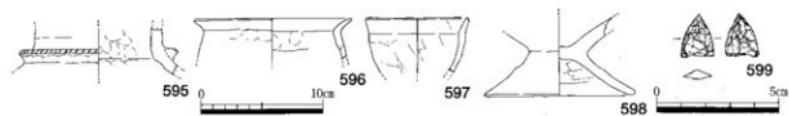
第74図 II区SD07断面図 (1/40)

おむねボウル状である。遺物はおもに北端近くの溝が分岐する付近と、南東端近くで多く出土した。SD07の中でもやや離れた位置の破片が接合する例が数例あった。溝の時期は出土遺物より弥生時代後期後半～終末期と考えられる。

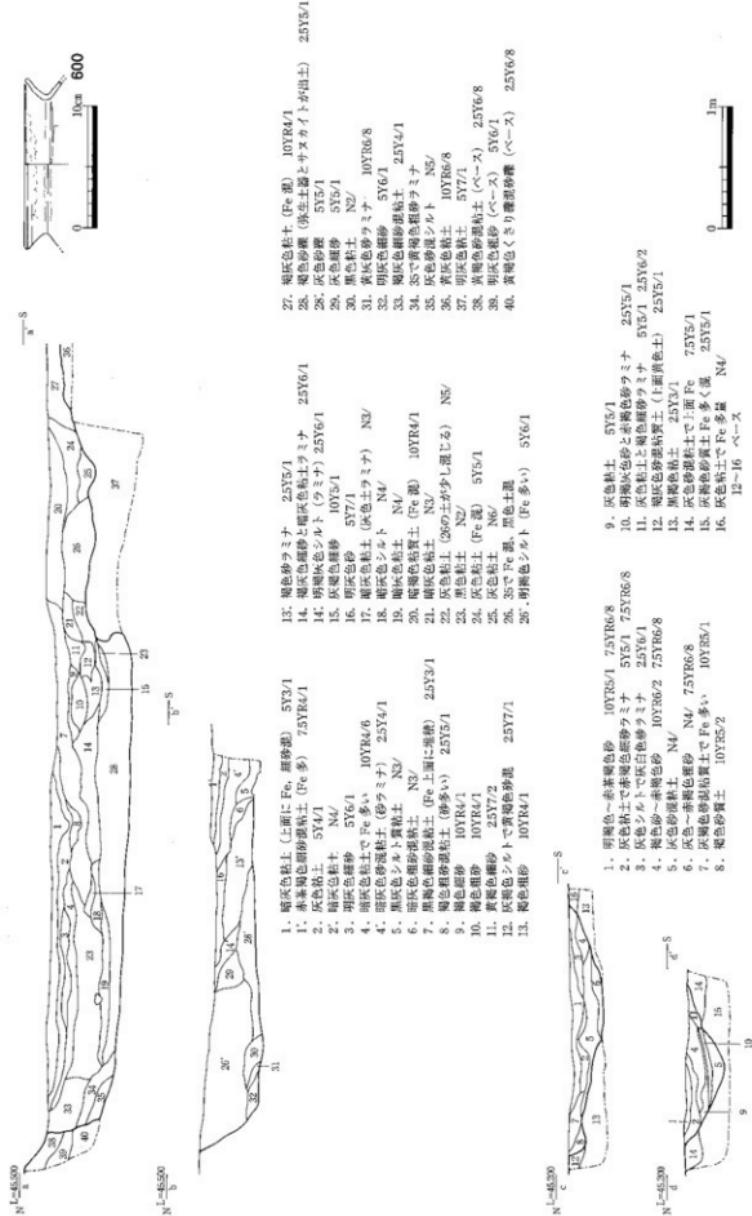
564～584は弥生土器。564～566は壺。いずれも下川津B類。564・565は直立気味の頸部に大きく聞く口縁部が付く。566は口縁端部に面を持ち、そこに波状文を施す。端部は上下に拡張させる。567～573は甕。567～570・572は下川津B類。ただし、569は胎土中の角閃石は少ない。567・568は外面にハケメ、内面上



第75図 II区 SD07出土遺物 (1/4)・(1/2)



第76図 II区 SD08出土遺物 (1/4)・(1/2)



第77図 II区SR03断面図(1/40), 出土遺物 (1/4)

部にもハケを施し、567には外面下半部にヘラミガキも観察できる。口縁端部の屈曲は強く、口縁端部は上方へ引き上げる。574・576は壺底部。575は鉢底部。底部を高台状にする。577・578は壺の底部か。体部に丸みを持つ。579～582は鉢。581は体部外面にクラックが入る。582は口縁部に垂みがある。583・584は高杯。ともに下川津B類。584は底部に充填されていた円盤が剥離している。脚部には孔が1孔残存する。585～594は石器。いずれもサヌカイト製。585～592は石鎌。585・590は凹基式、他は平基式。593は石錘。下部の1側縁はほとんど加工していない。上部は欠損しており、未製品か。594はスクレイパー。刃部片面のみを加工。

#### SD08 (第76図、図版10・11・28)

SD07の埋没後に同位置で掘削された溝である。この溝は北端部では分岐するSD07のうち最も西側の溝のみを踏襲する。幅40～70cm、深さ20～30cm、断面形状はボウル状である。溝の時期は出土遺物より弥生時代終末期頃と考えられ、SD07とそれほど時期差はないと考えられる。

595～598は弥生土器。595は壺。頭部と体部の境に刻目突帯を貼り付ける。596は壺。597・598は鉢。598は脚付。599は石鎌。サヌカイト製。平基式。

#### SR03 (第77図、図版10)

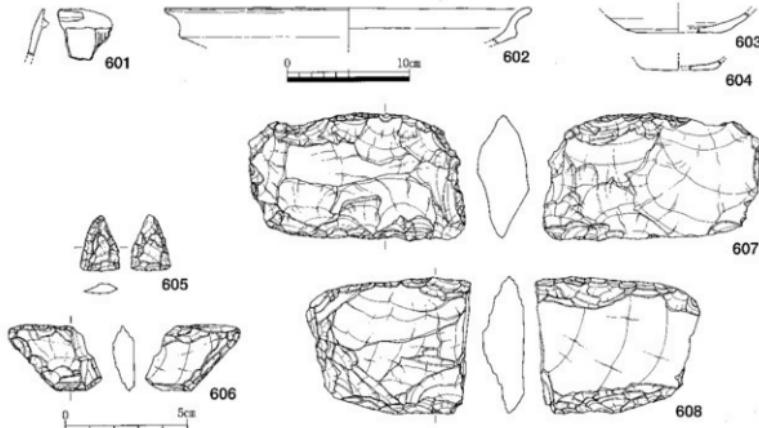
II区③・④の南部を南西から北東方向へ向く落ち込みである。南肩は調査区外へ延びるため全体の規模は不明である。幅6.4m以上、深さ64cmである。SR03はSD01・02を切る。

600は土師器壺口縁部。古墳時代前期頃。

#### その他出土遺物 (第78図、図版28)

601・602はII区①、予備調査トレンチの南部で出土した。601は繩文土器。深鉢。貼付突帯を付け、体部にはヘラ書きで縦方向の沈線を描く。602は弥生土器高杯。603はII区②から出土した。須恵器壺底部。底部と体部の境をヘラケズリする。604はII区④から出土した。土師質土器杯底部。

605～608は打製石器。サヌカイト製。605・606・608はII区①から出土した。605は石鎌。平基式。606・608は楔形石器。607はII区③ベース上から出土した。楔形石器。



第78図 II区その他出土遺物 (1/4)・(1/2)

## 第4章 まとめ

### 第1節 遺構の変遷

#### 1. 繩文時代後期後半

I区②を中心に落ち込みSR01を検出した。落ち込みの規模は幅14.3m、深さ0.2~0.4mであり、その落ち込みの除去後にさらに幅2.3~2.55m、深さ0.5~0.6mの落ち込みSR02を検出した他、サヌカイト集石遺構、火処としたと考えられる焼土塊を4ヶ所検出した。予備調査の21S1トレンチで出土した多量のサヌカイト剥片もこの遺構面上に集石遺構があつたためと考えられる。SR02、火処1~4などの廃絶後に、低地を覆うようにSR01が堆積した。SR01・02埋土中からは爪形文、刻目突帯文を持つ深鉢や浅鉢、サヌカイト製の石鎌や小剥片が多数出土した。火処については明確な掘り方はなく、出土遺物もほとんどなかつたが、SR01の除去後に検出したので、この時期のものとしている。

SR01・02で出土した土器は小片や摩滅したものが多く、細かい傾向は把みづらいが、深鉢に胴部と体部の境や口縁部から体部にかけて縱方向に瓜型文や押引文を施すものが多くみられる一方、口縁端部に刻目突帯を貼り付けるものも一定量認められることから、遺物の時期はおおむね晩期IV期~晩期Va~Vb期(平井泰男, 1999)と考えられる。

#### 2. 弥生時代後期後半

この時期の遺構はおもに微高地に位置するII区①・③で検出した。ここは等高線図によると川岡地区の中では微高地に相当する。遺構の大半は溝であり、土坑や柱穴はほとんど見られないで、集落域ではなく生産域で、溝は農業用水路と考えられる。溝の方向は北東から南西へ向くものと、おおむねそれに直交する方向の南東から北西へ向くものがあり、いずれも等高線の方向に規制されているものである。北東から南西方向へ向く溝はおもにII区③で検出しており、一部II区④南端部でも検出している。この方向の溝は合計で最大5条検出しているが、SD02・03はII区④部分で合流する。溝の切り合い関係から、SD06が最も新しく、次いでSD04、SD03・02、SD01となる。SD04は途中直角に屈曲し、SD07と同方向に北西へ延びるが、SD01~03は屈曲はしない。SD06はこれと直角方向を向くSD07よりも新しいが、SD07と他の溝の前後関係は不明である。溝の底は航測図のレベルより北東よりは南西が、南東よりは北西が低い。調査区の東側には現在本津川の支流古川が流れしており、これらの溝はおおむね調査区東側に位置する水源から取水していた農業用水と考えられる。また、SD02の中程で北側に接して直径3m、深さ0.9mの出水状遺構SX03を検出した。SX03は調査時から湧水が著しく、溝の補助的な水源になっていたと思われる。

I区では条里型地割に先行する南東から北西へ向く溝SD04・10を検出した。これらは埋土の大半を砂層で占めており、同様の溝は予備調査の際に5・38トレンチでも検出した。その中のSD10からは弥生土器小片が出土している。この時期の溝である可能性もあるが、明確な時期は不明である。

また、予備調査ではII区の南側17トレンチとのび西側32トレンチの低湿地帯の埋土中から弥生時代中期後半の土器が出土している。周辺に当該期の集落が存在する可能性があろう。

#### 3. 6世紀後半頃

I区でSD05を検出した。この溝は条里型地割に先行する溝で南南東から北北西を向く。SD11も同方向の溝であるが、出土遺物や切り合い関係がなく、明確な時期は不明である。

#### 4. 13世紀後半まで

I区で条里型地割に関係する溝SD01～03・SD09を検出した。SD01は坪界線に相当する溝である。SD01の約1.5m西側に併行して検出したSD02・03は互いに近接しており、もともと1条の溝の底が二又、三又になっていた可能性もある。SD01とSD02・03の間は畦道として機能していた可能性がある。調査区の東側には現在も坪界線に相当する位置に農業用水路があり、SD01はこれに先行する溝として捉えられる。

SD09はSD01～03を切って検出した東西方向の溝である。この溝からは13世紀後半の土器がまとまって出土している。また、調査区北端付近ではSD01～03を覆う包含層が広がるが、この包含層の埋土中からも13世紀後半～14世紀前半の土器が出土している。SD01～03の時期は出土遺物に恵まれず特定できないが、13世紀後半までには廃絶したと考えられる。

当該期の柱穴、土坑はほとんどなく、生産域であったと考えられる。

#### 5. 近世以降

I区で土坑を検出した他、予備調査の際にもこの時期のピットや溝状遺構を検出しているが、いずれにしても遺構密度・遺物量とも極めて少なく、引き続き生産域であったと考えられる。

## 第2節 SR01・02出土のサヌカイトについて

II区②の縄文時代晩期の遺跡群からは土器とともに多量のサヌカイトの剥片が出土した。サヌカイト剥片は縄文土器とともに他の弥生時代の遺構からも多く出土しているが、ここではII区②の遺構出土のサヌカイトの数量をまとめた。

出土量はSR01下層が最も多く、ついでSR02上層である。おそらくSR01とSR02の境付近、SR02が埋没して生活面となっていた時期頃に最も多くのサヌカイトが散乱したと考えられる。各遺構・層位によって多少の違いはあるが、おおむね総重量はその他剥片が最も多く、加工痕のある剥片がそれに続く。両者あわせておおむね70~80%に上り、楔形石器が20%前後である。製品は大部分が石錐であるが、石錐になれるのは全体の1~2%程度である。

剥片は大半が1g以下の小片であった。石錐も1g以下の小型のものが大半で、2gまでで92%のものが収まる。また、途中で折損したと考えられるものや、1または2側縁しか加工していないものも見られた。

### 個数集計

	SR01 下層	SR01 上層	SR01 最上層	SR01 その他	SR02 土器・石 除去中	SR02 上層	SR02 その他	SX01	SX02	合計
石錐	14	82	6	11	8	30	13	1	3	168
石錐未製品	8	70	3	8		17	3	4		113
石錐		5	1		1					7
石錐未製品		1								1
楔形石器	19	131	2	16	4	59	14	4		249
スクレイパー		6			1	11				18
加工痕のある石器	53	431	29	62	30	207	33	17	6	868
その他剥片	208	2120	197	162	79	820	94	36	12	3728
合 計	302	2846	238	259	123	1144	157	62	21	5152

第4表 川岡遺跡 出土石器（1）

### 重 量

	SR01 下層 (g)	SR01 上層 (g)	SR01 最上層 (g)	SR01 その他 (g)	SR02 土器・石 除去中(g)	SR02 上層 (g)	SR02 その他 (g)	SX01 (g)	SX02 (g)	合計 (g)
石錐	19.4	90.6	4.8	9.2	7.9	32.4	13.2	1.1	2.6	181.2
石錐未製品	11.9	126.6	3.2	9.4		18.3	5.2	3.8		178.4
石錐		15.2	2.8		6.1					24.1
石錐未製品		1								1
楔形石器	260.2	1171	15.2	179.3	64.9	617.7	145.8	150.9		2605
スクレイパー	154.9	121.4			16.8	167.6				460.7
加工痕のある石器	233.3	1881.9	93.4	266.4	110.2	1177.6	191.8	169	6.4	4130
その他剥片	357.2	2737.8	165.8	340.7	198.5	1773.4	158	63.5	13.4	5808.3
合 計	1036.9	6145.5	285.2	805	404.4	3787	514	388.3	22.4	13388.7

第5表 川岡遺跡 出土石器（2）

SR01(壁上層)

	~1g	~2g	~3g	~4g	~5g	~6g	~7g	~8g	~9g	~10g	~11g	~12g	~13g	~14g	~15g	~16g	~17g	~18g	~19g	~20g	比率量 %
石鹼	5	1																			4.6
石鹼未製品	1	2																			3.2
焼形石鶴							1														0
スクレイパー																					15
加工版のある石器	4	6	9	2	4	2	2	2	2	1	2										0
その他剥片	155	23	7	4	2	2	1	2													30
石錐			1																		60
																					0
																					100
																					285

SR01(土層)

	~1g	~2g	~3g	~4g	~5g	~6g	~7g	~8g	~9g	~10g	~11g	~12g	~13g	~14g	~15g	~16g	~17g	~18g	~19g	~20g	比率量 %
石鹼	46	31	2	2	1	1															90.6
石鹼未製品	21	36	7	4	1	1															126.6
焼形石鶴			5	22	10	19	13	11	10	8	4	4	3	4	2	1	1	2	22	27.4	
スクレイパー						2												31	38	41.5	
加工版のある石器	40	103	78	39	26	10	12	5	8	12	9	7						20	21.1	25.6	
その他剥片	150	367	153	70	42	19	13	11	8	9	5	4	2	2	1	1	1	21	22.2	38	
石錐	1		2	1	1															1.5	
石鹼未製品	1																			0	
																				1	
																				6146	
																				100	

SR01 その他

	~1g	~2g	~3g	~4g	~5g	~6g	~7g	~8g	~9g	~10g	~11g	~12g	~13g	~14g	~15g	~16g	~17g	~18g	~19g	~20g	比率量 %
石鹼	8	4	1		1																18.6
石鹼未製品	2	5	1																		2
焼形石鶴		5	2	3		1	2	1		5											11.9
スクレイパー																					25
加工版のある石器	7	10	15	5	2	5	4	2	1	1	2			1	1			20.7	27.1	36.73	
その他剥片	110	51	18	12	4	4	2	1	1	1	1							34.2	34.8	36.1	
石錐																		24	25	23.3	
																				357.2	
																				34	
																				103.3	
																				100	

SR01 その他

	~1g	~2g	~3g	~4g	~5g	~6g	~7g	~8g	~9g	~10g	~11g	~12g	~13g	~14g	~15g	~16g	~17g	~18g	~19g	~20g	比率量 %
石鹼	10	1																			9.2
石鹼未製品	3	5																			1
焼形石鶴		2		4	1	2	2	1												94.4	
スクレイパー																					1
加工版のある石器	7	16	9	8	4	3	3	3	5	1	1	1						26.3	62.6	389.3	
その他剥片	79	44	13	6	7	2	2	1	2									47.9	266.4	33	
石錐																		507.7	42	100	
																				815	
																				100	

SR02 (上層)

	~ 1g	~ 2g	~ 3g	~ 4g	~ 5g	~ 6g	~ 7g	~ 8g	~ 9g	~ 10g	~ 11g	~ 12g	~ 13g	~ 14g	~ 15g	~ 16g	~ 17g	~ 18g	~ 19g	~ 20g	総重量 %
石鍬	11	17	2																		32.4 1
石鍬未製品	8	8	1																		18.3 0
楕形石器	4	7	7	6	3	2	12	4	3	3	1	2	1	1	1	1	1	1	1	36.8 58.6 68.6 617.7 16	
スクレイバー		1	2		1			2	2			1									167 4
加工痕のある石器	17	52	37	25	17	15	8	7	4												117.8 31
その剥片	493	141	71	25	16	15	11	13	5	4											177.3 47
合計																					3786 99

SR02 (石・土器集中部)

	~ 1g	~ 2g	~ 3g	~ 4g	~ 5g	~ 6g	~ 7g	~ 8g	~ 9g	~ 10g	~ 11g	~ 12g	~ 13g	~ 14g	~ 15g	~ 16g	~ 17g	~ 18g	~ 19g	~ 20g	総重量 %
石鍬	4	4																			7.9 2
石鍬未製品																					0
楕形石器							1														23.1 28.3 64.9 16
スクレイバー																					16.8 4
加工痕のある石器	3	10	6	6	1	2		3		1	1										33.6 110 27
その剥片	51	9	8	1	1	2		3		1	1										22.5 52.9 198.5 49
石鍬		1																			6.1 2
合計																					404 100

SR02 (その他)

	~ 1g	~ 2g	~ 3g	~ 4g	~ 5g	~ 6g	~ 7g	~ 8g	~ 9g	~ 10g	~ 11g	~ 12g	~ 13g	~ 14g	~ 15g	~ 16g	~ 17g	~ 18g	~ 19g	総重量 %	
石鍬	10	3	1																		13.2 3
石鍬未製品		2	1																		5.2 1
楕形石器		1	2	3	2	1							1								20 23.4 41.2 146 28
スクレイバー																					0
加工痕のある石器	1	11	7	2	4				2		1	1					1	1	27 40.8	192 37	
その剥片	49	19	7	6	5	3	3	1	1											15.8 31	
合計																					51.4 100

	~1g	~2g	~3g	~4g	~5g	~6g	~7g	~8g	~9g	~10g	~11g	~12g	~13g	~14g	~15g	~16g	~17g	~18g	~19g	~20g	%
石器	1																				11 0
石器未製品		2																			38 1
楕形石器					1										1					121	150.9 43
スクレイバー																					0
加工痕のある石器	2	2	3					2	3			1		1						35.8 58.9 133.2 38	
その剥片	28	1	1	1	1			1												63.5 18	
合計																				352.5 100	

	~1g	~2g	~3g	~4g	~5g	~6g	~7g	~8g	~9g	~10g	~11g	~12g	~13g	~14g	~15g	~16g	~17g	~18g	~19g	~20g	%
石器	2	1																			26 12
石器未製品																					0
楕形石器																					0
スクレイバー																					0
加工痕のある石器	4	1	1																	6.4 28	
その剥片	7	3	1	1																13.4 60	
合計																				22.4 100	

第8表 SX01・火廻1出土石器

〈参考文献〉

- 平井泰男 1999 「中部瀬戸内地方における縄文時代後期末葉から晩期の土器編年試案」『突帯文と遠賀川』土器持寄会論文集刊行会
- 藤井雄三・山元敏裕 1995 「居石遺跡」『一般国道高松東道路建設に伴う埋蔵文化財調査報告 第7冊』高松市教育委員会 建設省四国地方整備局
- 平井泰男 1995 「第3節 縄文時代晩期中葉の土器について」「第4節 縄文時代晩期後葉の土器について」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』100

# 土 器 觀 察 表























編號	地名	特征岩 層名	層位	岩性	岩厚 (m)	厚度 (m)	層序 名	粒土 —	色調(內面 上)	色調(外觀 上)	外觀風貌 (P-E外觀分類)	外觀風貌 (E-F外觀分類)	外觀風貌 (G-H外觀分類)	外觀風貌 (I-J外觀分類)	參考
584	II 区	SD07	—	赤-褐灰 —	—	—	砾石/石 英-砂-少, 長石-多, 角閃-少, 鐵-多 長石/石英-少, 長石-多, 角閃-少, 鐵-多	0.75±0.05	褐色-深褐色 —	褐色-深褐色 —	褐色±灰 褐色±灰	褐色±灰 褐色±灰	褐色±灰 褐色±灰	褐色±灰 褐色±灰	孔隙所喪 下川邊地帶
585	29	II 区	SD08	—	赤-褐 —	—	無 —	—	—	—	—	—	—	—	—
586	II 区	SD09	—	赤-褐 —	—	—	長石/石 英-少, 長石-多, 角閃-少, 鐵-多 長石/石英-少, 長石-多, 角閃-少, 鐵-多	0.5±0.1	褐色-深褐色 —	褐色-深褐色 —	褐色±灰 褐色±灰	褐色±灰 褐色±灰	褐色±灰 褐色±灰	褐色±灰 褐色±灰	地形-地點(晴日) 3.0±1.5°, 暫時±±±
597	II 区	SD10	—	赤-褐 —	—	—	長石/石 英-少, 長石-多, 角閃-少, 鐵-多 長石/石英-少, 長石-多, 角閃-少, 鐵-多	0.75±0.15	褐色-深褐色 —	褐色-深褐色 —	褐色±灰 褐色±灰	褐色±灰 褐色±灰	褐色±灰 褐色±灰	褐色±灰 褐色±灰	地形-地點(晴日) 3.0±1.5°, 暫時±±±
598	28	II 区	SD10	—	赤-褐灰 —	—	無 —	—	—	—	—	—	—	—	—
600	II 区	SD13	—	土-黑 —	—	—	長石/石 英-少, 長石-多, 角閃-少 長石/石英-少, 長石-多, 角閃-少	0.5±0.1	褐色-深褐色 —	褐色-深褐色 —	褐色±灰 褐色±灰	褐色±灰 褐色±灰	褐色±灰 褐色±灰	褐色±灰 褐色±灰	地形-地點(晴日) 3.0±1.5°, 暫時±±±
601	II 区	上田地帶	—	暗-棕 —	—	—	長石/石 英-少, 長石-多, 角閃-少 長石/石英-少, 長石-多, 角閃-少	0.5±0.1	褐色-深褐色 —	褐色-深褐色 —	褐色±灰 褐色±灰	褐色±灰 褐色±灰	褐色±灰 褐色±灰	褐色±灰 褐色±灰	地形-地點(晴日) 3.0±1.5°, 暫時±±±
602	II 区	上田地帶	—	赤-褐灰 —	—	—	長石/石 英-少, 長石-多, 角閃-少 長石/石英-少, 長石-多, 角閃-少	0.5±0.1	褐色-深褐色 —	褐色-深褐色 —	褐色±灰 褐色±灰	褐色±灰 褐色±灰	褐色±灰 褐色±灰	褐色±灰 褐色±灰	地形-地點(晴日) 3.0±1.5°, 暫時±±±
603	II 区	上田地帶	—	赤-褐 —	—	—	長石/石 英-少, 長石-多, 角閃-少 長石/石英-少, 長石-多, 角閃-少	0.5±0.1	褐色-深褐色 —	褐色-深褐色 —	褐色±灰 褐色±灰	褐色±灰 褐色±灰	褐色±灰 褐色±灰	褐色±灰 褐色±灰	地形-地點(晴日) 3.0±1.5°, 暫時±±±
604	II 区	赤-褐地帶	—	土-棕 —	—	—	長石/石 英-少, 長石-多, 角閃-少 長石/石英-少, 長石-多, 角閃-少	0.5±0.1	褐色-深褐色 —	褐色-深褐色 —	褐色±灰 褐色±灰	褐色±灰 褐色±灰	褐色±灰 褐色±灰	褐色±灰 褐色±灰	地形-地點(晴日) 3.0±1.5°, 暫時±±±

# 石 器 觀 察 表

報文 番号	回版 番号	区名	報告遭撲番号	土層	岩種	現在長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	形態・手法の特徴	備考
9	13	21S1レンチ		加工痕のある 剝片		9.5	8.3	1.7	151.64	サヌカイト		
10	13	21S1レンチ		加工痕のある 剝片		9.0	10.0	1.7	162.11	サヌカイト		
11	13	21S1レンチ		加工痕のある 剝片		7.0	8.8	1.0	81.91	サヌカイト	S72と同一に近い?	
12	13	21S1レンチ		加工痕のある 剝片		6.6	6.9	1.0	47.21	サヌカイト		
13	13	21S1レンチ		加工痕のある 剝片		5.7	10.4	1.3	65.27	サヌカイト		
14	13	21S1レンチ		加工痕のある 剝片		8.2	11.6	1.5	116.01	サヌカイト		
15		21S1レンチ		加工痕のある 剝片		5.3	5.8	0.4	12.46	サヌカイト		
16		21S1レンチ		加工痕のある 剝片		3.9	3.5	1.4	14.34	サヌカイト		
17		21S1レンチ		加工痕のある 剝片		2.9	3.6	1.0	6.62	サヌカイト		
18	13	21S1レンチ		加工痕のある 剝片		7.5	10.4	0.7	56.27	サヌカイト		
19		21S1レンチ		加工痕のある 剝片		6.2	6.6	1.1	36.16	サヌカイト		
20	13	21S1レンチ		鉄材		5.2	9.9	1.3	55.07	サヌカイト		
21	21S1レンチ			複形石		5.2	2.0	1.2	8.81	サヌカイト		
22	21S1レンチ			スライバー		5.8	4.5	1.7	24.69	サヌカイト		
23	14	21S1レンチ		スライバー		8.2	5.4	1.5	89.76	サヌカイト	黒化あり	
24	14	21S1レンチ		スライバー		11.0	4.7	1.5	92.51	サヌカイト		
25	21S1レンチ			スライバー		9.3	4.6	0.7	33.18	サヌカイト		
26	21S1レンチ			スライバー		8.6	6.3	1.2	54.99	サヌカイト		
27	14	21S1レンチ		スライバー		10.5	7.9	1.2	112.94	サヌカイト		
28		21S1レンチ		加工痕のある 剝片		2.2	2.6	0.5	3.03	サヌカイト		
29		21S1レンチ		加工痕のある 剝片		2.2	3.0	0.8	4.85	サヌカイト		
30		21S1レンチ		加工痕のある 剝片		1.6	3.1	0.6	4.22	サヌカイト		
31		21S1レンチ		加工痕のある 剝片		2.4	3.0	0.2	2.08	サヌカイト		
32		21S1レンチ		加工痕のある 剝片		2.5	3.8	0.6	5.19	サヌカイト		
33		21S1レンチ		加工痕のある 剝片		3.0	2.5	0.7	5.34	サヌカイト		
34		21S1レンチ		加工痕のある 剝片		3.8	3.8	0.7	9.21	サヌカイト		
35		21S1レンチ		その他の剥片		4.4	6.4	0.8	16.26	サヌカイト		
36		21S1レンチ		その他の剥片		6.9	4.5	1.1	47.88	サヌカイト		
37		21S1レンチ		その他の剥片		7.9	5.1	1.0	40.53	サヌカイト		
38		21S1レンチ		その他の剥片		6.9	5.8	1.4	39.73	サヌカイト		
39		21S1レンチ		加工痕のある 剝片		8.4	6.4	0.9	51.62	サヌカイト		
40	14	21S1レンチ		加工痕のある 剝片		9.9	6.5	1.6	135.55	サヌカイト		
41	14	21S1レンチ		加工痕のある 剝片		6.0	8.2	1.3	89.86	サヌカイト		
42	14	21S1レンチ		加工痕のある 剝片		6.8	8.3	1.3	92.66	サヌカイト		
43		21S1レンチ		加工痕のある 剝片		6.8	11.1	1.2	103.99	サヌカイト		
44	14	21S1レンチ		加工痕のある 剝片		6.4	12.0	1.4	112.15	サヌカイト		
45	14	21S1レンチ		加工痕のある 剝片		11.6	7.0	1.4	113.07	サヌカイト		
46		21S1レンチ		使用痕のある 剝片		2.5	6.4	1.0	11.34	サヌカイト		
47		21S1レンチ		使用痕のある 剝片		4.2	5.2	0.7	13.07	サヌカイト		
48		21S1レンチ		使用痕のある 剝片		4.1	4.7	0.5	10.83	サヌカイト		
49		21S1レンチ		使用痕のある 剝片		6.4	7.0	1.2	29.91	サヌカイト		
50		21S1レンチ		使用痕のある 剝片		6.8	6.6	1.3	61.21	サヌカイト		
51	14	21S1レンチ		使用痕のある 剝片		4.9	9.3	1.2	43.85	サヌカイト		
52	14	21S1レンチ		使用痕のある 剝片		6.9	10.0	1.1	64.58	サヌカイト		
53	14	21S1レンチ		使用痕のある 剝片		6.4	10.8	1.3	99.55	サヌカイト		
54	14	21S1レンチ		使用痕のある 剝片		12.9	6.6	1.6	109.29	サヌカイト		
55	14	21S1レンチ		使用痕のある 剝片		10.8	11.8	1.9	283.67	サヌカイト		
77	15-16	日区	集石遺構	分割素材		6.0	7.3	1.0	40.63	サヌカイト	78-79上接合	
78	15-16	日区	集石遺構	分割素材		6.6	7.1	1.7	77.16	サヌカイト	77-79上接合	
79	15-16	日区	集石遺構	分割素材		7.5	8.6	1.5	96.26	サヌカイト	77-78上接合	

概文番号	国版番号	区名	報告書番号	土層	器種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	形態・手法の特徴	備考
50	日区	黒石遺構			分割断面	4.6	6.2	0.9	26.9	サスカイト		
54	日区	SK06		石燃		1.8	1.4	0.5	0.87	サスカイト		
85	日区	SK06		石燃		1.6	1.4	0.3	0.57	サスカイト		
86	日区	SK06		石燃		2.2	1.2	0.4	0.85	サスカイト		
87	日区	SK06		石燃		2.3	1.6	0.4	1.10	サスカイト		
88	日区	SK06		石燃		2.3	1.3	0.4	0.99	サスカイト		未製品
93	17 日区	火蛇1		石燃		2.7	1.8	0.3	1.34	サスカイト		
94	17 日区	火蛇1		石燃		2.0	1.3	0.3	0.52	サスカイト		
95	17 日区	火蛇1		石燃		1.7	1.4	0.3	0.60	サスカイト		
104	日区	SK01		石燃		2.5	1.6	0.4	1.08	サスカイト		
105	日区	SK01		楔形石器		3.7	3.9	0.9	15.59	サスカイト		
106	日区	SK01		楔形石器		5.5	7.7	1.9	121.00	サスカイト		
181	日区	SR01	上至精葉	石燃		2.3	1.1	0.2	0.71	サスカイト		
182	日区	SR01	上至精葉	石燃		2.3	1.6	0.4	1.02	サスカイト		
183	日区	SR01	上至精葉	石燃		2.4	2.2	0.4	2.78	サスカイト		未製品
184	日区	SR01	最上層 單黃褐色粘土質土	石燃		2.3	1.3	0.4	0.96	サスカイト		
185	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		1.6	1.2	0.3	0.55	サスカイト		
186	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		1.5	1.2	0.3	0.62	サスカイト		
187	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		1.5	1.3	0.3	0.58	サスカイト		
188	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		1.7	1.7	0.2	0.68	サスカイト		
189	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		1.7	1.5	0.4	0.76	サスカイト		
190	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		1.7	1.3	0.4	0.74	サスカイト		
191	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		1.8	1.1	0.4	0.58	サスカイト		
192	日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		1.8	1.2	0.5	0.74	サスカイト		
193	日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		1.8	1.4	0.3	0.63	サスカイト		
194	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		1.6	1.5	0.3	0.69	サスカイト		
195	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		1.6	1.9	0.4	0.69	サスカイト		
196	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		1.9	1.3	0.3	0.74	サスカイト		
197	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		1.8	1.5	0.2	0.58	サスカイト		
198	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		1.8	1.2	0.3	0.73	サスカイト		
199	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.1	1.3	0.4	0.81	サスカイト		風化あり
200	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.2	1.2	0.3	0.66	サスカイト		
201	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.0	1.6	0.3	0.77	サスカイト		
202	日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		1.9	1.5	0.3	1.00	サスカイト		風化が著しい
203	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.1	1.2	0.4	0.62	サスカイト		
204	日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.3	1.4	0.4	1.06	サスカイト		
205	日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.0	1.4	0.4	0.83	サスカイト		
206	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.2	1.5	0.3	0.99	サスカイト		
207	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.2	1.5	0.3	0.99	サスカイト		
208	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.1	1.5	0.4	0.81	サスカイト		
209	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.0	1.4	0.3	0.69	サスカイト		
210	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.3	1.3	0.3	0.77	サスカイト		
211	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.0	1.5	0.4	0.76	サスカイト		
212	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.2	1.4	0.2	0.64	サスカイト		
213	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.2	1.6	0.3	0.88	サスカイト		
214	日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		1.8	1.3	0.3	0.74	サスカイト		風化あり
215	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		1.9	1.6	0.4	1.18	サスカイト		
216	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.3	1.5	0.3	0.93	サスカイト		
217	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.3	1.9	0.4	1.04	サスカイト		
218	日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.7	1.4	0.3	1.15	サスカイト		
219	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.3	1.5	0.5	1.82	サスカイト		
220	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.5	1.5	0.4	0.96	サスカイト		表面に自然面を残す
221	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.2	1.7	0.3	0.91	サスカイト		
222	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.3	1.7	0.5	1.37	サスカイト		
223	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.1	1.7	0.4	1.00	サスカイト		
224	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.4	1.5	0.5	1.43	サスカイト		
225	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.4	1.5	0.5	1.37	サスカイト		
226	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.9	1.2	0.4	1.21	サスカイト		
227	日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		1.2	1.6	0.3	0.81	サスカイト		
228	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.0	1.6	0.3	1.21	サスカイト		
229	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.5	1.5	0.4	1.10	サスカイト		
230	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.6	1.5	0.3	1.01	サスカイト		
231	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.6	1.8	0.3	1.58	サスカイト		
232	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.3	1.6	0.4	1.66	サスカイト		
233	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.7	1.6	0.4	1.87	サスカイト		
234	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.4	1.9	0.4	1.90	サスカイト		
235	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.9	1.6	0.5	1.63	サスカイト		
236	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.9	1.8	0.5	2.47	サスカイト		
237	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.9	1.9	0.5	3.08	サスカイト		
238	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.8	1.9	0.5	2.08	サスカイト		
239	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		3.0	1.6	0.3	1.28	サスカイト		
240	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.8	1.7	0.5	1.29	サスカイト		
241	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.2	2.6	0.3	1.73	サスカイト		
242	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		3.4	2.6	0.5	3.01	サスカイト		
243	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		3.2	1.9	0.4	2.34	サスカイト		
244	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		3.7	2.3	0.5	4.04	サスカイト		
245	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.5	1.5	0.2	0.76	サスカイト		
246	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		2.9	2.0	0.4	2.05	サスカイト		
247	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		3.3	1.9	1.0	4.49	サスカイト		
248	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		4.6	1.6	0.3	2.44	サスカイト		
249	19 日区	SR01	上層 單褐色粘土	石燃		3.9	2.9	0.5	5.42	サスカイト		
250	20 日区	SR01	上層 單褐色粘土	楔形石器		3.1	2.1	0.8	7.66	サスカイト		
251	20 日区	SR01	上層 單褐色粘土	楔形石器		3.3	2.8	1.3	11.61	サスカイト		

範文番号	区番号	区名	報告直構番号	土層	岩種	現存長 (m)	最大幅 (m)	最大深 (m)	重量 (kg)	石材	形態・手法の特徴	備考
252	20	Ⅱ区	SR01	上層 墓地色粘土	塊形石器	3.2	2.5	0.9	9,177サスカイト			
253	20	Ⅱ区	SR01	上層 墓地色粘土	塊形石器	3.4	4.7	1.3	23,547サスカイト			風化が著しい
254	20	Ⅱ区	SR01	上層 墓地色粘土	塊形石器	3.5	3.7	0.7	10,567サスカイト			
255	20	Ⅱ区	SR01	上層 墓地色粘土	塊形石器	6.1	11.1	2.6	17,257サスカイト			
256	20	Ⅱ区	SR01	上層 墓地色粘土	スレーブバー	6.6	4.2	1.4	38,497サスカイト			
257	20	Ⅱ区	SR01	下層 灰色砂質土	石織	1.8	1.3	0.3	0.64サスカイト			
258	20	Ⅱ区	SR01	下層 灰色砂質土	石織	1.9	1.2	0.2	0.48サスカイト			
259	20	Ⅱ区	SR01	下層 灰色砂質土	石織	1.7	1.5	0.4	0.91サスカイト			
260	20	Ⅱ区	SR01	下層 灰色砂質土	石織	2.0	1.2	0.4	0.59サスカイト			風化あり
261	20	Ⅱ区	SR01	下層 灰色砂質土	石織	2.0	1.5	0.3	0.96サスカイト			
262	20	Ⅱ区	SR01	下層 灰色砂質土	石織	1.9	1.4	0.4	0.72サスカイト			
263	20	Ⅱ区	SR01	下層 灰色砂質土	石織	2.1	1.4	0.3	0.85サスカイト			
264	20	Ⅱ区	SR01	下層 灰色砂質土	石織	2.2	1.3	0.5	1.38サスカイト			
265	20	Ⅱ区	SR01	下層 灰色砂質土	石織	2.4	1.5	0.3	1.01サスカイト			
266	20	Ⅱ区	SR01	下層 灰色砂質土	石織	1.8	1.7	0.3	0.66サスカイト			
267	20	Ⅱ区	SR01	下層 灰色砂質土	石織	2.1	2.6	0.3	1,207サスカイト			
268	20	Ⅱ区	SR01	下層 灰色砂質土	石織	2.5	1.6	0.3	1,467サスカイト			
269	20	Ⅱ区	SR01	下層 灰色砂質土	石織	2.5	1.6	0.4	1,107サスカイト			
270	20	Ⅱ区	SR01	下層 灰色砂質土	石織	3.0	1.6	0.6	2,110サスカイト			
271	20	Ⅱ区	SR01	下層 灰色砂質土	石織	3.9	2.5	0.4	5,657サスカイト			
272	20	Ⅱ区	SR01	下層 灰色砂質土	塊形石器	3.4	1.6	0.9	5,377サスカイト			
273	21	Ⅲ区	SR01	下層 灰色砂質土	塊形石器	3.6	4.6	0.7	9,687サスカイト			
274	21	Ⅲ区	SR01	下層 灰色砂質土	塊形石器	3.3	4.4	0.7	9,657サスカイト			
275	20	Ⅲ区	SR01	下層 灰色砂質土	塊形石器	2.5	5.0	1.7	36,737サスカイト			
276	20	Ⅲ区	SR01	下層 灰色砂質土	塊形石器	6.6	4.4	1.0	37,907サスカイト			
277	20	Ⅲ区	SR01	下層 灰色砂質土	スレーブバー	6.6	3.6	0.8	12,137サスカイト			
278	20	Ⅲ区	SR01	下層 灰色砂質土	スレーブバー	7.6	4.3	1.3	34,197サスカイト			
279	20	Ⅲ区	SR01	下層 灰色砂質土	スレーブバー	8.2	4.8	1.1	36,117サスカイト			
280	20	Ⅲ区	SR01	下層 灰色砂質土	スレーブバー	10.5	4.9	1.2	34,817サスカイト			
281	20	Ⅲ区	SR01	下層 灰色砂質土	スレーブバー	9.7	6.4	1.1	37,667サスカイト			
282	21	Ⅲ区	SR01	下層 灰色砂質土	石織	1.7	1.4	0.3	0.57サスカイト			
283	21	Ⅲ区	SR01	—	石織	2.0	1.3	0.4	0.66サスカイト			
284	21	Ⅲ区	SR01	—	石織	2.1	1.2	0.2	0.59サスカイト			
285	21	Ⅲ区	SR01	—	石織	2.0	1.5	0.3	0.57サスカイト			
286	21	Ⅲ区	SR01	—	石織	2.2	1.4	0.3	0.84サスカイト			
287	21	Ⅲ区	SR01	—	石織	2.1	1.7	0.3	0.74サスカイト			
288	21	Ⅲ区	SR01	—	石織	2.5	1.6	0.3	0.82サスカイト			
289	21	Ⅲ区	SR01	—	石織	2.5	1.5	0.4	0.76サスカイト			
290	21	Ⅲ区	SR01	—	石織	1.7	1.8	0.4	1,037サスカイト			失敗品か
291	21	Ⅲ区	SR01	—	塊形石器	3.0	2.4	0.8	7,577サスカイト			
442	24	Ⅱ区	SR02	上層下部 暗灰色砂質土	石織	1.8	1.6	0.3	0,947サスカイト			
443	24	Ⅱ区	SR02	上層下部 暗灰色砂質土	石織	1.8	1.4	0.3	0,657サスカイト			
444	24	Ⅱ区	SR02	上層下部 暗灰色砂質土	石織	2.0	1.4	0.3	0,647サスカイト			
445	24	Ⅱ区	SR02	上層下部 暗灰色砂質土	石織	2.2	1.3	0.2	0,557サスカイト			
446	24	Ⅱ区	SR02	上層下部 暗灰色砂質土	石織	2.0	1.5	0.3	0,807サスカイト			
447	24	Ⅱ区	SR02	上層下部 暗灰色砂質土	石織	2.4	1.3	0.3	0,847サスカイト			
448	24	Ⅱ区	SR02	上層下部 暗灰色砂質土	石織	1.9	1.5	0.4	0,897サスカイト			
449	24	Ⅱ区	SR02	上層下部 暗灰色砂質土	石織	2.5	1.3	0.3	0,757サスカイト			
450	24	Ⅱ区	SR02	上層下部 暗灰色砂質土	石織	2.7	1.3	0.3	1,097サスカイト			
451	24	Ⅱ区	SR02	上層下部 暗灰色砂質土	石織	2.4	1.4	0.4	1,087サスカイト			
452	24	Ⅱ区	SR02	上層下部 暗灰色砂質土	石織	1.9	1.9	0.3	1,127サスカイト			
453	24	Ⅱ区	SR02	上層下部 暗灰色砂質土	石織	2.2	1.8	0.2	1,217サスカイト			
454	24	Ⅱ区	SR02	上層下部 暗灰色砂質土	石織	2.4	1.6	0.4	1,257サスカイト			
455	24	Ⅱ区	SR02	上層下部 暗灰色砂質土	石織	2.3	1.9	0.3	1,277サスカイト			
456	24	Ⅱ区	SR02	上層下部 暗灰色砂質土	石織	2.1	2.1	0.3	1,137サスカイト			
457	24	Ⅱ区	SR02	上層下部 暗灰色砂質土	石織	2.6	1.8	0.2	1,447サスカイト			
458	24	Ⅱ区	SR02	上層下部 暗灰色砂質土	石織	2.8	1.7	0.3	1,317サスカイト			
459	24	Ⅱ区	SR02	上層下部 暗灰色砂質土	石織	2.8	1.6	0.4	1,367サスカイト			
460	24	Ⅱ区	SR02	上層下部 暗灰色砂質土	石織	2.8	1.9	0.4	2,037サスカイト			未製品
461	24	Ⅱ区	SR02	上層下部 暗灰色砂質土	石織	2.9	2.4	0.3	1,897サスカイト			
462	25	Ⅲ区	SR02	上層下部 暗灰色砂質土	スレーブバー	2.8	2.5	0.5	3,677サスカイト			やや墨化
463	25	Ⅲ区	SR02	上層下部 暗灰色砂質土	スレーブバー	4.1	2.1	0.9	6,797サスカイト			

地文番号	図版番号	区名	報告遺構番号	土層	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	形態・手法の特徴	備考
464	25	II 区	SR02	上層下部 褐色灰色砂質土	スクレイパー	3.2	2.5	0.7	4.25	サスカイト		石礫か?
465		II 区	SR02	上層下部 褐色灰色砂質土	スクレイパー	4.2	3.5	0.5	10.04	サスカイト		
466		II 区	SR02	上層下部 褐色灰色砂質土	楔形石器	2.8	2.6	0.8	7.85	サスカイト		
467	25	II 区	SR02	上層下部 褐色灰色砂質土	楔形石器	4.3	1.9	1.5	13.42	サスカイト		
468	25	II 区	SR02	上層下部 褐色灰色砂質土	楔形石器	4.8	6.4	2.1	58.55	サスカイト		
469		II 区	SR02	上層下部 褐色灰色砂質土	楔形石器	6.2	5.0	1.6	36.80	サスカイト		
470	25	II 区	SR02	上層下部 褐色灰色砂質土	楔形石器	4.8	6.8	1.3	68.64	サスカイト		
471	25	II 区	SR02	石・土器除去中	石礫	1.6	1.3	0.2	0.49	サスカイト		
472	25	II 区	SR02	石・土器除去中	石礫	1.8	1.4	0.3	0.60	サスカイト		
473	25	II 区	SR02	石・土器除去中	石礫	2.2	1.5	0.3	0.83	サスカイト		
474	25	II 区	SR02	石・土器除去中	石礫	2.2	1.5	0.4	1.20	サスカイト		
475	25	II 区	SR02	石・土器除去中	石礫	2.3	1.7	0.3	1.15	サスカイト		
476	25	II 区	SR02	石・土器除去中	石礫	2.4	1.7	0.4	1.53	サスカイト		
477	25	II 区	SR02	石・土器除去中	石礫	1.9	1.8	0.3	0.96	サスカイト		
478	25	II 区	SR02	石・土器除去中	石礫	2.4	1.8	0.2	1.15	サスカイト		未製品
479	25	II 区	SR02	石・土器除去中	石礫	3.3	1.3	0.5	1.98	サスカイト		上部折損
480	25	II 区	SR02	石・土器除去中	石礫	3.3	2.5	0.5	4.16	サスカイト		未製品
481	25	II 区	SR02	石・土器除去中	スクレイパー	4.6	4.6	0.5	16.83	サスカイト		
482	25	II 区	SR02	—	石礫	1.4	1.3	0.2	0.41	サスカイト		
483	25	II 区	SR02	—	石礫	1.9	1.4	0.3	0.57	サスカイト		
484	25	II 区	SR02	—	石礫	1.9	1.5	0.3	0.71	サスカイト		未製品
485	25	II 区	SR02	—	石礫	1.9	1.4	0.3	0.67	サスカイト		
486	25	II 区	SR02	—	石礫	2.1	1.3	0.4	0.89	サスカイト		
487	25	II 区	SR02	—	石礫	2.1	1.4	0.3	0.77	サスカイト		
488	25	II 区	SR02	—	石礫	2.0	1.6	0.3	0.77	サスカイト		
489	25	II 区	SR02	—	石礫	2.1	1.2	0.3	0.69	サスカイト		
490	25	II 区	SR02	—	石礫	2.1	1.4	0.3	1.04	サスカイト		
491	25	II 区	SR02	—	石礫	2.3	1.3	0.3	0.99	サスカイト		
492	25	II 区	SR02	—	石礫	2.4	1.6	0.2	0.89	サスカイト		
493	25	II 区	SR02	—	石礫	2.4	1.8	0.4	1.12	サスカイト		
494	25	II 区	SR02	—	石礫	2.9	2.1	0.5	2.65	サスカイト		
495	25	II 区	SR02	—	石礫	4.0	1.3	0.4	1.67	サスカイト		失敗品か
496	25	II 区	SR02	—	石礫	1.6	2.3	0.5	1.55	サスカイト		
497		II 区	SR02	—	塊形石器	3.0	1.9	0.6	3.64	サスカイト		
498	25	II 区	SR02	—	塊形石器	4.4	4.7	1.6	23.42	サスカイト		
499	25	II 区	SR02	—	塊形石器	5.0	3.1	0.8	12.85	サスカイト		
500		II 区	SD03	—	石礫	2.7	1.6	0.4	1.42	サスカイト		
501	26	II 区	SD01・SD02	—	石礫	1.8	1.6	0.4	0.94	サスカイト		風化している
502	26	II 区	SD01・SD02	—	石礫	2.2	1.5	0.3	1.05	サスカイト		
503	26	II 区	SD01・SD02	—	楔形石器	4.3	4.0	1.8	51.48	サスカイト		
504	26	II 区	SD03	—	石礫	2.9	2.0	0.5	2.98	サスカイト		未製品
505	26	II 区	SD03	—	石礫	3.2	1.5	0.4	2.29	サスカイト		
506	26	II 区	SD04a	—	石礫	1.7	1.1	0.3	0.35	サスカイト		
507	26	II 区	SD04a	—	石礫	1.7	1.4	0.3	0.50	サスカイト		風化が新しい
508	26	II 区	SD04a	—	石礫	2.5	1.3	0.4	1.09	サスカイト		
509	26	II 区	SD04a	—	石礫	1.9	1.4	0.2	0.54	サスカイト		
510	26	II 区	SD04a	—	石礫	2.4	1.4	0.3	1.05	サスカイト		
511	26	II 区	SD04a	—	石礫	2.9	1.7	0.4	2.04	サスカイト		
512	26	II 区	SD04a	—	石礫	3.4	1.7	0.6	3.29	サスカイト		
513	26	II 区	SD04b	—	石礫	2.6	1.6	0.4	1.64	サスカイト		
514	26	II 区	SD04b	—	石礫	3.6	2.2	0.4	3.51	サスカイト		
515	26	II 区	SD04b	—	石礫	2.5	2.2	0.4	1.99	サスカイト		
516	26	II 区	SD04b	—	石礫	2.0	1.5	0.4	1.03	サスカイト		
517	26	II 区	SD04b	—	石礫	2.5	1.6	0.4	1.21	サスカイト		
518	26	II 区	SD04b	—	石礫	2.2	1.6	0.4	0.77	サスカイト		
519	26	II 区	SD04b	—	石礫	2.0	1.4	0.3	0.86	サスカイト		
520	26	II 区	SD04b	—	石礫	2.4	1.7	0.3	1.02	サスカイト		
521	26	II 区	SD04b	—	石礫	3.3	1.1	0.2	0.87	サスカイト		
522	26	II 区	SD04ab	—	石礫	2.4	1.6	0.5	1.45	サスカイト		
523	26	II 区	SD04ab	—	石礫	2.3	1.5	0.3	0.88	サスカイト		
524	26	II 区	SD04ab	—	石礫	2.5	1.6	0.4	1.21	サスカイト		
525	26	II 区	SD04ab	—	石礫	2.2	1.6	0.4	0.77	サスカイト		
526	26	II 区	SD04ab	—	石礫	2.0	1.4	0.3	0.86	サスカイト		
527	26	II 区	SD04ab	—	石礫	2.4	1.7	0.3	1.02	サスカイト		
528	26	II 区	SD04ab	—	石礫	3.3	1.1	0.2	0.87	サスカイト		
529	26	II 区	SD04ab	—	石礫	2.4	1.6	0.5	1.45	サスカイト		
530	26	II 区	SD04ab	—	石礫	2.3	1.5	0.3	0.88	サスカイト		
531	26	II 区	SD04ab	—	石礫	2.5	1.6	0.4	1.21	サスカイト		
532	26	II 区	SD04ab	—	石礫	2.2	1.6	0.4	0.77	サスカイト		
533	26	II 区	SD04ab	—	石礫	2.0	1.4	0.3	0.86	サスカイト		
534	26	II 区	SD04ab	—	石礫	2.4	1.7	0.3	1.02	サスカイト		
535	26	II 区	SD04ab	—	石礫	3.3	1.1	0.2	0.87	サスカイト		
536	26	II 区	SD04ab	—	石礫	2.4	1.6	0.5	1.45	サスカイト		
537	26	II 区	SD04ab	—	石礫	2.3	1.5	0.3	0.88	サスカイト		
538	26	II 区	SD04ab	—	石礫	2.5	1.6	0.4	1.21	サスカイト		
539	26	II 区	SD04ab	—	石礫	2.2	1.6	0.4	0.77	サスカイト		
540	26	II 区	SD04ab	—	石礫	2.0	1.4	0.3	0.86	サスカイト		
541	26	II 区	SD04a	—	石礫	2.9	1.7	0.4	2.04	サスカイト		
542	26	II 区	SD04a	—	石礫	3.4	1.7	0.6	3.29	サスカイト		
543	26	II 区	SD04b	—	石礫	2.6	1.6	0.4	1.64	サスカイト		
544	26	II 区	SD04b	—	石礫	3.6	2.2	0.4	3.51	サスカイト		
545	26	II 区	SD04b	—	石礫	2.5	2.2	0.4	1.99	サスカイト		
546	26	II 区	SD04b	—	石礫	2.0	1.5	0.4	1.03	サスカイト		
547	26	II 区	SD04b	—	石礫	2.5	1.6	0.4	1.21	サスカイト		
548	26	II 区	SD04b	—	石礫	2.2	1.6	0.4	0.77	サスカイト		
549	26	II 区	SD04b	—	石礫	1.7	1.5	0.3	0.65	サスカイト		
550	26	II 区	SD04b	—	石礫	1.3	1.9	0.4	0.98	サスカイト		
551	26	II 区	SD04b	—	石礫	2.4	1.6	0.3	1.03	サスカイト		
552	26	II 区	SD04b	—	石礫	2.8	1.7	0.5	2.09	サスカイト		
553	26	II 区	SD06	—	塊形石器	2.6	2.1	0.8	5.34	サスカイト		
554	26	II 区	SD06	—	石礫	1.7	1.3	0.2	0.37	サスカイト		
555	26	II 区	SD06	—	石礫	2.1	1.6	0.3	0.95	サスカイト		
556	26	II 区	SD06	—	石礫	2.5	1.7	0.3	1.07	サスカイト		
557	26	II 区	SD06	—	石礫	2.4	1.7	0.3	0.99	サスカイト		
558	26	II 区	SD06	—	石礫	2.0	1.4	0.3	0.89	サスカイト		
559	26	II 区	SD06	—	石礫	2.2	1.3	0.3	0.79	サスカイト		
560	26	II 区	SD06	—	石礫	2.1	1.6	0.3	0.95	サスカイト		
561	26	II 区	SD06	—	石礫	2.5	1.7	0.3	1.07	サスカイト		
562	26	II 区	SD06	—	石礫	2.4	1.7	0.3	0.99	サスカイト		
563	26	II 区	SD06	—	石礫	2.0	1.4	0.3	0.89	サスカイト		
564	26	II 区	SD06	—	石礫	2.2	1.3	0.2	0.37	サスカイト		
565	26	II 区	SD06	—	石礫	2.1	1.6	0.3	0.95	サスカイト		
566	26	II 区	SD07	—	石礫	2.5	1.7	0.3	1.07	サスカイト		
567	26	II 区	SD07	—	石礫	2.4	1.7	0.3	1.05	サスカイト		
568	26	II 区	SD07	—	石礫	1.5	1.7	0.3	0.68	サスカイト		
569	26	II 区	SD07	—	石礫	2.3	1.5	0.4	1.19	サスカイト		
570	26	II 区	SD07	—	スクレイパー	5.1	3.4	0.7	18.79	サスカイト		

報文 番号	図版 番号	区名	報告遺構番号	土層	器種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	形態・手法の特徴	備考
599	Ⅲ区	SD08			石鏡	1.8	1.4	0.4	0.66	サヌカイト		
605	Ⅲ区	①上面精査			石鏡	2.5	1.6	0.4	1.25	サヌカイト		
606	Ⅲ区	②上面精査			楕形石鏡	2.7	3.9	0.9	7.48	サヌカイト		
607	28	Ⅲ区	③上面精査		楕形石鏡	5.3	8.9	2.1	106.25	サヌカイト		
608	28	Ⅲ区	④上面精査		楕形石鏡	5.6	6.8	1.7	82.97	サヌカイト		

# 図版



I区①全景（北から）



II区①③全景（南から）

図版 2



I区全景（南から）



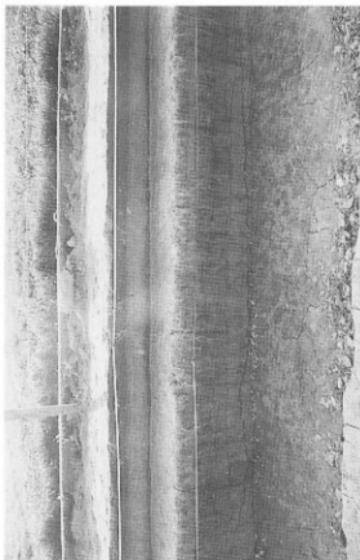
II区①全景（北から）



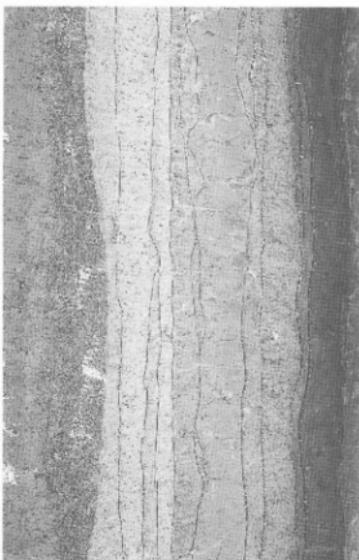
II区②南半・④全景（南から）



II区③全景（南から）



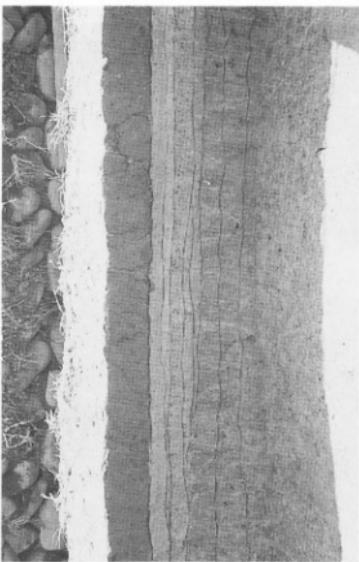
I区②西壁土層 (南から14.5m付近) (東から)



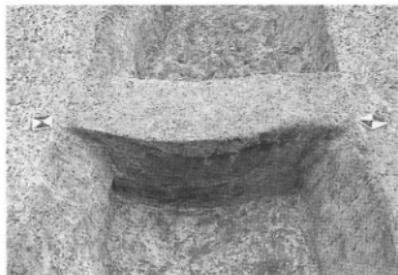
II区④西壁土層 (北から4m付近) (東から)



I区北壁土層 (東端附近) (南から)



II区②南壁土層 (西から5m付近) (北から)



I区 SD01 断面（北から）



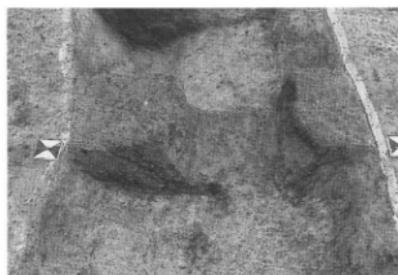
I区 SD02・03 断面（北から）



I区 SD04 断面（南東から）



I区 SD05 断面（南東から）



I区 SD08 断面（東から）



I区 SD11 断面（北から）



I区 SD09 遺物出土状況（北から）



I区 SP01 遺物出土状況（南から）